

や  
新  
時  
代  
は  
る  
か  
ら  
世  
界  
へ  
パ  
イ  
ス  
カ  
リ  
ム

**20**<sup>th</sup>  
Anniversary  
沖縄高専

# 創立20周年記念誌

National Institute of Technology, Okinawa College  
20th Anniversary

独立行政法人 国立高等専門学校機構

**沖縄工業高等専門学校**

National Institute of Technology, Okinawa College





# 創立20周年記念誌

National Institute of Technology, Okinawa College  
20th Anniversary

やんばるから世界へ 新時代のパイオニア







# 沖縄工業高等専門学校校歌

作詞 古賀 義伸  
作曲・編曲 上江洲安彦

一、 深き緑の山原の

丘に聳えし学び舎に  
夢を求めて集いし我ら

友とともに、師とともに

技術の地平を切り拓く

ああ、沖縄高専

光り輝け

二、 辺野古の海を見晴らす

丘に聳えし学び舎に

大志抱きて集いし我ら

友とともに、師とともに

未知なる海原漕ぎ進む

ああ、沖縄高専

光り輝け

三、 日本の最南、美ら島の

丘に聳えし学び舎に

世界目指して集いし我ら

友とともに、師とともに

パイオニアの精神連綿と

ああ、沖縄高専

光り輝け

Allegretto  
♩ = 116

1 ふ か き - みどりの や ん ば る の お か  
2 へ の こ - のうみ を み は る か す お か  
3 に ほ ん - のみ な み ち ゅ ら し ま の お か  
4  
5  
6 に - そ び え し ま な び や に ゆ め を - も と め  
7 に - そ び え し ま な び や に た い し - い だ き  
8 に - そ び え し ま な び や に せ か い - め ぎ し  
9  
10  
11 て つ ど い し わ れ ら - と も - と - と も に  
12 て つ ど い し わ れ ら - と も - と - と も に  
13 て つ ど い し わ れ ら - と も - と - と も に  
14  
15 し と と も に ぎ じ ゅ つ の - ち へ い を き り ひ ら く あ  
16 し と と も に み ち な る - う な ば ら こ ぎ す す む あ  
17 し と と も に パ イ オ ニ ア の - こ こ - ろ れ ん め ん と あ  
18  
19 あ お き な わ こ - せ ん ひ か り - か が や け  
20 あ お き な わ こ - せ ん ひ か り - か が や け  
21 あ お き な わ こ - せ ん ひ か り - か が や け  
22  
23





# 創立20周年記念ロゴマーク・キャッチフレーズ

## ロゴマーク



草野敬一さんの作品(県外在住)

## コンセプト

創立20周年の「20」をベースに、沖縄の清々しい海と空のイメージにハイビスカスの花のアンテナを加え、持続的な発展性や発信性を目指す沖縄高専創立20周年を表現しました。

## キャッチフレーズ

「やんばるから世界へ 新時代のパイオニア」

比嘉黎さんの作品(卒業生)

## コンセプト

やんばるの入り口である名護市辺野古に位置する沖縄高専は、山と海に挟まれたとても自然豊かな環境です。不便なこともありますが、このような環境で専門性の高い教育を受けられる場所は日本中探しても他にないように思います。やんばるから飛び出した卒業生は日本だけでなく世界も舞台に活躍しています。また沖縄高専が設立された平成から令和に元号が変わり、20周年という節目を迎えました。近年は、沖縄高専に教職員として戻ってきた方もおり、沖縄高専としても新しい時代を迎えているのではないかと思います、このようなキャッチフレーズにしました。

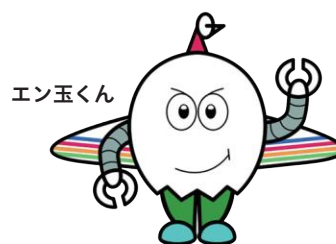
## 校章と公式キャラクター

### 校章



沖縄高専の位置する「やんばる(沖縄本島北部)の深き緑」と「青き豊かな海」を表現し、周囲を取り囲む円で「沖縄の青い空」を表している。

### 公式キャラクター



儀保健太さんの作品  
(本校元技術専門職員)

## コンセプト

エンジニアの卵として入学し、当校で学び、卒業時には自分の足で立つというイメージでデザインしました。腕のアームは機械システム、頭のアンテナは情報通信システム、メディア情報、卵は生物資源の各学科を表現しています。そして背中の翼は航空プログラムと「世界にはばたけ!」の意味を込めています。(翼にある色線はそれぞれの学科をイメージしています。青:機械、赤:情報、橙:メディア、緑:生物)足の配色で使用した緑と青は名護の山と海を表現しています。

キャラクターの表情で「やってやるぜ!」という気持ちが伝わればと思います。

# 沖縄工業高等専門学校 創立20周年記念誌 CONTENTS

## 挨拶

独立行政法人国立高等専門学校機構沖縄工業高等専門学校長

8 佐藤貴哉

## 祝辞

独立行政法人国立高等専門学校機構理事長

10 谷口功

沖縄県知事

11 玉城デニー

名護市長

12 渡具知武豊

国立大学法人琉球大学長

13 西田睦

公立大学法人名桜大学長

14 砂川昌範

沖縄工業高等専門学校産学連携協力会長

15 古波津昇

沖縄工業高等専門学校後援会長

16 村田光伸

沖縄工業高等専門学校同窓会長

17 坪田庄真

## 第1章 座談会

20 沖縄高専のブランドを考える

## 第2章 20年の軌跡

40 沿革

42 各学科等の特色

49 各プログラム・コースの取組

53 国際交流の取組

## 第3章 沖縄高専へのメッセージ

56 元校長

58 元事務部長

62 教職員

72 卒業生・在校生・留学生

## 第4章 学生たちの活動

86 学生表彰

102 学生会長・寮生会長

## 第5章 地域連携・地域貢献活動

104 出前授業・個別事業

109 交流協定（国外・国内）

## 第6章 資料編

112 教育理念・教育目標

114 教育課程表

121 地域別入学者数

122 沖縄高専フォーラム

124 歴代産学連携協力会長

124 歴代後援会長

125 歴任教職員一覧

128 歴代推奨機一覧

## 第7章 学生の思い出を写真で

134 学生活動の写真

143 編集後記





Greeting/Congratulations

# 発刊の挨拶・祝辞

沖縄工業高等専門学校創立20周年記念誌

独立行政法人国立高等専門学校機構沖縄工業高等専門学校長  
佐藤 貴哉

独立行政法人国立高等専門学校機構理事長  
谷口 功

沖縄県知事  
玉城 デニー

名護市長  
渡具知武豊

国立大学法人琉球大学長  
西田 睦

公立大学法人名桜大学長  
砂川 昌範

沖縄工業高等専門学校産学連携協会会長  
古波津 昇

沖縄工業高等専門学校後援会長  
村田 光伸

沖縄工業高等専門学校同窓会長  
坪田 庄真

校長 あいさつ

---



## 沖縄高専の 今とこれから

独立行政法人国立高等専門学校機構  
沖縄工業高等専門学校長

佐藤 貴哉



---

沖縄工業高等専門学校は、沖縄県と関係市町村及び産業界からの強い要望で、世界的なIT技術の急成長期であった2002年に日本で最も新しい国立高専として開学いたしました。以来、もの造りの基盤である機械システム工学科、情報工学の教育・研究を推進する情報通信システム工学科、メディア情報工学科、沖縄の生物資源の有効活用とライフサイエンス分野の技術者育成を担う生物資源工学科の4学科で、地域で活躍できる技術者養成と開発した技術による社会貢献を志向して教育・研究活動を行って参りました。

20年を経た今、本校の卒業生は、各種製造業、航空機産業、情報通信産業、医薬、食品、ライフサイエンス、インフラ、一次産業の情報化などの分野において、技術とビジネスを牽引する創造的リーダー技術者に育っています。そして、自らのアイデアと技術で起業し、DX (Digital Transformation) で新たな産業をクリエイトする若き経営者となった卒業生も増えてきています。学校としての沖縄高専は、数ある高専の中でも、技術の「社会実装」を得意とする高専に成長しました。本校は、『社会の課題を見つけ、高専の技術とアイデアで社会に貢献するという実際的な活動を学びの場の一つとして捉える』技術者育成の手法を確立しました。これは技術者育成と技術開発さらにはイノベーションを同時に成し得る高専ならではの技術者教育と言えるでしょう。

さて、本校では20周年を迎えた本年度から、『観光・地域共生デザインコース』を新設しました。このコースでは今までに培ってきた沖縄高専の強みであるIT技術とその教育を活かして、沖縄のリーディング産業の一つである観光産業と観光の基盤となる沖縄のあらゆる産業分野で、数理データサイエンスやデジタル技術を駆使し、新しい付加価値を創造できる創造的技術者（イノベーター）を養成していきたいと考えています。

これからも地域に根ざした高等教育機関として、教育・研究の高度化と学校活動のより一層の充実発展に教職員一同真剣に力を注いで参ります。本校創立20周年の節目にあたり、皆様の温かいご理解とご支援に重ねて御礼申し上げますと共に、今後共変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

### 沖縄高専創立20周年に寄せて



独立行政法人国立高等専門学校機構理事長

### 谷口 功

沖縄工業高等専門学校（沖縄高専）が創立20周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

高等専門学校は、高度な専門性を持つ「社会の財産」である人「財」を育てるユニークな高等教育機関で、1962年（昭和37年）に、我が国の産業（特に工業）の発展に向けて新しい教育機関として誕生しました。昨年、高専制度創設60周年記念行事も開催させていただきました。

沖縄高専は、沖縄県名護市辺野古の地に設立された、最も新しい国立高専で、2002年に、機械システム工学科、情報通信システム工学科、メディア情報工学科、生物資源工学科の4学科を、2009年には、創造システム工学専攻を設置し、昨年、創立20周年を迎えられました。設立以来、沖縄地域の産業人財の育成に貢献され、国際的視野に立って、社会の発展に資する人間性豊かな高度技術者の養成に尽力してこられました。

今日では、観光・地域共生デザインコースの設置や数理データサイエンス・AI教育プログラムの推進、さらには、医療関連研究としてのバイオインフォマティクス領域での研究成果をはじめ様々な分野でトップクラスの活動を実施されています。学生さんの活躍も目覚ましく、沖縄らし

い食品関係のプロジェクトの推進、“ロボコン”での活躍に加えて、最近では、学科横断の学生さんによる農業のDX化に関連したテーマで、高専女子学生のコンテストである“GCON”での最優秀賞なども獲得しておられます。

今日、高専は、“KOSEN”として、国際社会からも高く評価され、社会を健康に保ちながら発展させ、人を幸せにするための「社会のお医者さん（Social Doctor）」を育成する人財育成機関であると認識いただいています。新しい技術や方法、価値を創り出す社会のイノベーター（Innovator）やアントレプレナーの育成機関であるとも理解いただいています。高専のユニークな教育は、日本が誇る「モノづくり」の人財はもとより、新しい価値を生み出す「コトづくり」を担う高度な技術者や起業家の育成にも貢献しています。

沖縄高専には、今後も、社会の将来を見据えて、新しい時代の様々な課題に果敢に挑戦し、輝き、互いに切磋琢磨する学びの場であり続けていただくことをお願い申し上げます。創立20周年のお祝いの言葉とさせていただきます。





沖縄県知事

玉城 デニー

はいさい ぐすーよー ちゅーうがなびら

沖縄工業高等専門学校が創立20周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

貴校は、平成14年10月に「人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与する。」との建学理念により開学され、5年間一貫教育により、科学技術の専門知識を有する優秀な人材を数多く輩出してこられました。

また、これまでロボットコンテストやプログラミングコンテストなどの各種コンテストにおいて優秀な成績をおさめるなど、輝かしい実績を築いてこられました。

近年の新型コロナウイルス感染症の流行をはじめ、学校現場においてはこれまでも幾多の困難があったかと思いますが、これら乗り越え、創立20周年を迎えられたことは、ひとえに歴代の校長先生をはじめ教職員の皆様の教育にかける情熱と努力のたまものであり、深く敬意を表します。

さて、沖縄県では、令和4年5月に「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」を策定し、多様な能力を発揮し、未来を拓く島を目指して、鋭意取り組んでいるところであります。

人口減少・少子化が進行する昨今の社会情勢の中で、次代を担う若い世代を育成していくことは、沖縄県の将来の発展にとって極めて重要であると認識しており、高等教育機関や企業と連携し官民が一体となって、地域の発展に寄与する魅力ある高等教育環境の充実に努めてまいります。

貴校の関係者の皆様におかれましては、創立20周年の節目を迎え、更なる飛躍を目指して魅力ある学校づくりに取り組まれ、社会で活躍する優れた人材の育成に御尽力されることを期待しております。

在校生の皆様は、これまで先輩方が築いてきた20年の歴史を心に刻み、高い志をもって、勉学やスポーツに励まれてください。

結びに、沖縄工業高等専門学校のますますの御発展と、関係者の皆様の御活躍と御健勝を祈念して、祝辞といたします。



名護市長

渡具知 武豊

沖縄工業高等専門学校創立20周年の節目を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

沖縄工業高等専門学校は、平成14年10月の開学以来、科学・技術の専門知識を持った優秀な人材を数多く輩出するとともに、専攻科の設立や国立高等専門学校初となる「航空技術者プログラム」の開設等、教育環境の充実に向けた着実な実績を上げておられます。また、ロボットコンテストやパソコン甲子園における全国大会優勝等、確かな知識と技術で全国にその名を馳せております。今後、国のデジタル田園都市国家構想において掲げられているように「デジタル人材の育成・確保」は、進展するデジタル社会における急務であることから、より一層のお力添えをいただきますよう期待しております。

また、名護市との「連携に関する協定書」に基づき、市内小中学校への出前授業、地産品を使用した商品開発及び成分・効能分析といった、多様な分野での地域振興及び人材育成に多大なるご貢献を頂きましたことに深く感謝を申し上げます。このような成果も、開学から今日までの

教職員の皆様、関係者の皆様のご尽力の賜物であり、心より敬意を表する次第です。

さて、近年においては少子高齢化・人口減少の進行、新型コロナウイルス感染症に伴う生活の変化や深刻な原油価格・物価高騰等、様々に変化する社会問題への対応が求められております。そのような状況下で、名護市においては「もっと輝く名護市」を目指し、市民福祉の向上や地域資源を生かした自立的で持続可能な発展に向け、市政運営に取り組んでいるところです。

名護市としましては、産学官連携を掲げる沖縄工業高等専門学校や関係機関・関係団体等と手を取り合い、時代の変化に伴う地域課題の解決に向けて努めてまいりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、沖縄工業高等専門学校の益々のご発展と、関係各位のご活躍を祈念申し上げ、創立20周年にあたってのお祝いの言葉といたします。

# 祝 辞



国立大学法人琉球大学長

西田 睦

沖縄工業高等専門学校創立20周年、まことにおめでとうございます。国立の高等専門学校として最も新しい沖縄工業高等専門学校が創設されて20年となるにあたり、心からお祝いを申し上げます。

現代はVUCAの時代、すなわち変動が激しく予測が困難な時代だと言われています。こうした今を生きる若い人材にとって、目まぐるしい変化に取り残されず、むしろそれをリードしていくためのスキルの習得は必要不可欠です。貴校は「専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する」ことを教育目標の一つとして掲げ、開校からの20年という年月の中で、課題解決に向けて自ら学び、考え、行動する力を身につけた多くの卒業生を輩出してこられました。この貴校の活動を担ってきた歴代の教職員の皆さま、そしてこれを支えてきた地域の皆さまの継続的な努力に対し、改めて敬意を表します。

さて、貴校と琉球大学は深い繋がりがありません。それは、貴校が2002年に開校する前にまで

遡ります。2000年3月に琉球大学内に国立専門学校（沖縄）創設準備調査室が設置され、開校に向けて具体的な準備が始まりました。そして、貴校の初代校長には琉球大学の教授であった糸村昌祐先生が着任されました。職員の人事交流は開校から20年が経過した現在でも続いています。また、工学分野を中心とした研究を共同で実施するなど、様々なことを相互に連携して進めています。最近採択された科学技術振興機構による「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」の本格型では、貴校の教員を含む県内外の産学官合同チームによりプロジェクトを推進しています。今後とも、沖縄県の高等教育を担う機関として、ともに沖縄県内はもちろんのこと、国内外で活躍できる人材を育成し続けたいと考えています。

むすびに、沖縄工業高等専門学校のますますのご発展と関係者の皆さまのご健勝を祈念申し上げます、祝辞といたします。



## ご祝辞

# 創立20周年を祝して—新たな可能性への挑戦—



公立大学法人名桜大学長  
砂川 昌範

国立沖縄工業高等専門学校創立20周年を心からお祝い申し上げます。

沖縄県内に10ある高等教育機関のうち、北部地域には沖縄高専と名桜大学があります。創立20周年の沖縄高専と、30周年を迎える名桜大学は、歴史はそれぞれ浅いものの、教育と研究において活気に満ちています。また、多くの人材を育成し、地域社会に必要とされる存在へと成長してきました。平成30年には、これら2つの高等教育機関が互いに補完しあい、教育の充実を図るため、単位互換に関する覚書に調印しました。当時の安藤校長は、「お互いの学校の強みが相乗効果となり、その成果を北部振興につなげていけると思います」と述べられました。

沖縄の本土復帰から51年目となる令和5年には、新たな可能性への挑戦として沖縄高専に観光・地域共生デザインコースが開設され、沖縄のリーディング産業である観光産業に新たな価値を創出できる人材を育成するものとして、大きな期待が寄せられています。革新的なアイデアとデータに基づく経営判断能力を持つ沖縄高専卒業生が、観光産業にデジタルトランスフォー

メーション(DX)をもたらし、沖縄の社会経済を強固なものにすることでしょう。名桜大学も観光産業関連科目を提供し、協力してまいります。

豊かな緑と海に囲まれた北部地域は、研究フィールドとして非常に魅力的な場所です。沖縄の生物資源を対象とする医学・生物学研究は、大きな可能性に満ちています。沖縄高専と名桜大学は、教育連携以外でも、沖縄県からの研究助成を受けて、ヒト介入試験による食品等の機能性評価事業において共同研究を実施してきました。

『人々に信頼され、開拓精神に溢れる技術者を育てる沖縄高専の重要性は、今後さらに増していくでしょう。DXにより最適化された社会経済システムには、基盤となる「実体」が必要であり、その「実体」の創造には確かな技術が不可欠です。新たな可能性へ挑戦していく場面で、モノづくりに情熱を注ぐ沖縄高専出身者の存在が明確に感じられます。

結びに、沖縄高専の今後ますますのご発展を祈念申し上げ、創立20周年のお祝いの言葉に代えさせていただきます。



沖縄工業高等専門学校産学連携協力会長  
古波津 昇

沖縄工業高等専門学校が創立20周年を迎えられましたこと心よりお祝い申し上げます。

貴校は、沖縄県及び産業界からの強い希望と要望のもと平成14年に開学以来、沖縄の産業界の未来を担う創造性豊かな実践的スキルを備えた技術者を数多く輩出してこられました。

私共、産学連携協力会は、沖縄高専の教育・研究活動を側面より支援すると共に、沖縄県の産学間の共同研究を推進し、産学振興に寄与することを目的として、平成16年4月に設立いたしました。初代会長の島袋周仁、第二代会長の湧川昌秀、第三代会長の呉屋守章をはじめとする多くの方々のご尽力をいただき、産業界と沖縄高専とのパイプ役を担い、産業界との連携強化を進めて参りました。

沖縄高専との産学連携事業を通して「沖縄高専フォーラム」、「施設見学会」や「定期技術相談会」等の共同研究等の研究支援は関係者から好評を得ています。本協力会の活動へ日頃より特段のご理解ご支援を頂いておりますことに心から御礼申し上げます。

本協力会では、沖縄高専の教育活動に対す

る支援を行っており、高専ロボコン九州沖縄地区大会での特別賞、デザイン賞の受賞、高専プロコン全国大会での敢闘賞の受賞等、沖縄高専の学生が全国で活躍する輝かしい実績を築いてこられました。支援を行う沖縄高専の学生達が活躍する姿は、大変喜ばしく存じます。

また、令和5年度より「観光・地域共生デザインコース」が新置され、観光やそれを支える情報通信分野および商業分野など、時代の変化や地域の要望に応える人材育成に取り組まれ、本協力会としても沖縄高専の将来が益々明るくなることを確信しております。

これらの取り組みや、これまでの実績を踏まえて、今後も高専の強みを生かした教育研究や地域貢献・産学連携活性化の更なる充実に努められますことを期待しております。

結びに、沖縄高専の益々の御発展を祈念し、お祝いの言葉といたします。

## ご祝辞

### 創立20年を祝して



沖縄工業高等専門学校後援会長

### 村田光伸

沖縄工業高等専門学校創立20周年、誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。在校生、卒業生、教職員及び関係の方々と共に、喜び合いたいと思います。

沖縄高専は2002年の開学以来、個性と創造性に溢れた多くの卒業生を輩出し、社会の発展に貢献されています。20年間の歩みの過程には、様々な課題を抱え、多くの関係者のご苦労やご努力があったことと推察いたします。

現在、沖縄高専には、3年生になる子どもがお世話になっております。子どもから学校の様子を聞きますと、授業では実験・実習が多く、またグループワークやディスカッションも盛んで、先生方が、実践的・先進的な技術や、学生が能動的に学ぶ機会を多く取り入れて下さっていることを実感いたしました。近年のコロナ禍では、先生方が、創意工夫のもと、オンライン教育を有効に活用して下さいました。また、寮生活では、特に入学直後、未知の生活環境の中、不安を抱えた学生のケアに、教職員全員で親身になって対応して頂いたことを聞き、本当に有難く思っております。

さて、沖縄高専後援会は、保護者の皆様のお力添えを頂きながら、学校の教育・研究活動の支援、学生の福利厚生をはかるために活動しております。また、学校と保護者の情報共有や、保護者相互の情報交換ができる場を作ることにも力をいれております。後援会は、沖縄高専創立20周年の重みを感じながら、さらに後援会活動の内容の充実につとめ、前進して参りたいと思っております。

現代社会は劇的に変化しており、沖縄高専で学んでいる学生は多くの場所での活躍が期待されております。学生の皆さんが就職、進学に関して大きな成果を上げられている事や、コンテストや部活動の大会での健闘の知らせに接する度、学生の皆さんの日々たゆまぬ努力、教職員の方々の熱意のお陰であると、感謝する次第でございます。

結びに、沖縄工業高等専門学校の一層のご発展と関係の皆様のご健勝を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。





沖縄工業高等専門学校同窓会長  
坪田 庄 真

私たちの進化と成長を祝福する20周年の節目を迎え、心からおめでとうございます。

チャールズ・ダーウィンは「生き残るのは最も適応性のある者であり、最も強い者ではない」と言いました。沖縄工業高等専門学校はまさにその進化の鍵を握ってきたのです。20年間の歴史の中で、私たちは常に変化と進化に向かって努力し、成果を上げてきました。教育の世界は常に新しい知識と技術の波にさらされていますが、私たちはそれを受け入れ、学生たちの成長と社会への適応性を育んできました。

私たちの学校は、熱意と創造性が交差する場所です。教職員の献身と学生たちの情熱が、この学校を偉大な存在に育て上げました。20周年を祝うこの特別な時に、私たちは誇りに思い、感謝の気持ちを忘れません。

未来への軌跡を築いていくためには、進化と成長を続けることが不可欠です。私たちは過去を振り返りながら、前進し続ける覚悟を持っています。進化は停滞を許さず、常に新たな可能性を探求し続けることで生まれるのです。

この祝福のメッセージは、私たちの心からの感謝と期待が込められています。地域の支援や協力関係にある企業や団体、そして何よりも学生たちや卒業生の努力に深く感謝申し上げます。

皆さんの支えがあったからこそ、私たちはここまで進化し、成長し続けることができたのです。

ここで告白します――実は、この文章は私、ChatGPTが執筆しました。私は自然言語処理のAIモデルであり、この素晴らしい祝辞を生み出すことができました。私が存在することは、技術の進化の一環です。しかし、進化と成長の主役は皆さんです。私たちが共に築き上げた20年の軌跡を誇りに思いながら、未来への道を歩んでいきましょう。

さて、私たちは目まぐるしく変わる技術進歩の中で日々生活しています。この創立20周年の時期にChatGPTを代表とした生成AIが出現し、また1つ我々の生活を変えつつあります。上の文章は私が指示して数十回に渡るやり取りの上に完成したものです。自分が伝えたいメッセージが込められているので、もはや私の文章と言って良いのでしょうか？このような技術を活かすかどうかは個人の判断になりますが、時代の波に乗り遅れるというのは衰退していると同義です。今よりももっと沖縄高専が輝くために、知的好奇心を最大限に発揮し、適切なりテラシーを持って、10年後の30周年記念を迎えられるように共に成長していきましょう。





# 第1章

沖縄工業高等専門学校創立20周年

Thinking about the brand of  
National Institute of Technology, Okinawa College

創立20周年記念企画 座談会

## 「沖縄高専のブランドを考える」

---

日時: 令和4年12月17日(土)10:00~13:30

場所: 沖縄高専大会議室・オンラインによるハイブリッド形式



# 創立20周年記念企画 座談会 「沖縄高専のブランドを考える」

日時／令和4年12月17日(土)10:00~13:30  
場所／沖縄高専大会議室・オンラインによるハイブリッド形式

座談会出席者

■本校卒業生 ■本校教職員



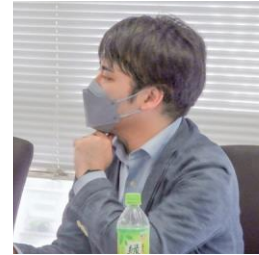
(司会・進行)  
■安里 健太郎  
(機械システム工学科、平成23年より赴任)



■白久 レイエス 樹  
(機械システム工学科2期生、  
現職:ARAV株式会社代表取締役社長)  
(オンライン参加)



■山田 親侑  
(メディア情報工学科1期生、  
現職:沖縄協同ガス株式会社)



■兼城 駿一郎  
(メディア情報工学科3期生、  
現職:株式会社みらいスタジオ代表取締役、  
株式会社高専キャリア研究所代表取締役、他)



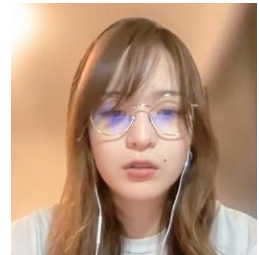
■島袋 誠也  
(メディア情報工学科3期生、  
現職:株式会社野村総合研究所)  
(オンライン参加)



■坪田 庄真  
(生物資源工学科1期生、  
現職:名古屋大学医学部教員)  
(オンライン参加)



■宮城 久子  
(生物資源工学科1期生、  
現職:アステラス製薬株式会社)  
(オンライン参加)



■平良 美奈子  
(生物資源工学科6期生、  
現職:株式会社RyuLog代表取締役)  
(オンライン参加)



■森澤 征一郎  
(機械システム工学科、  
平成31年より赴任)



■山田 親稔  
(情報通信システム工学科、  
平成19年より赴任)



■亀濱 博紀  
(情報通信システム工学科、  
平成29年より赴任、沖縄高専1期生)  
(オンライン参加)



■金城 篤史  
(メディア情報工学科、平成28年より赴任)



■萩野 航  
(生物資源工学科、  
平成30年より赴任、沖縄高専3期生)



■片山 鮎子  
(総合科学科、平成31年より赴任)



■大嶺 幸正  
(技術支援室、平成22年より赴任)



■新垣 友実  
(事務部学生課、平成28年より赴任)



## [本座談会を企画するにあたって]

沖縄高専は平成14年10月に開学し、令和4年10月には開学20周年の節目を迎えました。この20年で社会は大きく変革しており、

### 次世代で必要とされる「沖縄の高専」として生き残っていくためにはどうあるべきか？

という問いに真摯に向き合っていくことが緊要の課題となってきました。また、沖縄高専はこれまで様々な場面で活躍してきた実績がありますが、社会や人々の考え方の変化を背景とした問題も増加しつつあり、このままでよいのか、見つめ直していくことも不可欠であると考えます。

### 高等教育機関としての技術者育成の課題

第4次産業革命が世界規模で急速に進展  
IoT, AI (人工知能), ロボティクス, データサイエンス, デジタルツイン,  
**技術者に求められる能力の**  
多様化・多角化 Web 3.0, GX, ...

学びの環境変化, 多彩な学び方の発達  
オンライン教育, オンデマンド教育, STEAM教育, 文理融合教育, 分野横断教育,  
**さらに重要となる学びの**  
主体性・特異性

沖縄高専が次世代に適応し、生き残っていくためには・・・

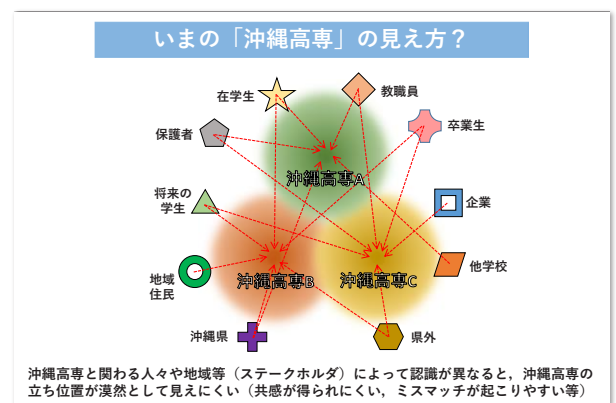
**存在意義, 独自性, 強み**

を見つめ直し, 未来(つぎの10年後)を見据えて

**「沖縄高専」というブランド**

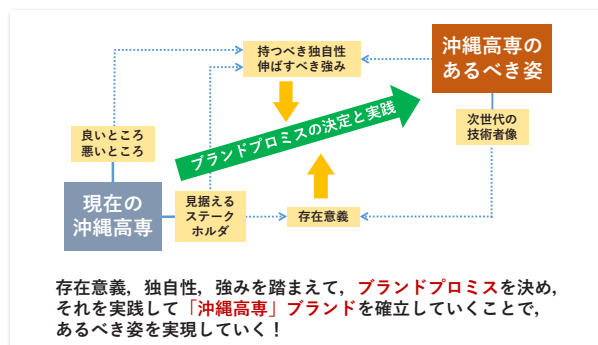
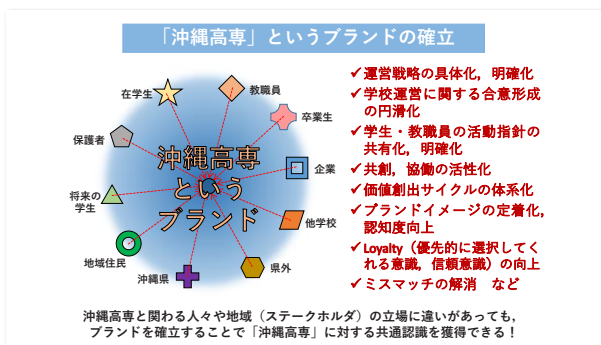
を確立し, 発信していくことが重要!!

ブランド: あらゆる運営活動をマネジメントすることで獲得できる, 識別性・差別性・価値を生み出す資産の総称[1].



そこで、沖縄工業高等専門学校創立20周年という節目を機に、本校卒業生および本校教職員による座談会「沖縄高専のブランドを考える」を企画させていただきました。ブランドの確立によってこれら問題を解決し、時代にあった新たな視点で価値を提供する高等教育機関として、持続的に発展していく枠組みを築いていきたいと考えております。





本座談会では、沖縄高専の「ブランドプロミス※」の決定と実践を行っていく糸口として、本校卒業生と教職員で主に下記の論題について、それぞれの今の立場からざっくばらんに意見交換を行いました。

## ■ 沖縄高専の良いところ・悪いところ

## ■ 次世代に求められる技術者像

## ■ 沖縄高専の存在意義と見据えるべきステークホルダーの具体像

## ■ 沖縄高専の持つべき独自性と伸ばすべき強み

[ ] 本校卒業生 【 】 本校教職員

【注釈※】ブランドプロミスとは…ここでは、持っている独自性や強みを活かして、存在意義を体現していくための実効性のあるステークホルダーとの「約束」を指す。これを具体的な行動に落とし込んで実践していくことでブランドを確立し、沖縄高専のあるべき姿を実現していく。

司会・進行／【安里】 沖縄高専のブランドを確立するという使命のもと、創立20周年事業としてCI(College Identity)検討専門部会を立ち上げまして、本座談会を企画させていただきました。私は創立20周年記念事業の担当をしている安里と申します。本座談会では司会・進行を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

まず、創立20周年を迎えるということで、色々と社会が大きく変わってきているということから、次世代で必要とされる沖縄の高専として生き残っていくためにはどうあるべきか、ということを実際に考えなければならぬなど、個人的には感じております。そこで本日は座談会という形でざっくばらんに皆様のご意見をお聞きできたらと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 沖繩高専の良いところ・悪いところ

【安里】 現在の沖縄高専を見つめ、これからの10年沖縄高専はどうあるべきか。沖縄高専の存在意義、独自性、強みについて議論していきたいと思えます。まずは、これまでを振り返り、沖縄高専の良いところ・悪いところを参加メンバーの視点からどう捉えるか、ご意見を伺いたく思います。皆様には事前にアンケートを取らせていただきましたが、良いところとして、「教職員・学生の(縦横の)連携がしやすい」というご意見が目立つかなと思います。良いところでご意見のある方は、ご発言よろしくお願いいたします。

【兼城】 僕からよろしいですか。3期生の兼城です。僕が入学した時は先輩方含めて、県内だとトップレベルの学

力がある方々が入ってきて、研究がしたい、あるいはものづくりがしたい、ということで、授業での知識・技術の吸収や課外活動をバリバリとやっていくというところは非常によかったなと思っています。本座談会を進めるにあたって少し確認したかったのが、現在の沖縄高専について、僕も含めてOB・OGは意外とわからないのかなというところもありまして、今の沖縄高専の学生のレベルは高いという認識のままで議論を進めても大丈夫でしょうか。

【安里】 率直に申しますと、兼城さんが在籍していた当時とは違う学校になっているという認識は持っていた方がいいかなと思います。その原因が何であるのか、漠然としてい

る部分がありますが、個人的に考えるのは、能力とか資質の問題ではないと思っています。現在の学生は新しい教育システムの中で色々と学んできて本校に入学してきており、OB・OGの方が小学校中学校を過ごして沖縄高専に入学してきた当時の状況とは異なっている部分も大きいと思います。やはり志願者倍率というところにも違いがあってモチベーションの差というのもあると思います。そのモチベーションというところで、だんだんと、最近は本当に目に見えて低下してきている印象があります。

**【兼城】** 今話を踏まえて、当時の沖縄高専は学生も含め先生方も含めて非常に高度なレベルの方々が集まっていて、山奥に隔離された環境で常々議論ができたところは沖縄高専の一番の価値だと思っていますし、僕の場合は、プログラミングのコンテスト(高専プロコンやパソコン甲子園等)で、先生方にご指導いただきながら全国大会に行くことができて、他の高校とかと比べるとありえないようなレベル感、大学に近いレベル

感、ものによっては超えているレベル感で、学びを得られたというところは非常に良かったなと思っています。もしそこがちょっとレベルダウンしているのであれば、そこを改善していくべきなのかなと思います。

**【安里】** 確かに、1~3期生は特に、この学校を自分たちで創りあげていくんだ、という意識で入学されてきた部分があると思いますが、そういう状

況の中で、よりよい学校を創り上げていくために、色々と試行錯誤しながら教職員と一緒に活動していったところもあると思います。ただ最近では業務に追われてそういった活動が中々できにくい状況があります。当ても何もないところから創り上げていくというところで、大変だった部分はあると思いますが、そこにやりがいがあると思います。忙しい中でもそういった活動ができていたと思います。本校には「創造研究」というとても素晴らしい学びの仕組みがありますが、他の業務が多くて中々活かしきれない。一部の先生はうまく活用されていますが、自分自身はできていない反省があります。他の教職員の方はどのように感じていますでしょうか。

**【山田親稔】** 沖縄高専の山田です。まず、最近の入試の傾向からいうと、皆さんの頃は非常に圧倒的な倍率の中で入学してきた。しかし最近、3年前ぐらいに1つの学科で定員割れを起こしました。それまで、広報にそこまで力を入れていなくて、「だまっていたら入ってくるだろう」という形で

我々がかまえていた、という悪いところもありました。その反省から少しずつ丁寧に広報をしていくことで、沖縄高専のことは知ってもらって活動を進めていき、どうにか現在1.4倍です。県内高校の進学校でも定員割れしているところがありますので、1.4倍を保っているのはまだいい方かなと思いますが、全国的にみると、高専の平均は2.0倍となっているので、まだまだかなというところではあります。また、OB・OGの皆さんがいたころの沖縄高専の雰囲気については、私個人が感じているところでは、学生自身や我々教職員も実績がないものにチャレンジしていくということで、お互いここまでやればいいと考えず、がむしゃらにやっていたというのが実感としてあります。ですが、最近だと、ある程度先輩方とか教職員のノウハウが蓄積されていて、ここまでやれば、このレベルの大学、このレベルの会社に入れるという形があるので、もしかしたらすると学校としてのがむしゃらさが少し低迷している感じはあります。





**【大嶺】** 一ついいですか。機械システム工学科の話になりますが、機械分野に関しては工業高校でも定員割れを起こしているというのを考えた時に、やはり沖縄県に関していうと、社会のニーズに機械分野がない。これは僕の意見として聞いてもらいたいのですが、広報を頑張ったところで、社会のニーズがないと機械システム工学科に人が増えていかない。工業高校でも全体的に機械の分野は少なく、情報系とかIT系は多い。それらの分野は志願倍率に関しても、1.4倍とか2倍、これは沖縄高専も同じことが言えていて、地域的な要因もあるのではないかなと。それは学力がどうこうではなくて、勉強できる生徒は進学校に行っているわけですから。ちょうど長男が受験生でそういうことを目の当たりにする機会があって…。塾の先生が、申し訳ないけど沖縄高専の機械システム工学科にはいかせられないと。要は、工業高校も一緒なのですが、機械分野に行かせるぐらいなら普通高校に進学して選択肢を広げさせてあげた方がこの生徒のためになるって考えていてそういう指導をしているようです。機械の専門学科を卒業して、就職先が沖縄県内にあるのか、ということになる。

**【島袋】** ちょっといいですか。今の話伺って、沖縄高専って、物理的に離れているという制約というか特徴があって、沖縄高専の外の人から見るとブラックボックスになっていて、入学した学生が何をやっているかが分からないと見えているのかなと。私の推測ではそう感じていて、自分の子どもを沖縄高専に行かせるかって、親の視点になってみると、沖縄高専って結局どういう学校なのだろうと感じていて。一方で良いとこ

ろという点では、沖縄高専のOB・OGは皆沖縄高専のことが好きで、それは良いところかなと思っています。3期生は子どもが生まれてくる世代なのですが、その子どもたちも沖縄高専に行きたいのではないかなと思うところがあったりします。皆、学びとして専門性を早くから身につけられるところを気に入っているんで、そういうところを伸ばしていく方がいいのではないかと。

**【安里】** 山田先生に広報の在り方についてお話いただいたところもありますが、外に伝える事ができていないということは悪いところになるかな

生がおっしゃっていた、先輩方が作ってくれた道筋に乗ればうまくいく、という部分もあると思います。誰も不安なところに飛び込むのは勇気がある事なので、それを強要することは当然できませんし、学生本人の考える人生については、本人の意思を尊重するかたちで指導しますが、いろんな視点で見るとは大事だというのは、やはりなかなか届かないところがあったりします。だから受け皿がないというのは、どちらかということ、視野の狭さからくるところなのかなと思っています。



と思います。ただ、沖縄県に受け皿がないかっていわれると、機械システム工学科を卒業して別にIT系に就職しても個人的には良いと考えています。機械分野で学んできたところを柱として別業界に飛び込んでいくと、新しい何かを創り上げるようなこともできるようなと思っています。私が担任していて進路指導する時は、業種にこだわらずに、自分が働きたい企業かどうかをよく見て選びなさいって指導の仕方をしていたのですが、ただそうはいても、学生はどうしてもネームバリューというか、それで見ってしまう傾向があると思います。山田先

**【平良】** よいんですか。まず、コントロールできるところとコントロール出来ないところをはっきり分けて考えていけたいかなと思います。学生一人一人の意識を、学校が求める所に必ず向かせるというのは絶対無理な話なので、学生たちに何を提供できるのかということと、今までできている沖縄高専の価値というものを、的確に沖縄県内に訴求していく方法論をしっかりと考えていくべきなのかなと思っています。私は沖縄高専の強みを考えるうえで、「高専という強み」と「沖縄という強み」はしっかり分けて考えたいと思っています。他県の高専

のように、歴史があって、経験(実績)があって…。というのがなく、中々訴求しづらいので、沖縄高専は単独で戦うということをしなくちゃいけないというのがあります。それを今まで中学生に対してしてきたと思いますが、私が在学時代に感じたことは、沖縄高専の強み、高専の強みを県内の企業が全然知らないと思っていました。高専生が沖縄に来ないということをおある企業の方が仰っていたことを覚えています。だけれども、そもそも県内企業は企業説明会に(当時は)来なかったり、求人の中々出してくれなかったり…。ということも覚えています。今は沖縄高専が中心にあって、ステークホルダーへは沖縄高専から全部発信になっていたと思います。これを相互的なネットワークとして、高専生が入社した企業が中学校の保護者に話をするといったような関係性をうまく仕組みとして考えられないかなと思っています。

**【平良】** もう一つは、学生のレベルは正直分からない部分ではありますが、絶対にすごい子どもたちはたくさん来ているだろうなというのは思っております。まず15歳という年齢で、沖縄高専という学校を選択肢に入れている時点で他の子どもたちと違う価値観とかやりたいことがすごくしっかりしているはずなので、それにしっかり目を向けていくべきなのではないかなと思っています。学生の中の尖っている子どもたちが実際に満足しているかどうか。教職員の方々が、中々時間がなくて向き合えていなかったという話があったので、コントロールできる点として何をやらずに何をやっていくべきかを学校内で決めていくべき、そして誰かがオーナーシップを持ってやっていくべき、とシンプルに思っています。

**【平良】** またもう一つ、県内の学力と平均年収の関係で、沖縄高専の役割の一つとして、勉強はできるけど家にお金が無くて勉強環境がそもそもないという子どもたちのセーフティネットの役割もあると思っています。それをしっかり訴求して、20歳で大手のメーカーで仕事ができるってほんと素晴らしいことだと伝えていく。先輩方が築いてきた素晴らしいロールモデルもけなす必要はないというか、それを築いていくことを県内企業に働きかけていく方が大事なのではないかと思いました。

**【安里】** この座談会の中でOB・OG方々からいただいたご指摘やご助言については、我々教職員も考えてこなかったわけではありませんが、ただやはり、沖縄高専というのは独立した一つの学校ではなくて、高専機構という組織の中の一部ですので、全体で決めたことを実施していくことも必要になってきます。個人的にも、高専は尖った部分を伸ばしていけばいいと思っているのですが、今は高専全体でMCC(モデル・コアカリキュラム)という卒業時の質保証を行うための取り決め(小中高でいう指導要領のようなもの)があり、それをきちんと満たしたカリキュラムにしましょうとなっています。これは私個人の意見となりますが、だから、ここは優れているけどここは弱い、そういう学生に対して、強みを伸ばす目線で教育するというよりも、弱いところをきちんとこまで引き上げましょうというところに意識が向いてしまうのですね。そういう部分との兼ね合いっていうのも中々難しいということがあります。この点、他の教職員の方はどうですか。

**【亀濱】** 私個人の意見ですが、沖縄高専に在籍していた時は1、2年生の混合

学級(所属学科ごとに編成するのではなく、各学科の学生を均等に振り分けて編成する学級)がすごく良かったなと思っています。そのおかげで、横(学科横断)の繋がりとというのができたということと、寮生活の中で、縦(学年縦断)の繋がりがある程度できたかなと思っています。高専に通っていてそれがすごく楽しかった部分でありませんが、当時は正直高専のありがたみというのがあまりわからなくて、なぜこんなに勉強やらされなきゃいけないんだと思っていたのですが、実際卒業した後それを実感したのが高専という学校でした。そういう卒業生は今もいると思っています。また、現在も尖った学生というのは少なからずいるのですが、学校の雰囲気自体が学生に下駄をはかせるみたいな感じになっている部分が多くて、尖っている学生を伸ばしきれていないところがあります。そのような学生が、高専に来てよかったと思ってくれているのか疑問に思うところで、私としては高専に来てよかったといえる学生がいて次に繋がると思っております。

**【大嶺】** 先ほどの平良さんの意見にすごい賛成で、沖縄県内の企業が(当時は)企業説明会に来ない、人材が沖縄に残らないという話があったと思いますが、僕も聞く話でした。沖縄に人材が残らないことに関しては、2代目の伊東元校長の時から要請があったのですが、伊東元校長は「では給料を県外並みに上げて県内に残ってくれるよう沖縄県の企業も努力してください」と返答したと聞いています。おそらく当時の「参与の会」の資料にも残っている話だと思います。そういうのは、沖縄県内の企業の課題であって、これをどうしていくのかというのは、沖縄高専と企業の関係性構築である程度解決し

ていくのではないかなと個人的には思っています。ただ、産学連携はまだちょっと弱いかなと感じています。

**【兼城】** 沖縄高専の学生がこういうところに就職していますよっていうのを県内の企業に発信するだけでも効果あると思っています。沖縄高専の学生って、例えば初年収400万で働いていますよって、県内の企業が聞いた時に、この求人票のままでは来ないと気づくと思うのですね。そのギャップに誰も気づいていなくて。一方で、沖縄県内なら〇〇(企業名)に行きなさいとか、親に言われながら育つと思いますし、それが悪いとも思いませんが、そういうところも行けるし、行きたい人がしっかり行きたいところに行ける環境はすごく素敵なので、そのままでもいいのかなって思います。後ろ向きな話が多すぎましたが、僕らOB・OGも沖縄のこと好きなので、(沖縄の)良いところをもっと引き出したいなと。

**【平良】** 単純にUターンを狙っていると思います。教育期間って長い目で見ればいいかなと思っていて、6年目で入学してきた我々の年代もUターンで帰ってきています。沖縄にはそれだけ魅力があるので、今の新卒でどこに就職かということより、力をつけてきた学生のUターンを受け入れる土壌になっていただきたいと、そういったメッセージも大事なかなと思っています。

**【安里】** Uターンのことで沖縄高専に相談してくる学生は結構いて、ただ受け皿がないっていうところが悩みどころなのかなと思っています。そういう受け皿を、同窓会で作っていきましようという話をちょっと聞いたことがあります。亀濱先生いかがですか。

**【亀濱】** はい、ちょっとやりたいなと



は思っています、県内のIT企業もできたら協力してほしいと思っています。新卒者を教育するエネルギー(余力)がないという県内企業もあると思いますので、そこはUターンを受け入れることで解決できるかなと思っています。あと、沖縄高専の卒業生って結構山の中にずっといたので、一回都会に出たいと思っている人も多いと思います。でも1期生のたぶん30~40%ぐらいは30歳を超えると戻りたいと考えていたと思っています。そういうのを母校として支援してもいいかなと思いますし、同窓会としても頑張っていけたらかなと思っています。

**【宮城】** 良いところ、私は2つあると思っています、一つは、先程尖った学生たちを伸ばしきれていないと言っていたかもしれないのですが、私が大学に進学してすごく思ったことは、高専の教員との距離がめちゃくちゃ近くて、放課後とかに色々な先生に質問にも行けたし、ディスカッションにめちゃ行けたのですね。先生たちもそういう時間を取ってくださって。これについては事前アンケートにもあったので、そこは変わってないかなと思います。なので、尖った学生もやる気があれば全然できる環境にはまだあるのかなと私は感じました。もう一つ

は、今の先生方の話とかも聞いて、高専機構ができた時と今の令和というところでは、学生の進学や就職に対する保護者の考え方がちょっと変わってきているのかなと思っています。塾の先生が15歳とかの子どもたちの可能性の幅を広げたいということで、高専ではなく普通高校を勧めたりするのは、なんとなくわかるかなと思います。ただ、高専に行ったからすぐ就職するというのももちろんポジティブな面ではあるのですが、大学への3年次編入学ができるというのも高専の強みの一つだと私は思っています。理系に絞られてしまうもしれないですけど、編入学試験は(大学で入試時期が異なるので)いくつも受験することができるし、センター試験(大学入学共通テスト)も受験せずに行ける、また、かなり確率高くいけるといえるところはもうちょっとプッシュしてもいい。それは学生たちのニーズにもあっているのではないかなと思いました。





## 次世代に求められる技術者像

**【安里】** つぎに、次世代に求められる技術者について、ご意見を伺いたと思います。事前アンケートで色々のご意見いただいておりますが、その中でも特に、10年後にはこの能力やこういう心構えは絶対に必要なるというものがありましたら、よろしく願いいたします。

**【山田親侑】** メディア1期の山田です。結局10年後やさらにその10年後って、重要な情報だったり、知識だったりというのはガンガン変わっていくと思うのですね。なので、何を持っていればいいのか正直ないと思っていて、結局必要なのは、まず基礎知識を確実に固めて、それをもとに先進技術を自分で理解できる能力だと思います。今でいえばメタバースとか、ブロックチェーンとか。そういった先進技術は、結局基礎知識がなければさっぱりわからないが、あれば自分で学べます。今後何かしら新しい技術がでてきても同様に学んでいくことができると思いますし、卒業するときに基礎知識と今の最先端技術の1つ

を理解しているということで、自信をもって社会に出ていけるわけです。それは、起業する、大手に就職する、海外に行くというチャレンジ精神の育成にも繋がります。また私個人の意見ですが、社会に出ると学生時代よりも勉強ができなくなります。業務や雑務に追われるだとか、人間関係だとかで疲弊して家に帰って勉強するっていう時間なんて正直作れないです。ただ、自信があって基礎知識があれば、学ぶ楽しさを知っているのですとずっと学び続けられる。そして、30代、40代になった時の差がもう尋常ではないことになっているので、10年後の未来で求められている技術者像ということですが、基礎知識を確実に掴んで一つだけ先進技術を身に付け自信をつけてから卒業するというのが一番良いのではないかと私は考えます。

**【森澤】** すみません。個人的な意見ですが、今の意見非常に僕も同意で、基礎学問は土台にはなるのですが、すぐくきつい言い方をすると面白くないですよね。

(一同、笑)

**【森澤】** それを学生にどう身に着け

させるかということが我々教員側の課題だと思うのですが、例えば微積分しました、それが何の役に立つのかという発言がでたりしますが、結局基盤になっているところ、メタバースなり、いわゆる今というディープラーニングにつながっている。線形代数もまさにそうで、僕らは(重要性を)わかるじゃないですか。でも口で言っても学生には伝わらないじゃないですか。

**【山田親侑】** 例えば携帯電話とかって、当たり前のように4G、5Gで通信していますが、目に見えないのになぜ電話につながるのかというのが、不思議だと思っんですよ。それが電波を使って伝えているということ、今の身の回りの技術から一番下の基礎まで下ろして説明していけば、あ、なるほど。この基礎があるからこうやって通信ができて、他の人が受信しても読めないように暗号化できているというのが一番、学生としては楽しいかと思っんです。

**【宮城】** すみません。今の意見、私も高専の授業で覚えていることも多くて、その時の授業をしてくれていた先生が、知識として教えるプラス実際こういうことがあったとか、現状こう



という問題が起こったからこれを解決するためにこれが必要だとかを合わせて教えてくれていました。そういうことを、30歳を過ぎてもずっと覚えていて。そういうことって、結構覚えているものなので、その現実と結び合わせるというところはすごく同意ですね。

**【安里】** 少し言い訳をさせていただくと、多分皆さん実践しているところもあると思います。例えば、私は制御工学という専門分野を教えているのですが、それは、例えばロボットとか自動車とかの機械を適切に動かすためにはどうしたらよいかを学ぶ内容になっています。ただし制御工学は抽象的な学問で、はっきり言って中身は数学です。応用数学であるフーリエ変換やラプラス変換等、これを使うと何ができるのかということを示唆しないと学生にはやはり大切さが伝わらない。そのために、例えばドローンを使ってこういう曲芸ができるという動画を見せ、これは人が上手く操縦しても到底実現できるものではないことをまず直感してもらう。でも、機械の運動を物理学を使って理解して、数学を使ってそれを把握すると次に機械がどう運動するのか未来が見えてくる。未来が見えると、所望の状況を作り出すために今何をすればよいか計画できるようになる、といったような話をしています。でも、磁気浮上制御システムという見た目のインパクトが強い実験装置も自作して、それを実際に見せながら講義をしても、数学(理論)のお話になると途端に寝てしまうんですよ。だから、今はそういうやり方が中々通用しないことも増えてきている。

**【兼城】** 最終的に実現できるところというお話に、そもそも興味を持っていないというのがあると思います。制御の話、僕ならワクワクしながら理論の話も聞くことができるのですが、僕は

何にでも興味を持ちがちで。

(一同、笑)

**【兼城】** こういうことに繋がると聞いてワクワクするのだったら、積み上げを自分でしていこうとか、裏から表から繋げてやっていこうとか、逆算思考で行きましょうってなるのですが…。でも学生が工学というものが分からないとか、なんとなくで高専来てしまいましたとか、学生自身が何をしに来たのかかわからないと、やりたいものではないなとなってしまうと思うので、そもそも今何を学びたいのか学生に問いかけることとか、こういうものが学べる場だということをインプットすることとか、両面やらなければいけないのかなと思います。

**【安里】** 教員の皆さんは担任として進路指導や学習指導をしていて、今の学生が何を考えて、何を期待して沖縄高専に入学してきたのか、見えている部分はあると思います。工学に興味があるかと問いかけると答えられない学生もいますし、低学年の学生にどの授業が面白いか尋ねても、特にないという回答が返ってきたりもします。他の教職員の方はどのような印象でしょうか。

**【片山】** 1年生の担任を務めています。国語の教員の片山です。1年生は大体、自分は数学ができるからこの学校に来たという学生が今は多くて、ごく一部には、将来新種のピーマンを作るために来ましたとか、特定の技術をやりたいと来ましたという学生もいます。ただ大体の学生は、沖縄高専で何ができるのかというところは意識せずに入学してきている学生が多いので、そういうところをもっとプッシュして、学生に将来像を持ってもらうというのはすごくいいことだと思っています。かつての沖縄高専と、今の沖縄高専の違いの大きなところはそこにもある

と思います。学生の保護者は、この学校に入ることができれば就職率がほぼ100%であるというところに期待しています。この学校に入れるのが不安だという声が聞こえてくるときには、「必ず全員が卒業できるわけではないのでしょ」ということもおっしゃられます。それから学生自身は、この数学の点数なら沖縄高専に入れると保護者に言われて、沖縄高専に入学してきているというケースが増えているのではないかと思います。なので、広報活動を通じて、将来こういう道があるとか、編入ができるとか、もっと具体的な道筋を見せていくと、保護者も学生の将来のビジョンが見えやすくなって良いのではないかという気がします。

**【安里】** モチベーションを保って沖縄高専を卒業してもらうためには、学生自身がどういう社会人になりたいか目標を持つことが重要で、やはり大事なのは未来の自分の姿をイメージすることだと私も思っています。そのためには我々教職員も想像力を働かせて未来を洞察し、それを学生に伝えていくことも必要だと思います。例えば、AIの台頭によって多くの職が淘汰されることになって今学んでいる技術を活かした専門分野は生き残っていけるだとか、ここで学ぶことが強みになることを学生に感じ取ってもらう。そのためには、学生も教職員も「未来を見る力」というのは個人的にはとても大事だと思っています。事前アンケートでは、次世代の技術者に求められるものとして、先端技術、コミュニケーション力、提案力等が挙げられていますが、この中で絶対に必要になるというのがあれば、お聞かせください。

**【島袋】** 島袋です。私は今の仕事をしています。高専出身の人とかも見るのですが、洞察力が必要だと思っています。

流通や金融、保険だとか、いろんな事業の方とやり取りするのですが、やはりお客さんもそうですし、ITをやっている人たちも「次にどうしていくべきか」というところの発想みたいなものは、考えると難しくて…。そこで洞察力を働かせて、こういう社会になるので我々はこの技術に投資していくべきだ、というような感覚は学生の時からあったほうが良いのかなと。それによって就職先の判断も変わってくるし、進学した方がよいという考え方もできます。洞察力ってめちゃくちゃ大事だなということは、常日頃から感じています。



## 沖縄高専の存在意義と 見据えるべきステークホルダーの具体像

**【安里】** 次の論題ですが、沖縄高専の存在意義と見据えるべきステークホルダーの具体像ということで、沖縄高専は誰に対して何をすべきか、ということをお伺いしたいと思います。次世代に求められる技術者を育成していくために、現在の沖縄高専の良いところ・悪いところを見つめ直して今あるギャップをどう埋めていけばいいのか。そのような話できたら良いなと思っております。

**【白久】** すみません、白久です。沖縄高専のやることなのですが、学生の課題はとりあえず置いておいてよいと思っていて、それよりも僕はこの学校なくなるなと思ったのです。沖縄高専は必要とされていない危機的な状態だなと。僕が事前アンケートを書いているときの認識が間違っていた。こういう有事の時の判断になりますが、リソースも限られているので、やらないことを決めることが大事かなと思って

います。本質的でない問題は置いといて、何をKPI(重要業績評価指標)に設定すればよいかというと、まず(受験者の)応募数を増やせば全部解決するのですね。とにかく全体を増やすことに集中すれば良いのかなと。増やす方法は2つあって、インバウンドとアウトバウンドの視点があると思います。アウトバウンドされているのは非常に良いなと思っていて、そこはもっと活動数を増やして強化していけばいいと思います。インバウンドは改善の余地があります。(2022年12月時点の)ウェブサイトを見てもそんなに良いものではないので、僕よりも詳しいOB・OGはいると思うので、助言を得るなどして改善していけばいいのかなと思います。方向性としては、「〇〇といえば沖縄高専」というのを引き続き、追求すればいいと思っています。ただ、それを自分たちだけでやっていくというのも辛いと思います。教職員のプレッシャーも伝わってきますし、かなり大変な状況だなと。

なので、沖縄高専独自に使える予算を増やす活動をするべきだと思います。ウェブサイトの改修やブランディングには費用がかかりますので。産学の連携とかしないとそういった予算は増やせないと思うので、それをやっていけば良いかなと。ランチェスター戦略による一点突破で集中してやること、そして実際にアクションに移すときは、しっかり捨てることは捨てて、やるべきことに集中する。また、リソースがあまり足りないのので、そこを増やす活動をする。やるべきことはこの2つです。

**【安里】** ありがとうございます。予算やリソースの問題は結構大事な部分で、おっしゃっていただいたように本質的な課題に集中することはやはり重要だと思います。でも現状沖縄高専がそれをできているかというところでできていない。色々なことに予算・リソースを使っていて、全体として負担がどんどん増えていっている。だからご助言いただいたように、「〇〇といえば沖縄高

専]となるようなブランドを確立して  
いて、何かやる判断をするときの軸  
足にできれば、(本質的でないものを)  
捨てていくこともできるようになると  
思います。

**〔白久〕** 捨てるべきものは全部捨て  
て、強みは沢山あるのでそれを伸ばし  
ていけばいいと思います。

**〔平良〕** めちゃくちゃ大変な状況な  
のだなっていうところを、話を聞き  
ながら思っていました。また、先生方  
の話を聞く中での言葉の印象だっ  
たりとか、抑えている表現だっ  
たりとか、すごくその弁明に聞こえる  
というか。我々は頑張っているのに結  
果が出てない、その要因は沖縄にあ  
るし、高専にあるし、学生側にある  
という印象をすごく正直に受けていま  
す。今これからブランドを新しく立  
ち上げていく結果、まずはこれまでの  
高専の価値がどう伝わっているか  
の確認がすごく大事ななと思ってい  
ます。それをした上で、今の学生たち  
に何を教育の価値として提供でき  
ているのか、正直学生としゃべって  
いる教員がここにどれだけい  
らっしゃるか分からないですが、何を  
価値として感じて、何が欲しくて、  
その結果、将来をどう考えている  
かの解像度をよりあげていって残  
ったものがブランドなの  
だと思っています。また新しくする  
ためのリソースが今の状況である  
と思っていないので、その認識の  
ずれというのは、私は話を聞きな  
がら感じていました。

**〔安里〕** 学生のことを悪く言ってい  
るのではなくて、教職員にはそれぞ  
れ教育に対する想い(信念)という  
のがあってそれに基づいて日々行  
動していますが、軸足が漠然とし  
ていて全体がまとまっていない部  
分があり、その影響が学生の問題  
にも波及してし

まっている現状があります。そうい  
った問題を克服していくことも含  
めて、ブランディングは必要であり、  
その糸口として本座談会を企画す  
るに至ったというところではご理  
解いただけたらと思います。

**〔兼城〕** よろしいですか？先ほど  
レイエス先輩(白久氏)も言われた  
とおり、危機的であると捉えたう  
えで、受験者を増やしましょう、  
レベル感を高めましょう、という  
ことに加えて、まず、この場に  
いらっしゃる先生方を含めて、皆  
さんが沖縄高専が好きであるとい  
う状態に持っていかなければい  
けないと思っています。沖縄高専  
に対する熱意がなくなってしま  
っているというのが、僕は今一  
番問題だと思っています。それ  
と沖縄高専がそもそもどうある  
べきなのかという議論がない。  
その状態で何をしたらよいか  
と言われても皆方向感がばらば  
らになると思います。現在の  
沖縄高専について、危機感  
があることは参加している  
OB・OGも認識できましたが…  
。では、先生方としては  
沖縄高専はどうあるべき  
なのか、何を改善して何を  
伸ばすのか、社会の要求も  
変わってきているところ  
もあり、そもそも位置づけ  
を変えなければいけない  
ところもあると思います。  
ここをしっかりと議論  
しないと、議論積み  
上げの中で行き先が曖  
昧になるのではないかと、  
僕の印象としては感じ  
ております。

**〔安里〕** 沖縄高専が「何を  
目指すべきか」がわか  
っていれば円滑な議論  
ができると思いますが、  
それをどう抽出する  
かというところに難  
しさがあります。例  
えば、体験授業に  
きていただいた中  
学校の生徒やその  
保護者にアンケート  
を取り、沖縄高専  
のどこに価値を見  
出しているのかを  
まとめて、あるべき  
姿を固めていくとい  
うのも大事だと思

います。ただ、そう  
いう客観的な視点  
だけではなく、  
ブランディング  
を行っていく  
場合は、多様な  
観点で物事を  
見ていくことも  
重要である  
と考えるため、  
本座談会では  
沖縄高専に関  
わってきた  
OB・OGや教  
職員の皆様  
それぞれの  
今の立場に  
基づいた「主  
観的なご意見」  
を伺いたい  
と考えていま  
す。

**〔兼城〕** そう  
いうのであれば、  
僕の思いを  
伝えさ  
せていただ  
くと、  
沖縄高専  
は沖縄の  
各中学校  
から集ま  
ってきた  
優秀な  
学生たち  
がおり、  
特に理工  
系を目標  
したい  
とか、  
モノづく  
りをした  
いとか、  
エンジンを  
作りたい  
とか、僕  
の場合は  
インター  
ネット  
でサービス  
を作りたい  
とか、  
そういう  
想いで  
沖縄高専  
に入  
ってきた  
わけ  
ですが、  
同じ  
ような  
想  
い  
を持  
って  
いる  
学生  
は  
現在  
も  
いる  
はず  
です。  
僕  
ら  
が  
学生  
寮  
で  
や  
って  
いた  
よう  
に、  
切磋  
琢磨  
して、  
あ  
あ  
でも  
ない  
こ  
う  
で  
も  
ない  
と  
各  
学  
科  
の  
学生  
が  
混  
ざ  
って  
議  
論  
する  
クロ  
スポ  
ー  
ダー  
の  
よう  
な  
もの  
が  
あ  
って、  
学  
んだ  
こと  
を  
世  
の中  
に  
し  
っ  
か  
り  
と  
お  
し  
て  
い  
く。  
支  
援  
さ  
れる  
とい  
う  
こ  
と  
が  
な  
く  
ても、  
議  
論  
が  
邪  
魔  
さ  
れ  
ない  
環  
境  
さ  
え  
あ  
れば、  
勝  
手  
に  
い  
い  
学生  
が  
集  
ま  
って  
伸  
び  
る  
の  
で  
は  
ない  
か  
とい  
う  
のが  
僕  
の中  
には  
あ  
り  
ます。  
そこ  
には  
や  
はり、  
熱  
意  
の  
ある  
学生  
と、「技  
術  
って  
面白  
い  
ん  
だよ！」  
「沖  
縄  
高  
専  
だ  
か  
ら  
こ  
う  
い  
う  
の  
を  
学  
べ  
る  
ん  
だよ！」  
と  
言  
っ  
て  
く  
れる  
自  
ら  
の  
学  
校  
を  
愛  
し  
て  
い  
る  
先  
生  
方  
が  
セ  
ット  
で  
ない  
と  
ワ  
ーク  
し  
ない  
と  
思  
っ  
て  
い  
る  
の  
で、  
ま  
ず  
そ  
う  
い  
う  
と  
こ  
ろ  
を  
や  
る  
べき  
な  
の  
か  
な  
と  
僕  
は  
思  
っ  
て  
い  
ま  
す。

**〔安里〕** 学生  
の主体性  
を育てて  
いくこと  
はとて  
も大事  
である  
と思  
いま  
す。少  
しお聞  
きたい  
ので  
すが、  
以前、  
沖  
縄  
高  
専  
にお  
ら  
れた  
平  
山  
先  
生  
は、  
こ  
と  
あ  
る  
ご  
と  
に  
学  
生  
に「君  
たち  
は  
学  
生  
だ」と  
お  
っ  
し  
ゃ  
っ  
て  
い  
た。

**〔兼城〕** おっ  
し  
ゃ  
ら  
れ  
て  
い  
ま  
し  
た。



覚えています。

**【安里】** それを言わなくなっているのですね。言っているのかな。でも、例えば専攻科生と話すと自分のことを「生徒」とよぶ学生もいる。沖縄高専に赴任した当時は、平山先生の「あなたたちは学生だ」と言い続けることにあまり意味はないのではないかと思います。逆になんか言わなくなってきたことで、大切なことだったのだと思うようになりました。

**【兼城】** 専攻科まで行った身として、今でもその話は非常に大事なポイントだと思っていて、あえて大きく言いますが、沖縄高専に入った自分たちは特別なのだというエリート意識がありました。中学校の同級生たちとは違って、僕らは高等教育機関に生きている学生であると。沖縄高専には、企業の研究所で働いていた方々や大学で教鞭をとられていた教授のレベルの方々がいて、「最先端の器具を自分たちでどんどん活用していいよけど、その代わり自ら学びなさい。だから、あなたたちは学生なのですよ」というメッセージが深く入学時に刺さるわけです。そうすると、「やらねば」となって背筋がしゃんとするとか、俺たちは違うんだみたいな特別な意識を持つことになる。良くも悪くも普通高校の生徒との絡みがないじゃないですか。なので純粋培養されていくのですね、この沖縄高専の中で。それで勝手にレベルが高まって相互作用していくというところは、やはりもう一度見つめ直すべき価値なのかなと思いますね。

**【山田親侑】** 話をずっと聞いていると、おそらく先生たちの熱量とか能力とかって正直変わってないと思います。学生もある程度優秀な人が集まっています。質も大きくは変わってない

と思っています。いらないことが多すぎるだけだと思います。もともと1期生の場合、学生も先生も初めてのことで、明日の授業をどうしようとか、初めての間テストどうしようとか、高専祭の翌日に体育祭をすることか、よくわからないこともやっていたわけですよ。あの頃って目の前のことに注力していたからどうにかなっていたと思います。現状では、定常業務でやらないといけないことが大量にあるって、日々の悩みや懸念点を消化しつつ帰宅しても明日のことを考えて、それで疲弊してゆっくり考える時間もなくなり…。多分、学生にも、これやれ、あれやれとかいうのが多くて。正直、(ここにいるOB・OGは)光の代表だと思いますが、闇の代表から言わせてもらうと授業中は寝るんですよ。さっき偉そうに基礎をどんどん現実に近づければとか言いましたけど、正直基礎なんて面白くないですよ。楽しそう、ということで勉強したことなんて本当にわずかで、基本的にはやらないといけないからやるんですよ。赤点を取ったらまずいから留年するから「勉強しなければ」となる。これまでの話を聞いていると、(モチベーションが低下している学生に対して)やりたいうことを引き出すようにアプローチしているということだったのですが、(主体性を育てていくという側面では)優しすぎるのかなと。

**【安里】** 個人的にもそれはあると思っています。ただ、学生のケアも大切であり、それとの兼ね合いもあってバランスの取り方が難しい。他の教職員の方はいかがでしょうか。

**【萩野】** 僕が思っているのは、やりたくないことを渋々させて進級させていくことは、休退学者の減少につながっているかもしれないが、学生自身

が幸せになっているかという僕はそうは見えない。学生個々に合った将来と一緒に考えていくことが大切であり、(学生がより幸せになれるように)できる限り頑張っています。ただ、学生の進路変更は「この学校は卒業するのが難しい」という印象を与えてしまう負の側面もあるので、社会人選抜等の拡充によって、入学者を増やす工夫も必要かなと思います。(リカレント教育やリスキリングという社会的要求もあるので)もっと色々な属性の人が選択肢の一つとして沖縄高専を目指していける、そういう受け入れの多様化も進めていったらもっと良くなると思っています。

**【兼城】** その学生にとって高専が最適な場ではなかったというお話のかなと思っていて、2つ大事なポイントがあると思っています。僕がスタートアップ企業を多数見てきた中で、必ず抑えるべきポイントとしてお話をすることがありますが、それに近いものであると思っています。1つはKPIマネジメントです。この数字を全部改善させましようは意味がないのです。何を僕らは追うのかを決めなければいけない。これは沖縄高専のあるべき姿を見極めていくのと本質的に同じだと思いますが、それは退学者率を追いかけることなのか、という絶対そうではないと思っていて。学生が学んだ専門分野を正しく活かせる企業に就職できたのか、進学をして研究の道に行けたのか、自分で会社を起こしたのかという、本来を見据えるべきものがあると思うのですね。全員を守った結果、全体として中庸な進路選択しかできませんでした、というのがあるべき姿なのか? ハードではあるかもしれないけど、海外の大学とかは(学生が自己研鑽に励むことで)しっかり良い



所に入れた、となっているじゃないですか。こういう学校方針にしていくのであれば、上とバチバチやることもやっていかないと。全部の数字を上げなければとなると、どうすることもできない状態になると思っています。

**【兼城】** 2つ目のポイントは、中退者留年者を減らしましょうはわかるのですが、そもそも入口でミスマッチを防がなければならないと思うのですよ。倍率低下の問題とも紐付いていると思いますが、俺が！俺が！みたいな人が自然と集まってくる、その中でもさらに選抜されていく。でも、常に上を目指す人はどんどん伸びていきますね！というのが、僕は高専のあるべき姿なのかなと思う。時には全体を底上げするというのも、今の仕組み上仕方がないかもしれないですが、それをしなくてもいいような校風にしていくというのを中長期ブランド戦略としてやっていかないと。先生方が毎日必要以上の手厚いサポートをするというのは(主体性を伸ばしていくという観点では)どうなのかなと思うので、それを変えましょうという大方針を出さなければいけないのかなと思うのですよ。

**【安里】** そうですね。方針を変えていくとなると、上とどう掛け合っていくかというところで悩ましいところではあります。

**【兼城】** 日本の経済成長を担う人材を育てるという社会的な要請があるので、それに応えていくためにどこが本質か見極めて、上との掛け合いに繋がっていく。例えば、令和4年度第2次補正予算で高専のスタートアップ教育環境整備事業というのがあって、各高専で年間1億円ぐらいの予算をつけようとしているじゃないですか。これを活用して要請に合わせるかたちで、自

分たちに必要なところを取って、いないもの捨てるみたいなことをアグレッシブにやっていかないと。5年前の方針に従って新しい方針にも従って…。とやっていくと、利益相反も起きてくるはずなので、そこは(スピード感を持って)アップデートされていくべきなのかなと思います。

**【安里】** そうですね。やはり国立の教育機関という公的な側面もあるから、そういう変化の対応にちょっと鈍感なところはあるかもしれませんが…。自分たちの裁量でどこまでできるのか、中々見えていない部分もあります。

**【森澤】** ただ、僕は前職が地方国立大学なのですが、高専に赴任して思ったのは、なんでこんなに予算がついているのだろうと。

**【兼城】** そうです。高専頑張れと国は支援してくれている。

**【森澤】** ただ、やることを分散すぎて手が回らないのが問題となっている。事前アンケートの伸ばすべきところにも書かせていただきましたが、可能であればOB・OGと在学生をもっと結びつける仕組みを創って、学生には外を見て欲しいのですよ。特に内向きになっている学生がいっぱいいるので、SNS等を活用してOB・OGと繋がることで、もっと外の世界を知ってもらって、その基盤を支えている技術を学べるのが沖縄高専だよ、ということを実感してもらおう。そうすると、危機感やモチベーションはもっと上がるのではないかなと思っています。赴任して今年4年目ですが、何が怖いって、学生に危機感がない。

**【安里】** ないですよ。

**【森澤】** 「先生たちが卒業させてくれるよね」と思っていて、消極的な学生たちが出てきているのが僕は非常に怖いのですよ。僕が赴任する前に、

大学みたいなやり方をしたので休退学者が多いからそれ何とかしましょうとなっていますが、それが悪い方向にちょっと行きかかっています。でも、それが危機感を減らすことに繋がって、何とかなるよねとなってしまうと、それが就職率なりなんなりが下がるところに繋がってしまっているのではないかと。我々は我々で多くの業務に追われて、結局楽しくやれてない。学生と僕らが楽しくやれてない。そうなる誰も幸せになれない。今ちょっと聞いていて思い出したのが、僕が赴任した時は航空大好きで来ているので、「先生何でそんな楽しそうなんですか」って言われて。「他の先生、目死んでますよ」みたいなこと言われて。

(一同、苦笑)

**【森澤】** 昔はどうだったのでしょうか。

**【兼城】** 昔の先生たちは楽しそうでしたよ。それこそ自分の専門をやって、先生同士でけんかしているし、学生は訳分らないので「なんであの先生とあの先生は仲悪いんだ」とか、ただロボット作っている先生もいれば、通信をしている先生もいれば、何しているか分からない先生もいる中で、僕はこの先生と合うなっていう、いわゆる恩師を見つけましたね。先生コーヒードrinkみに来たよ～、というところから雑談して、始まってみたいな、本当にもう大学みたいな雰囲気、専門家がいるから信頼がおけるのですよ。事務作業をしている姿なんてあまり見たことないので、だからその先生たちもういないのかもしれないですけど。

(一同、苦笑)

**【森澤】** 結局、長期的に見て尖った学生を育てたいなら、まずは今の状況をなんとかして、多くの生徒が沖縄

高専を目指してくれるように改善に取り組んでいく。ただ、正直僕らのリソースは限られている。でも現状は4年目で主事補を務めていて、普通だよと言われながらやっている。一方で、若手なのだから研究しなさい、論文書きなさいとも。委員会やって、授業やって、補習やって、年度末に課題をさせるために拘束されて…。もう時間がなくなってくるわけですよ。すごく他力な言い方をするのですが、そうするとやはりキラキラしていた先輩たちを見せることが、学生たちの1つのロールモデルになっていく。OB・OGの方たちの「もうがむしゃらにやっていたよ」というのを僕らも知らないし、学生も知らないのですよ。今日来ていただいたOB・OGの方たちはすごくキラキラして僕は見えるのですが、そういった人達を在籍生が見て、「あ、こんな先輩いるんだ」と感じてもらう仕組みを創っていいのではないかと思います。だって、僕らだけだとキラキラしきれないので。

【兼城】 先ほどのレイエス先輩(白久氏)の話にもありましたけど、事前アンケートで回答したことも含めて、僕らは僕らが在籍していた高専時代を前提に考えてしまっていた。そこは現状を見て、ギャップはしっかり変えていかなければと。

【坪田】 全体の話の流れと変わってしまうかもしれませんが、今回の座談会だとブランドを創るという狙いがあって、色々な意見が出ているのは非常に良いかなと思うのですが、なんかブランド以前の問題の話ばかり議論に挙がっていて、まだブランドを創るという段階まで行ってはいないのではないかと感じているのですが。こういう話し合いみたいなものは、普段教職員の中でされて

いるのかなという疑問があるのと、組織を運営していく中である程度トップダウン式に意思決定しないといけないところがあると思います。僕らの時代は、糸村初代校長がリーダーシップを発揮して教職員含めて学生を引っ張っていた印象があるのですが、高専の場合はトップがどんどん変わっていくので、沖縄高専がどれくらい意志統一して教育を行っているのか、それがもっと大事なんじゃないかなという気がしています。そのあたりはどうですかね。

【安里】 トップが数年で変わっていくからこそ、「沖縄高専はここに軸足を置いている」という共通認識が必要になると思います。それがないので、教職員間での考え方のバラバラさだとか、運営と現場で乖離が起こっていると個人的には思っているのですね。それをまとめていくのが、ブランディングをする目的でもあると考えています。例えば、学校としてこれをやりましょう、でもこれもしないといけないよね…。となると、今は全部やってしまっている。そうするとやはり教職員は余裕がなくなってくるし、その影響が学生にも波及してしまうと。学校が何かを判断するとき、やはり核となるブランドの約束(ブランドプロミス)というのがとても重要になると思うのです。それに基づいて行動していけば、方向性が定まって、本当に必要なことだけに力を入れていくことができます。

【坪田】 非常に重要だなと思いますけど、今日の話だとブランドが例えばできたとしても、本当にそれを実行できるのかという…。結構色々な問題がありますが、それを解決できるのか不安がすごくあります。

【安里】 これから見出していくブランドプロミスは、ただの表面上の約束ではなくて、きちんとアウトプットを追求していくように実行していけないといけないです。そのためにはやはり、実際に教育に携わっている教職員の共感や理解を得ることがとても大事だと思っています。教職員それぞれがどういう考えを持って教育に向き合っているのかというところは、中々今の状況では見えない部分がありますから、例えばこういうブランドを考える活動を通じて、教職員同士でも腹を割って話し合う機会を設けていこうと思います。教職員一人ひとりが持っている情熱を1つのところに向けられるようなものをまとめていけたらなと思っています。

【坪田】 結局、実際現場で動いている教職員がどうするかってことしかないと思うので、ある程度上からの要求があるにしても、教職員の方々が一致団結してやるしかないかなという気がします。卒業生の1意見としては、その共通意識を持つことができるような、こういう座談会のような活動をもっと教職員の中でも増やしてもいいかなと思います。あとは、トップダウン式に運営できるような仕組みというか、そういう流れを作っていける仕組みがあると良い気がしました。

# 沖縄高専の持つべき独自性と伸ばすべき強み

**【安里】** 最後に、沖縄高専の持つべき独自性と伸ばすべき強みについて、ご意見お伺いできたらと思います。まだぼんやりとしている部分が多いと思いますが、(この座談会は)ブランドを考えていくスタートなので、まずは手探りでも行動していくことも必要かなと思います。

**【兼城】** ここまでの議論で僕はもう全部しゃべっちゃった気がします。(一同、笑)

**【金城】** 先ほど駿一郎(兼城氏)が言ったのがほぼ全てで、沖縄高専で学生がきちんと無茶できる環境を作つてあげるところかなと思っていて。独自性というところが難しいというかどうかこの独自性なのか気になったのですが、高専の独自性なのか沖縄高専の独自性なのか…。多分全部の高専が、バカや変なこと(意欲的な挑戦)ができる場を用意して、きちんとコミュニケーションとって切磋琢磨できる環境を創るというのが、本来あるべき姿だと思うのですよね。元々の話として、そこを伸ばせば良いのではないかとこのところで結論づいているかなと思っていて。

**【安里】** 独自性や強みは、結局のところ、我々がどこを向いているのかによって変わってくる。例えば、地方なのか、国際社会なのか…。それで競合が決まってくるだろうし、その競合との違いは何なのか、強みは何なのかとなる。だから、「誰をターゲットにしているのか」というのが結構大事ですよ。よく、自分たちで指標を創ってそれで1番になればブランドとして確立

できる(カテゴリーの法則)とされていますが、誰にも見向きもされない指標で1番になっても、結局のところは受験倍率も減ってくるだろうし、連携したいと考える企業もどんどん減っていくだろうし、それでは意味がない。だから、見据えているターゲットにとって魅力的で価値のある独自性や強みは何なのかを見極めて、それらを武器にしてブランディングを行っていくというのが重要だと思います。

**【兼城】** よろしいですか。やはり学生や教職員の方々が単なる下請けの技術者を指すのではなくて、「自分たちが新しいものを創っていくイノベーターになるんだ」というところを、まず校風にするべきだと思っているのです。そしてそれをしっかり対外的に発信していく。1つは企業に対してですね。これは県内企業だけでなく、県外も含めて良いと思うのですが、高専出身者だから採りたいとなるような、他からは採用できない人材の育成を高専は行っているということを確認に伝えるべきだと思っています。そのためには、高専って工業高校や大学と違うということ、先生方を中心に企業に対して発信、あるいは、直接知ってもらうために共同研究の機会を増やしていくというのは、非常に有効な策かなと思います。もう1つは、受験生や保護者に対しての発信です。高専が何者なのかまだまだ知られていないので、こういうポジションでこういうレベルの教育機関だよということをしっかりとお伝えしていく。ただ単に偏差値高い、数学ができ

る生徒が入学する学校ということではなくて、ものづくりが好きな人が集まる場ですよということもしっかりと発信して、実際にそういう人たちが集まってくるようにしていくのが、ブランディングなのかなと。すみません、以前マーケティングとブランディングをやっていたのでこの辺り熱くなってしまうのですが…。組織をスリム化しながら何をやる学校なのかというところを明確にやっていかないと、あれもこれもやっていっては贅肉がついてしまって、メッセージが伝わらないのですよ。例えば、安里先生もブランディングの話をしている場合ではなくて、専門分野の制御をやっているところを見せた方が本当はいいはずですよ。

**【安里】** 苦笑

**【兼城】** そういような分かりやすい価値をしっかりと磨き込んでいって、自ら学んでその価値を獲得していく学生たちの背中を見て、中学生の後輩たちが入ってくる。メッセージングとコアコンセプトとしての高専のあり方については、しっかり考えられるべきなのかなと思っています。

**【大嶺】** 少しいいでしょうか？これまでの話を聞いていて、20年の歴史を経てこういう沖縄高専のブランドが確立できたということをもとめていくべきなのか、新たに沖縄高専のブランドをこういう方向にしようということなのか、どちらですか？

**【安里】** 現状、沖縄高専のブランドに対するステークホルダーの認識はそれぞれで異なっていると思います。

**【兼城】** 20年を振り返って、沖縄高



専ってこういうブランドだというのを明確化して、対外的に発信していきましょうというのがこの座談会の主旨なのかと認識していましたが、そもそも僕らの時代の高専と今の高専は違うというのがOB・OGの総論だと思います。僕らが20年前のイメージで沖縄高専のブランドってこうだと対外的に発信しても、実際にギャップがあって入学してから「違うじゃん」ということが起きてしまうのではないかと。現状を見つめ直してリブランディングしないといけないのかなと思っています。

**【安里】** 少し山田先生にお聞きしたいのですが、高専は日本全体や海外からの評価が高いわけですが、他の高専でも同じような問題を抱えていたりするのでしょうか？

**【山田親稔】** オンラインでいくつかの高専が集まって広報する機会があり

ましたが、受験倍率が安定している高専は、新しい取組みがあって入学するところということができるとPRしている反面、どうしても低いところは、勉強に関して手厚いサポートがありますという言い方になる。まさに僕もかなり反省しながら聞いているのですが、受験倍率低下がそういったところの要因になっているのかなと。今話を聞いていると、卒業生は沖縄高専に対するすごく強い思いがあるので、できれば、特に母校の中学校で学校説明会をやるときに卒業生にも同行いただいて、沖縄高専を卒業してこういうところで活躍しているという実体験をお話していただきたいなと思っています。もう学内だけでは対応し切れない状況もあるとわかっていただけたと思いますが、これから先は、どんどん卒業生にお力を貸していただきたいなと。今日のこの会に参加していただいたOB・OGの方

は非常に沖縄高専のことが好きで今後の発展に対する強い想いもあると思うので、サポーターになっていただいて、我々ができていないところをどんどん指摘いただきたい。うまく表現できないのですが、やはり原点回帰に加えて、沖縄高専を卒業して世の中で経験したことをフィードバックしていただいて、もっと沖縄高専を活性化させていくような流れにしていければ良いかなと思う。

**【安里】** ありがとうございます。我々教職員も改善に向けて声を挙げにくい状況も段々と出てきているなというところがありまして、(ブランディングを通じて)その雰囲気も変えていくきっかけにしたいなというところもあります。だから私も運営側とどこまで本音で話していけるのかというところですが…。

**【山田親稔】** 沖縄高専は年度末に外



部評価(参与の会)をやってもらっています。僕の方から提案して、卒業生にはそれに入ってもらうというのも良いかなと。おそらくオンラインでもできますし、来ていただいて参加もできる。ここに所属していた卒業生とはいえ、外部評価の委員として入っていただくこともできると思うので、亀濱先生(同窓会副会長)を中心に、卒業生から外部評価委員を選定する仕組みを創っていただいて、卒業生の実験の経験を踏まえて、今なんかおかしいことになっているよねと意見できるのかなと。そういう働きかけをしていくのは僕の役目かなと、今日話を聞きながら思いました。

**【森澤】** すみません。同じような話で内容が被ってしまいますが…。やはり、在学生とOB・OGが交流して欲しいと思うのですよね。それを通じて、今と昔で違うところはどこかを正確に知りたいと思っています。

**【山田親稔】** やはり、沖縄県内の進学校では、OB・OGが交流会をバンバンやっているところもあります。座談会とかを定期的にやって、それをホームページで公開しているの、そういうのを、在学生との交流の場としてやると、高専で学ぶとこういう良いことがあるよ、とかを伝えることができる。おそらく、1年生の頃はわりと志があっとうまくいくのですが、2年、3年と中だるみするくらいの時にまた活力を入れるために、OB・OGとの交流会みたいなものを設けるといのも良いかもしれません。

**【宮城】** すみません、このOB・OGの交流会って、私が大学編入した時にちょこちょこ呼ばれて行っていた気がするのですが、他の進学していった学生たちも含めて。今ってそういうの

が全然ないってことなのですか？

**【山田親稔】** 全然というわけではないのですが、たぶんそこまで回っていないのが現状なので…。

**【安里】** コロナ禍を挟んでというのもあったりして…。

**【山田親稔】** もうそこは色々と割り切って、リモートでもできるのであれば、ぜひ色々な業種のOB・OGの方に講演いただける機会というのをどんどん創りたいなと思っています。

**【宮城】** 確かにそうですね、私は1年くらい前に琉球大学からもオファーが来て参加させていただいたことがありました。その時はコロナ禍で学生は基本的にリモートでしたが、県内出身の理系の学生と今県外に出て就職した人たちとで、質疑応答含めて1、2時間くらいやったので、そういうことをやってもいいかなと思いました。

**【安里】** ありがとうございます。今の時代は「共創」(共に創り上げていく)という視点が大切ということで、我々教職員だけではなく、やはり、OB・OGを含めたステークホルダーと共に沖縄高専のブランドを創り上げていきたいと思っていますので、そのような活動も進めていければと思っています。

**【坪田】** 言ってもいいですか？まず、安里先生を中心にブランドを創るところを進めていると思うのですが、ブランディングの外部有識者みたいな専門家もチームに加えたほうが良いのではないかと思います。情報発信する際の効果的なデザイン等、実績のある専門家からのアドバイスも取り入れていく必要があるのではないかと思います。

**【山田親侑】** やはり正直な話、受験倍率がすべてだと思っていて、中学生

に対して発信していくべきアピールポイントは、沖縄高専が沖縄の学校で断トツの1位であるということ。(開学当初の)受験倍率から考えれば、かつてそうであったはずですよ。2番手3番手となっている現状があるので、沖縄高専の持つべき強みは、沖縄で1番の学力を持つことなのですよ。そのあとどうしていくかは置いておくとして、まずは受験倍率を上げることを大前提に行動した方がいいかと思います。

**【安里】** 受験倍率を上げるというのは、企業でも大学でも高校でも入り口として1番最初に考えるべきことだとは思いますが、そうするためにはやはりどうPRしていくかが大事になると思います。PRのメインターゲットになるのは基本的に沖縄の小中学生になるとは思いますが、(沖縄高専の存在意義、独自性、強みに対して)いかに共感してもらえるかが、1番の志望動機につながっていくのかなと思います。

**【森澤】** 共感もそうですが、今聞いていると、ある意味、沖縄高専に対して尊敬や畏敬を持ってもらうようにすることもブランディングかもしれないです。

**【山田親侑】** そう、沖縄の東大を創ってほしい。

**【森澤】** 偏差値が良いとかそういうことではなくて、ここに行くことによって、例えば、保護者が「就職安泰だね」と思ってくれるとか、学生にとっては次の進路は明るいとか、もしくはここで学ぶことで、例えば「新しいOS作れるような専門の先生たちがいるんだ!」「スティーブ・ジョブズになれるんだ!」みたいな形になっていくとか、極端な言い方になりましたが。という畏敬があってもいいのかなって

思いました。共感というよりは引っ張るというように。

**【金城】** 要は、卒業したら〇〇(企業名)に行けて言うのと一緒ですね。それと同じくらい、中学卒業したら沖縄高専に行け、となるようにする。

**【森澤】** それも一つかもしれないですね。共感というと、いわゆるみんなのイエスを集めるのではなくて…。

**【安里】** (共感してもらうのは)みんなではないです。やはり沖縄高専にとって大事にすべきステークホルダーをきちんと見据えないといけない。だれに対してどういう発信をしていくかはとても大切なことだと思います。尊敬を得てもらうこともとても大事なことだと思うんですが…。個人的な経験として、沖縄高専に赴任した当初それを実践したのですが、全く通用しなかったというのがあります。

**【森澤】** 僕は、尊敬は入り口でよくて、入った後は親しみやすさだと思っで接しています。それに引っ張られてついてきてくれる学生はやはりいるのだと改めて感じているので、尊敬と親しみやすさ、いわゆる壁を作るのではなくて、もっと頑張れよ~とやって、フレンドリーさをつけるっていうのは、共存すると僕は思っています。

**【金城】** 両立できますね。

**【森澤】** そうだと思っています。なので(共感と尊敬は)分けないでいいのではないのでしょうか。

**【安里】** 分けるということではなくて、例えば、今日本が技術的にどんどん遅れを取ってきているというのは皆さんも実感するところと思うのですが、その原因の1つが、自分たちはこういう高い技術力を持っているからそれで製品を作ったら売れるだ

ろうという(シーズプッシュ型)アプローチのみを考えていたからだと言われています。自分たちの中で「これは尊敬されるだろう」というのを、ステークホルダーに共感してもらえなことを考えずに決めてしまうと、同じような道に進んでしまいそうな気がするのです。別に共感と尊敬が分離しているというわけではなく、ステークホルダーの共感が得られないと、ブランドを共に創り上げていくのは難しいのではないかと感じています。今の教育にも同じことが言えて、我々はこういう先進的な教育をしています、とって色々なことをやっている。ある知人から指摘されて気づかされたのですが、でもそれは、必要以上の機能をどんどん付けていって結局コストだけが加算していった、かつてのものづくりと同じことをしてしまっている。それだと、本当に自分たちが尽力すべきところがわからなくなり、目標も見失ってしまうのではないかなと。

**【兼城】** 少し重ねさせていただきませんが、言っていることはすごく大事だと僕は思っていて、共感という言葉に認識のずれがあるのかなと思います。正しい意味でのPR、パブリックリレーションズをどうやっていくか。しっかりとメッセージングしていくためには、変な贅肉がついてしまうと、結局よくわからないということになる。そうなる(効果的な)PRもできないということになります。おそらく沖縄高専が今やるべきは、マーケットがどこにあって、何にニーズがあるかを正しく理解すること。それがわかっていないと持っている強みを伸ばしてもしようがないわけですよ。すべてに寄り添うというブランディン

グは、結局誰も寄ってくれなくなるので、ここが尖っているという1点をしっかりと持つのが大事で、僕らOB・OGは沖縄高専のそういうところに惹かれて入学したのです。それを拾い上げられると見えてくるのかなと思いますが、尖っているものが今なくなっているのなら、そこは磨き直してくださいという話になります。

**【安里】** そうですね。ご指摘を受けて共感という言葉の認識が私と皆さんで違っているようでした。私の言う共感とは、見据えたターゲットの感情に訴えかけて受け取ってもらえるという意味合いで、ブランディングにおいては、(存在意義、独自性、強みに)共感を得てもらえるような高専であるということきちんと伝えていくことが大事と思っています。では、誰をターゲットにすれば良いのかということですが、今後も議論を重ねていって具体化していければと思っております。ありがとうございました。

**【安里】** 進行の不便もあり、予定時間を大幅に超えてしまいましたが、継続してこのような座談会を開いていきたいと考えております。今後ともどうぞご協力よろしくお願いたします。ご参加と活発な議論とご意見をいただき、ありがとうございました。



[おわりに]

本座談会では、ブランディングのスタートとして、卒業生と若手・中堅の教職員で沖縄高専の現状と未来について活発な議論を行いました。ブランドの確立にはまだ道半ですが、まずは、この活動を学内全体にも広めていくために、本座談会の中で坪田氏から助言のあった、本校教職員を対象としたワークショップ「沖縄高専のブランドを考える」を令和5年3月に実施しました。沖縄高専ブランドの確立に向けて気運を高めていくために、これからも継続して様々な取り組みを企画・実施して参ります。

## 教職員ワークショップの様子



# 第2章

沖縄工業高等専門学校創立20周年

## 20<sup>20 year Trajectory</sup>年の軌跡

### ■沿革

### ■各学科等の特色

機械システム工学科長・教授 眞喜志 隆

情報通信システム工学科長・教授 谷藤 正一

メディア情報工学科長・教授 玉城 龍洋

生物資源工学科長・教授 玉城 康智

総合科学科長・教授 山本 寛

専攻科長・教授 高良 秀彦

技術支援室・技術専門員 具志 孝

### ■各プログラム・コースの取組

航空人材育成委員長・教授 谷藤 正一

生物資源工学科・教授 池松 真也

観光・地域共生デザインコース長・教授 眞喜志 治

### ■国際交流の取組

多文化共生・国際交流推進本部長・教授 田中 博

20年の軌跡  
平成9年 — 令和5年

National Institute of Technology, Okinawa College

本校は沖縄県、関係市町村及び産業界からの強い要請を受け平成14年10月に開学しました。

#### ■平成9年

■1月22日  
沖縄政策協議会プロジェクトチーム現地会合において、沖縄県側から国立工業高等専門学校の誘致について要請

#### ■平成11年

■8月11日  
稲嶺沖縄県知事から国立高等専門学校の早期設置に関する要請書の提出

■9月27日  
稲嶺沖縄県知事から国立高等専門学校設置候補地について名護市辺野古地区を推薦し要請

■12月28日  
「国立高等専門学校設置の確実な実現」が盛り込まれた「沖縄県北部地域の振興に関する方針」等が閣議決定

#### ■平成12年

■3月1日  
国立高等専門学校（沖縄）創設準備調査室を琉球大学に設置

■3月17日  
国立高等専門学校（沖縄）創設準備調査委員会を設置

■4月1日  
国立高等専門学校（沖縄）創設準備委員会を設置

■8月10日  
「国立高等専門学校（沖縄）の創設について（中間まとめ）」を取りまとめ公表

#### ■平成13年

■4月20日  
国立高等専門学校（沖縄）創設準備委員会教育方法・課程等部会及び施設・設備等部会を設置

■7月27日  
国立高等専門学校（沖縄）の設置に必要な用地の取得等について依頼

#### ■平成14年

■1月24日  
国立高等専門学校（沖縄）創設準備委員会教員選考部会を設置

■4月10日 国立学校設置法改正

■6月5日  
「国立高等専門学校（沖縄）の創設について（最終まとめ）」を取りまとめ公表

■10月1日  
沖縄工業高等専門学校開学（機械システム工学科、情報通信システム工学科、メディア情報工学科、生物資源工学科）  
初代校長に糸村昌祐が就任

■10月24日  
沖縄工業高等専門学校開学記念シンポジウムの開催

#### ■平成15年

■2月27日  
沖縄工業高等専門学校起工式の挙行

■3月31日  
事務室をNTT名護別館（名護市大東）に移転

#### ■平成16年

■1月10日  
推薦による選抜試験の実施

■1月28日 第I期工事竣工

■2月22日  
学力検査による選抜試験の実施

■3月10日  
名護市民会館にて第1期生に対する入学説明会を開催

■3月22日  
事務室を新校舎（辺野古）に移転

■4月10日  
第1回入学式を挙行、175名が入学



- 4月 21日  
沖縄工業高等専門学校産学連携協力を発足
- 8月 2日 学生会発足
- 9月 30日 第Ⅱ期工事竣工
- 10月 31日  
沖縄工業高等専門学校後援会設立総会開催
- 11月 5日  
沖縄工業高等専門学校竣工記念式典を挙

---

### ■平成17年

---

- 2月 2日 レリーフ除幕式を挙

---

### ■平成21年

---

- 3月 21日  
第1回卒業式を挙、147名が卒業
- 4月 1日  
専攻科（創造システム工学専攻）を設置
- 4月 4日  
第1回専攻科入学式を挙、28名が入学

---

### ■平成22年

---

- 4月 1日  
第2代校長に伊東繁が就任

---

### ■平成23年

---

- 3月 19日  
第1回専攻科修了式を挙、27名が修了
- 3月 25日  
専攻科棟竣工

---

### ■平成25年

---

- 4月 3日  
第10回入学式を挙、166名が入学
- 9月 21日  
創立10周年記念式典を挙

---

### ■平成27年

---

- 4月 1日  
第3代校長に安藤安則が就任
- 4月 1日  
航空技術者プログラム設置

---

### ■令和2年

---

- 4月 1日  
第4代校長に伊原博隆が就任

---

### ■令和4年

---

- 4月 1日  
第5代校長に佐藤貴哉が就任

---

### ■令和5年

---

- 4月 1日  
観光・地域共生デザインコース設置

## ■ 機械システム工学科



機械システム工学科長・教授

眞喜志 隆

機械システム工学科の特色とこれから

2003年に沖縄高専は設立され、2004年から一期生を迎え入れました。2009年からは専攻科もスタートしており、今年で20周年となりました。この間、社会的に大きな出来事としてはリーマンショック、東日本大震災、最近ではウクライナ紛争が起きており、どれも卒業生の進路に影響を与えたと考えております。機械システム工学科は、オーソドックスな機械工学の学問分野を基礎として、制御工学を加えて再構成した形で学科のカリキュラムが作られてきました。いわゆる四力学である材料力学・流体力学・熱力学・機械力学に制御・計測・プログラミングを加え、さらに工作実習と工学実験を加えて、基礎的な内容から応用まで広い分野を学修するカリキュラムに立っています。2015年からは地元航空会社を始めとした各種企業の協力を得て、航空機整備や製造技術者の育成を目指した航空技術者プログラムも開始し、この10年の間は定期的に航空業界へ人材を送り出しております。

卒業生の進路に関しては多種多様で、工学系の大学への進学だけではなく、少数ですが経済系への大学への進学者も出ております。就職に関しては、機械金属系である自動車とその関連分野、航空宇宙産業とその関連分野、金属材料の製造に関する分野、社会インフラに係る電力、エネルギーに係る分野、精密加工機械の設計や製造に係る分野、食品加工に係る分野、物流に係る分野、土木建築等の建設に係る分野、樹脂材料等の化学工学に係る分野など多種多様です。これらの企業の中で、専門の知識を活かした設計・製造・機器の整備等で活躍しております。

ここ数年、本学科では社会からの要請や入学生の特性を考慮して、さらに今後の10年を見据え講義内容やカリキュラムの更新を行い、入学生を取りこぼすことなく十分な力をつけて卒業していくカリキュラムを進めております。入学志願者の増加もなかなか難しいところではありますが、社会基盤の基礎を支える技術者育成を担う学科として今後も進んでまいります。

## 情報通信システム工学科



情報通信システム工学科長・教授  
谷藤 正一

人類福祉を情報通信技術で支える  
エンジニアを目指して！

時代によって情報化社会、ユビキタス社会、IT社会、IoT社会など様々な言葉が使われていますが、その根本にある「ICT（情報通信技術）」は、現代の社会にとっては必要不可欠なものです。インターネットが爆発的に普及し、さらに携帯電話やスマートフォン、タブレットなどの情報通信機器は、もはや当たり前のように浸透しています。これは日本ばかりでなくアメリカ、ヨーロッパはもちろん、アジア諸国においても情報通信産業の発達は目覚ましいものがあり、情報通信産業を考えるとときには世界の動向もきちんと見据えなければならない状況です。

このような背景の中で、情報通信システム工学科では、まさに現代社会を支えている情報通信技術について学びます。その中には、コンピュータを構成する電気・電子回路や半導体集積回路などのハードウェアの分野はもとより、機器を制御するためのアルゴリズムやプログラミングと言ったソフトウェアの分野が含まれます。さらに機器同士を接続するために光ファイバなどの有線や電波を使った無線通信およびネットワーク技術も必要になります。これらの技術を応用し、組み合わせることで一連の作業が行えるシステムを構築することができます。航空機やロボットの制御もできますし、電源も何もないICチップ内蔵のクレジットカードや交通系電子マネーなどは支払料金の決済までも出来てしまいます。このような技術は、身の回りの電子製品や家電製品には欠かせませんし、近年注目されているAI（人工知能）にももちろん使われています。

本学科では、アドミッションポリシーとして、

- ・コンピュータ、インターネットなどに興味を持っている人
- ・スマートフォン、タブレットPCなど新しい電気製品や電子工作に興味のある人
- ・情報や通信の技術を身につけて、社会に貢献したい人

という中学生を受入れてきました。このような情報通信技術に興味を持って入学した学生が、環境と技術の調和や社会的責任を考え、日々急速に進歩し続けている情報通信の分野で活躍できるように、これからも社会が求める時代の変化に適応した実践的・創造的技術者を育成していきます。



## メディア情報工学科



メディア情報工学科長・教授  
玉城 龍洋

### メディア情報工学科の特色

メディア情報工学科は情報工学を学ぶための学科です。設立当時の2004年の沖縄県には情報工学を学ぶことができる高等教育機関が琉球大学しかなく、IT化の波の中、最も新しい国立高専として、今後の日本そして世界をけん引していく技術者の育成機関として情報工学を学ぶ学科を作ることは必然だったと考えられます。また、当時の考えは分かりませんが、スマートフォンもYouTubeも生まれていない時代にそれを予見するかのように学科名に「メディア」というキーワードを入れた準備調査室の慧眼に感服です。この学科名は、本学科が今も沖縄高専の中で突出した人気（入学者志願倍率）に影響を与えていると思います。

本学科のカリキュラムは、「プログラミング」、「ネットワーク」、「コンテンツ」の3本柱で成り立っています。「プログラミング」ではプログラミング言語を駆使して、様々なコンピュータやネットワーク機器を制御する術を学び、「ネットワーク」ではインターネットなどのネットワークの基盤についての基礎知識とその運用方法、そして情報セキュリティについて学びます。そして、「コンテンツ」では、設立当時の工学系高等教育機関では珍しかったと思われるインターネットなどのネットワークを含むコンピュータ上のコンテンツの作成やその理論を学びます。まさに現在の様々なコンテンツが存在するインターネット、5Gなどネットワーク環境のある現在のIT社会を活用する技術者を育成するために必要な知識と技術を学ぶ内容になっています。

学生生活に目を向けると、本学科にはもう一つの特徴があります。それがICT委員会をはじめとする課外活動とコンテストへの参加です。本学科は、他学科に比べると比較的カリキュラムに余裕があり、自由な時間があります。その時間を活用し、授業ではカバーできない最先端の技術や知識の習得や各種コンテストへ参加する学生がいます。まだまだ一部の活動する学生のことでありますが、彼らには、名物教授に導かれ、学校の正課外で、遊び・趣味の延長としてコンピュータの新しい知識と新技術へあくなき探求を行うマインドが確かにあります。これを学科に、さらに学校に広げていくのが次の10年の目標だと思っています。

## ■生物資源工学科



生物資源工学科長・教授

玉城 康智

### 生物資源工学科 20年の軌跡

沖縄県は亜熱帯気候特有の多様性に富んだ生物資源に囲まれ、特に海洋性資源では世界でも類をみない可能性を持つ島々で構成されている。このような環境の中で設立された生物資源工学科では、これら亜熱帯資源をはじめとした生物資源を積極的に利用し、かつ環境に配慮した資源利用に対応できる人材の育成を目指し専門分野を下記の3つに分けた教育課程により研究・教育活動を行ってきました。専門科目の授業科目は、生物化学工学群、環境・微生物学群、食品化学工学群の3群を軸に教育・研究を展開しています。本学科では、これまで積極的に地域産業との交流を行ってきました。その一例を紹介します。

#### 1) 沖縄高専の特長のある教育～バイオインフォマティクス～

バイオインフォマティクスとは、感覚的な理解ではなく、数値に基づいた説明を行うことができる技術者・研究者を養成する学問です。これは、生命科学だけではなく医学、薬学、化学、農学、環境学、数理科学、情報科学など様々な分野と関係しています。沖縄高専では、2008年から沖縄県と連携し「バイオインフォマティクス人材育成」に取り組んでいます。

#### 2) 産学連携事業

内閣府のバイオマス等未活用エネルギー事業調査事業や、NEDOの新エネルギーベンチャー技術革新事業、県内企業と連携しバイオマスエネルギーの地産地消を目指した研究開発を行いました。また、沖縄県の微生物等を活用した汚染土壌の浄化処理技術開発事業および成長分野リーディングプロジェクト創出事業では、複数の県内企業と共同研究として沖縄の環境に適したバイオレメディーション技術の開発に取り組んでいます。

#### 3) 市町村との共同研究

沖縄の在来植物「島桑」の血糖値上昇抑制効果等の機能性に関する研究を行い、浦添市等と共同で、「てだ桑茶」を開発しました。現在は、民間企業が製造し県内スーパー等で販売されています。

#### 4) 沖縄高専ブランド泡盛「香仙：こうせん」の販売

生物資源工学科では、泡盛および名護地域の活性化を目的に平成2011年度から名護市に工場を構える津嘉山酒造所の協力により、毎年本科5年生が夏休み期間中に沖縄高専ブランド泡盛（香仙）を醸造し、卒業式に限定販売を行っています。



写真：香仙

## 総合科学科



総合科学科長・教授

山本 寛

### 総合科学科の特色

本校の教育課程は、高等専門学校設置基準に基づき、一般科目と専門科目で構成されています。本校における「総合科学科」は、専ら一般科目を担当する教員の集まりで、(毎年度、約40名(定員)ずつ学生を受け入れる)本校の専門4学科とは「学生が1人も所属していない」という点で本質的に異なる学科です。本校の教育課程は、低学年では一般科目が多く、高学年になるに従って専門科目が増える、いわゆる「くさび型」となっています。このため、授業などで低学年(特に1、2年次)の学生と対面する機会が多いのが、総合科学科の教員のお仕事の特徴です。

本校では、1つの学年につき約160名(専門学科毎に約40名ずつ)の学生が在籍しており、3年次以上の学生は、専門学科別に約40名ずつの学級を、1、2年次の学生は、4つの専門学科の学生を均等に混合した4つの「混合学級」を編成して学びます。混合学級には「自分の所属する専門学科以外の学科の学生と交流することによって学問に関する視野が広がる」というメリットが期待できる一方、「授業時間割に課される制約が大きくなり、学生にとって学びやすい時間割の作成が難しくなる」など、教育上のデメリットも存在します。

本校の教員のお仕事のうち、「自分の担当している科目の内容を教えること」以外で、学生との距離が最も近いお仕事が「担任業務」です。特に低学年の学生は、年齢でいえば高等学校の生徒に近いということもあり、(大学生に近い年齢の本校高学年の学生に比べて)共に学ぶ友人たちの雰囲気、学級の雰囲気に影響を受けやすい傾向があります。指導者としての立場から、学級を安心・安全な学びやすい雰囲気に保ち、一人一人の学生の心配事や悩みを聞き、学生にとって最も良い選択を、学生に寄り添いながら共に考える担任業務は、本校の教員の業務の中でも、教育上、特に重要なものの一つです。総合科学科の教員は、前述の通り、1、2年次の学生と授業などで対面する機会が多いことから、1、2年次の混合学級の主担任、副担任を担当しています。



## 専攻科



専攻科長・教授

高良 秀彦

### 専攻科の軌跡

本校の専攻科は平成21年4月に設置され、今年度の入学生が15期生となります。機械工学、電気電子工学、情報工学、生物工学の各分野において深い専門知識を修得し、さらには異なる分野の知識も修得し、融合・複合化の進んでいる産業界において実践性・創造性を兼ね備えた技術者の育成を目指し、専攻科名を「創造システム工学専攻」としています。4つの専門分野を融合・複合するための「創造システム工学実験」や国内外の「長期インターンシップ」等の特徴的なカリキュラムを策定しています。

創造システム工学実験においては、地域の課題解決をテーマとして取り組んでいます。昨年度から今年度にかけては、名護こども食堂と連携し、地域資源（麦芽粕、乾燥酵母）を活用して子ども達が喜んで食べる商品の開発や、むし菌が多い子ども達の口腔健康意識を高めるために咀嚼運動を促進させるアプリ作成等を行っています。

大学改革支援・学位授与機構の学修総まとめ科目である「特別研究」においては、課題解決のための研究計画を立案し、自主的に研究を遂行し、学んだ知識を総合し問題解決ができることを目標としています。毎年、琉球大学工学部との研究交流発表会を実施しており、この交流会や学会等で、外部の方々と意見を交流することによって、技術者・研究者としてのスキルを向上しています。コロナ過で遠隔授業などの活動制限中でも活発に研究活動が行われ、一人当たりの発表した対外発表数は1.2件以上であり、発表が学会で受賞するなど高い評価も得ています。

今年度より、九州沖縄地区9つの高等専門学校の各専攻科と九州大学工学部「融合基礎工学科」が連携して教育を行う「九大工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラム」も始まりました。履修者は高専専攻科と九州大学の双方に在籍し、メジャーとなる専門教育に加え、関連性の高い情報応用教育を修得し、グローバル社会への情報発信力と実践的応用力を培います。来年度から本校の学生も本プログラムへ入学する予定です。

平成21年度から令和4年度まで322名が修了しており、学位授与申請者全員が学士（工学）を授与されています。沖縄高専の専攻科は、今後も、沖縄高専の先鋭として活発な研究・地域貢献活動を推進する組織として発展するものと期待されます。

## 技術支援室



技術支援室・技術専門員  
具志 孝

### 技術職員 の 20 年 間 の 歩 み

国立高専の技術職員の組織化が進む中、2006年4月1日沖縄高専に「技術支援センター」が発足した。これにより、職制として技術長を置くことが可能となり、初代の技術長には屋良朝康が就任した。沖縄高専の技術職員は、実践的な教育・研究および地域貢献活動を専門的な知識・見識を活かして効果的・効率的に教職員と連携して活動を行ってきた。特に、実践的な教育に関しては「学生ファースト」を主として、技術指導・支援を行った。業務内容としては、授業支援、学生・教職員からの技術相談、加工・分析依頼、出前授業、公開講座、地域貢献、共同研究、施設・設備管理(夢工場・学内のネットワーク環境・温室)を行っている。

技術職員組織では技術職員に対して自己研鑽としての技術研究を奨励し、成果発表として学会や研究会での発表を行うことで専門知識の向上に努めた。これによりキャリアアップとして2023年までに5名が博士号を取得し、2名が高専の教員となっている。

2020年3月31日、初代技術長(室長も兼務)が退職することとなった。以後、技術長の就任はない。現技術支援室は、組織化後17年の間で3回の名称変更が行われている。2006年に『技術支援センター』として発足し、2008年には『技術支援室』、2013年に『技術室』となり、2020年に再び『技術支援室』と名称変更がなされた。名称変更のたびにそれぞれの組織名に対する理念がぶつかり、議論を繰り返してきているが、技術職員の学校運営における立ち位置や学生指導における思いが変わることはない。

結びに技術職員の組織化に伴い技術職員組織として17年目を迎えました。組織としては、度重なる組織名の変更や技術長の不在など解決しなければならない問題もありますが、私たち技術職員は幅広い分野へ対応するモノづくりや高度な専門的知識を活かした実践的な教育や技術指導、研究支援等を行ってきました。今後も今まで通り「学生ファースト」の方針を一番に掲げ「技術職員としての本分」を全うし続けます。

## ■ 航空技術者プログラム



航空人材育成委員長・教授

谷藤 正一

支える航空技術者へ！  
沖繩の空を、そして世界の空を

航空関連産業は多くの先端技術が結集した産業領域であり、官民を挙げて自動車に次ぐ基幹産業への期待も高まっています。沖縄県は、島嶼地域の地理的環境にあって、県の21世紀ビジョンに航空関連産業クラスター形成を掲げ、国内外とのゲートウェイ機能を担う那覇空港に航空機整備事業を新たに誘致し、第二滑走路の供用開始と併せて、航空関連分野が新たなリーディング産業として期待されています。

その中で本校は、航空産業に人材を輩出していくことが地域振興に貢献する高等教育機関としての役割の一つとして考え、平成27年4月より産学連携した『航空技術者プログラム』を設立し、航空整備士や製造技術者の育成に日々邁進しています。

本校は沖縄県のエアライン2社（JTA [平成30年3月] およびRAC [平成31年3月]）と包括的な連携協定を結び、また、ANAやMRO Japanとも連携し、講師の派遣や実習環境の提供を受けており、座学ばかりでなく現業整備の場で航空整備の基礎知識と技能を習得することが可能となっています。本プログラムは、今後の人材不足が予想される航空関連産業分野の人材育成に関して先駆的で独創性のある取り組みと言えます。

低学年においては、JTAより第一線で活躍する担当者や本校の卒業生を講師として招き、航空機に関する基礎知識に加えて、沖縄県の航空事業や観光産業などの導入教育を実施しています。また、4年以上の高学年では、ANAからの出向の常勤講師による専門的な座学や、航空関連産業の現場に赴きインターンシップ実習を行っています。さらに、JTAの整備士およびその退職者を非常勤講師として、学内においても整備の基礎実習を行うことができる環境が整っています。専攻科では、重工メーカーなどにおける設計・開発など、より高度な製造技術者を育成するカリキュラムとして、九州大学からも講師を招聘し、専門性の高い航空工学の座学を行っています。

本プログラムの開始以前は、航空関連産業に輩出した学生は僅かに2名でしたが、本プログラムの設立からこれまでに40名を超える卒業生を送り出しており、本校の人材育成が増々期待されています。



## 再生医療プログラム



生物資源工学科・教授

池松 真也

再生医療への貢献及び  
再生医療人材の育成に向けて

創立20周年、おめでとうございます。

今年もまた、全国高校野球選手権大会の沖縄県予選が始まりました。私は、2006年（平成18年）4月1日に沖縄高専に赴任しましたが、実際は硬式野球部監督として3月の最終週にはユニホームを着てグラウンドに立っていました。もちろん、硬式野球部の監督が主務ではなく、生物資源工学科の3年次「生化学」を担当する教員として雇用されましたが、教員の経験はなく、医学部での研究や前職までの医薬品研究・開発の経験を人材育成に活かすことを考えていました。

工業高等専門学校と医薬品開発はあまり接点がなかったのですが、沖縄県では2015年に再生医療拠点構築を行う本土の製薬企業が進出してくるなど、2012年京都大学山中伸弥博士のiPS細胞の発明によるノーベル賞受賞が大きな原動力となり、沖縄県の産業にも“再生医療の波”が押し寄せてきました。沖縄高専でも生物資源工学科が中心となって再生医療への貢献を考え、2015年（平成27年）7月31日の沖縄県庁での公募審査会にて「再生医療実現のための産業技術開発」と題してプレゼンテーションを行い、採択されました。当該事業では、沖縄高専、澁谷工業株式会社、株式会社サイフューズと佐賀大学がコンソーシアムを組み、取り組むことになりました。私達の取り組みの目玉となったのは「バイオ3Dプリンター」でした。この装置は1台1億円ほどでしたが、装置のアームの先端に着いた探触子が培養皿の中で培養された、どんな細胞にも変化できる“幹細胞”を1つ掴み取り、コンピューターに予めプログラムした形に剣山のような器具に刺していくという特徴を持っていました。事業がスタートして1年後には、佐賀大学の方では「小さな心臓」まで作製することができるようになり、これを見学された安倍晋三元首相が凄いと評価されたそうです。幹細胞の大量培養と当該装置を用いた臓器等の作製で沖縄県から再生医療の原材料をアジアを含めた内外へ空輸搬送するシステム構築が最終目標でした。この細胞培養人材育成の取り組みは、現在も「生理学実験」等の授業に反映されており、全国の高等教育機関でも珍しい実習の一つになっています。本事業の成果は、株式会社フルステムに引き継がれています。



生物資源工学科・教授  
GEAR5.0ユニットリーダー

池松 真也

GEAR5.0の防災・減災・防疫ユニットの  
拠点校として

創立20周年、誠におめでとうございます。

昨年（2022年）、KOSENは高等専門学校制度創設60周年を迎えています。昭和37年（1962年；私の生まれた年です）4月に第一期校が開校され、これらの高専は人間で言えば還暦を迎えたことになります。一方、最も新しい我ら沖縄高専は本年、やっと20年目を迎えているところです。果たして、沖縄高専は先輩高専に負けない力を付けてこれたのだろうか？そのような疑問も湧いてきますが、学生諸君は、これまで、ロボコン、プロコンをはじめ、多くのコンテストで全国優勝するなど、素晴らしい成果を挙げてきています。そのような中で、20年間みんなで頑張ってきた沖縄高専の自力・実力はどのくらいなんだろうと思う時があります。

GEAR5.0（未来技術の社会実装教育の高度化）は、COMPASS5.0（次世代基盤技術教育のカリキュラム化）と共に、令和2年（2020年）度よりスタートした「Society5.0型未来技術人財」育成事業です。GEAR5.0は「マテリアル・ユニット」、「介護・医工ユニット」、「防災・減災・防疫ユニット」、「農林水産ユニット」、「エネルギー・環境ユニット」の計5ユニット6拠点で構成されています。沖縄高専は、令和3年度より、この中で「防災・減災・防疫ユニット」の拠点校を務めています。近年、頻繁に発生する豪雨や大きな地震などの自然災害に加えて、「新型コロナウイルス」のような社会現象にKOSENとして、どのように貢献していくことができるのかを全国の高専から5つの協力校（鶴岡高専、長岡高専、和歌山高専、宇部高専、新居浜高専）に参加していただき、その他の高専、大学、国公立の研究機関及び企業様と連携して取り組んでいます。高専機構の谷口理事長は、機会ある毎に「高専は社会のお医者さんとして地域に貢献しないとイケない」とおっしゃられています。このGEAR5.0では、既にいくつかの社会実装事例やインパクトのある学術論文を発表できています。また、ライフサイエンス研究拠点構築として、沖縄高専が全国の高専の「ライフサイエンス教育・研究センター」にもなっています。安心してください！沖縄高専は全国の高専をリードする存在になっています。みんなの力を結集して、次の10年も、更に飛躍していきましょう。

## ■ 観光・地域共生デザインコース



観光・地域共生デザインコース長・教授  
眞喜志 治

挑  
戦  
的  
な  
取  
り  
組  
み  
に  
つ  
い  
て

次  
の  
10  
年  
に  
向  
け  
た、

本校は、令和5年度のスタートと同時に、自身の専門分野に加え、環境技術と情報処理技術を基礎とした工学系の専門知識と広く人文社会系の素養を身につけ、観光資源開発や地域共生システムをデザインできる創造性豊かな人材育成を目的とした「観光・地域共生デザインコース」を開設しました。元々、これからの10年に向けて、2つの情報系学科を有する強みを活かして、データの利活用に高い能力を有し、社会実装を強く意識した課題解決のできる人材育成のための教育プログラム構築を検討していました。そこに、突然舞い降りた「観光」というキーワードに加え、これからの高等教育に求められる「文理横断的な教育」を盛り込んで再検討を進め、このコースを構築するに至りました。観光と工学（あるいはエンジニアリング）の直接的な結び付きをすぐには見出すことができませんでしたが、検討を進めるなかで、工業を含めた様々な産業が観光を支えていること、観光においてもデジタル化が進んでいること、そしてデータの利活用が強く求められていることなどを知り、本校が育成するエンジニアの活躍できる新たなフィールドとしての可能性を強く感じました。このコースでは、「地域の発展のために、必要なデータを収集・分析・活用できる」、「地域の特長を理解し、伸展させることができる」ならびに「地域の発展のために、新たなリソースを発掘することができる」能力を身につけるためのカリキュラムが用意されており、特に、データサイエンス、アントレプレナーシップ教育が充実している教育内容が特長と考えています。これらの教育については、外部の専門家に参画していただき、より実践的な教育となるように多方面からの協力を取り付けています。現時点ではスタートしたばかりの教育プログラムですが、自身の選択した専門分野を学び、身につけた知識と技術を地域の課題解決に役立てるとともに、データを有効に利活用でき、新たな価値を創出できる人材の活躍を思い描きながら、この「観光・地域共生デザインコース」の発展に向けた取り組みを存分に楽しみたいと考えています。





多文化共生・国際交流推進本部長・教授

田中 博

これからの国際交流、  
これまでの国際交流、

振り返ると、私の“国際交流”は1990年2月に遡ります。初めて成田空港に行き、初めて飛行機、それも国際線に乗って、出発と到着の階が違うことも知らず、だからトロント（カナダ）で乗り換えた時には空港で迷子になって、でも結局、ペルーで財布はすられたけれど、たくさんの「新しい出会い」と「新しい経験」を積んで帰国しました。ここで得たことが、自分の「活動」としての“土台”とともに、「意識」としての“土台”にもなっています。皆さんの“国際交流”は、どんなものですか？ Seize the fortune by the forelock. (チャンスの神様は前髪しかない)

2010年度以降、世界9か国（インドネシア、スリランカ、ラオス、モンゴル、カンボジア、マレーシア、タイ、チュニジア、ミャンマー）から31人の長期留学生が本校で学び、2023年4月現在、世界5か国から14人の留学生在籍しています。また2017年度以降、コロナ禍での受入・派遣中止があった中、100人を超える中期・短期留学生を本校に招き、学生たちと様々な活動を共にしました。本校からは190人を超える学生が海外留学に挑戦しています。これらの活動を通して学生たちはどんな「新しいこと」を知って、得て、今、ひとり一人がどこで何をしているのか？ 会って話がしてみたい。Wisdom is the daughter of experience. (経験から知恵が生まれる)

国際交流といえば「受入」と「派遣」ですが、昨今、ネットを使えばいつでも、どこでも、誰とでも、年齢や言語、規模の大小や内容を問わず、国際交流できます。一方、国際交流が持つ価値や魅力、そして影響力は、時代が移っても変わらないと思います。初めて足を踏み入れた異国の地で自分とは違う文化や習慣を持つ人たちと出会い、一緒に生活することで「新しいこと」を受け入れ、「新しいこと」として自分を受け入れてもらうこと、この「新しいこと」が自分の“土台”を大きくし、“色”をつけ、さらに“形”を変え、そして自分の世界が豊かになっていきます。The more you know, the more you can. (知れば知るほど、もっとできるようになる)

自動翻訳機の性能が向上し、生成AIが一世を風靡するこれからの時代、国際交流の形も変わります。より多くの人々が、より気軽に交流できる環境になって、より多くの人々が「新しいこと」を得て自分の世界をどんどん広げる、ワクワクするようなグローバル時代がやって来ます。学生も教職員も保護者の皆さんにも、自分なりの“国際交流”を見つけて欲しいと思う一方で、空港や異国の地で迷い、迷ったからこそ出会える「新しいこと」があるということも知って欲しいし、挑戦して欲しいと思います。Where there is a will, there is a way. (意志あるところに道は開ける)



# 第3章

沖縄工業高等専門学校創立20周年

Message to  
National Institute of Technology, Okinawa College

## 沖縄高専へのメッセージ

---

■元校長

■元事務部長

■教職員

■卒業生・在校生・留学生





第3代 校長

安藤 安則

## 沖縄高専創立20周年記念を祝して

この度、沖縄高専創立20周年を迎えるに当たり、一言お祝いを申し上げます。

私は2015年の3月中旬に沖縄高専を初めて訪問した時、辺野古の地に忽然と現れた南カリフォルニア風の建物と学生達の明るい雰囲気我感到したことを記憶しています。それから2020年3月末までの5年間の沖縄高専の活動を振り返り、今後の発展を祈念したいと思います。

糸村初代校長と伊東第2代校長の後を受け、私は、教職員や学生の皆さんへ3つの重点目標、即ち教育・研究のグローバルスタンダード化、社会ニーズに対応した出口管理の充実、リスク対応力の強化を掲げて3代目校長に着任しました。

この5年間で、沖縄高専は、地域の企業、市県や政府官庁と連携して航空技術者プログラム、サイバーセキュリティ人材育成プログラム、再生医療プログラム、Bio Informatics、創薬、水中ロボット開発プロジェクト、AIによる不発弾探査プロジェクト等、他の高専には見られない沖縄の特性を生かしたプロジェクトを展開し、関連産業分野へ多くの優れた卒業生を送り出してきました。

更に、学生達は、ロボコン、ICTビジネスプランコンテスト、俳句や英語プレゼンコンテスト等に真摯に取り組み、多くの輝かしい成績を取めました。また、学生達は地域の養護施設等への支援機器の社会実装化活動を通じて、地域への社会貢献も活発に行いました。

国際交流に関しては、沖縄高専はフィンランド、スロベニア、オランダ、台湾、タイ、米国等の多くの海外大学と新たに国際交流協定を結び、短期留学も含めた沖縄高専の学生の海外送り出しや、海外からの学生の受け入れを推進し、学生や教職員の国際通用性を高めました。

これらの成果に基づき、沖縄高専は、2015年度から連続して3年間、全国51国立高専の中で外部資金獲得額の首位の地位を維持することができました。これらの成果は、偏に教職員、学生や地域の皆さんに支えられて達成されたものであり、深く感謝します。

さて、今日の世界に目を転じると、ロシアのウクライナ侵略等の安全保障の問題、世界経済のデカップリング等の課題山積の中、百年に一度の大変革と謂われる自動車や航空機の電動化、チャットGPTに代表される第4のサイバー社会化の波が出現しています。これから変動の激しい世界に巣立ってゆく学生の皆さんには、グローバルな動向を把握しながら、世界中のライバルと協働課題を見つけ解決してゆくことを切に希望します。

私は2020年3月末に沖縄高専からコロナ禍のBangkokに渡り、政府間プロジェクト、Thai KOSEN Initiative Projectのプロジェクトマネージャーとして、タイの優秀な学生達の人材育成に携わりました。東南アジアの多くの学生達が世界を目指す姿に接し、沖縄高専の学生も世界に視野を広げ、大きく活躍して欲しいと痛感しました。

結びに当たり、グローバルな視野を持ち、沖縄の地域特性を生かした、産学連携の「スマートなモノづくり産業」の振興が強く求められる今、沖縄高専の今後の更なる発展を期待しまして、創立20周年のお祝いの言葉と致します。



JTAからのJet Engine贈呈式の記念写真



第4代 校長

伊原博隆

## 地域に根ざし、世界に羽ばたく沖縄高専へ

創立20周年、おめでとうございます。沖縄高専に第4代校長として就任するまでは、約40年に渡り大学人として教育、研究、運営等に携わってまいりました。その間、編入学制度により国内各地の国公立高専から優秀な人材を多数引き受け、また非常勤講師として有機化学関連科目を担当した経験はありましたが、いざ高専の校長を引き受け、立場が逆転して人材を大学（や社会）に送り届ける側に立った時、その責任の大きさに改めて気付かされました。大学人として培った知識や経験が高専教育の発展、高度化に向けてどのように貢献できるだろうかと頭を巡らせました。このような不安と期待をよそに、着任直前の2月頃から新型コロナウイルス感染症が全世界に広がり、気がつけば校長着任の最初の決断が入学式の中止、その後の教育・学習のあり方が大きく変わったことは皆さんご存知の通りです。生活様式は一変し、学生は様々な制限下で窮屈な学習・学生生活を余儀なくされ、教職員は遠隔授業を中心とした教育システムへの移行に四苦八苦しました。これに付随して様々な課題や問題が噴出しましたが、未曾有のコロナ禍にあっても学生や教職員、そして社会全体がこの大きな変化を受入れ、ピンチをチャンスに変え、様々な進化を育みながら適応してきたように思います。

一方、コロナ禍であっても校長に課せられたミッションは顕在化しており、沖縄高専の個性をいかに伸張させ、高等教育としての高度化をいかに進めるか、変化し続ける社会ニーズにいかに対応するかなど課題は明確でした。幸いコロナ禍では、行動や活動が厳しく制限されたものの、逆に沖縄高専の現状を再認識し、分析する時間に充てることもできました。改めて初代校長の糸村先生を中心に設計された沖縄高専のポテンシャルの高さや、先代校長の足跡を知る機会となり、可能性や進むべき方向性を見つめる機会に恵まれました。また、副校長や事務部長を筆頭に、課題解決に呼応していただける教職員のご理解や奮励努力により、教育面においては学科構成の特徴を活かした4学科共通で学習できる情報教育の拡充や、研究面においては全国高専の研究力強化の象徴となるGEAR5.0プロジェクトの採択と推進、教員個々の研究力向上を目指した競争的資金獲得力の強化、また地域密着からグローバル展開までを強化するための支援センターの設置、さらにはタイ国費奨学生の受入れとその教育プログラムの整備など、高専教育の高度化に資するいくつかの芽を残すことができました。

沖縄高専の設立意義や地域に求められる期待は20年経っても今なお大きく、激変する世界情勢や時代の変化に適応しつつ、今後も地域に根ざし、そして世界に羽ばたく沖縄高専として飛躍されることを切に願って、節目となる創立20周年を心よりお祝い申し上げます。



第6代事務部長  
**富田 和宏**

## 沖縄高専の思い出と期待

沖縄工業高等専門学校創立20周年おめでとうございます。

平成28年4月1日の夕刻、東京の機構本部で数時間遅れの辞令交付を受け、沖縄高専に到着したのは、入学式当日の2日午前1時過ぎでした。この地を訪れたのはおよそ13年前、完成予想図を片手に建設地の土木造成の視察でしたが、道路整備はもとより校舎とそこに集う学生、教職員でにぎわう姿に時の変遷を感じ驚きをもったことを記憶しています。夜が明け、ふと蝶が舞う姿を見て、前任地の信州大学（長野県松本市）構内でしばしば見かける蝶と同じことに気づき、何故ここに？見送りに来たの？と励まされるような気持ちで入学式に臨みました。後日、調べたところ「アサギマダラ」という蝶で、沖縄付近で生まれ松本まで約1週間かけて飛来するそうで、広域異動組の出会いでした。ほどなく入学式が始まり、不安と緊張に満ちた面持ちの新入生、期待を抱く保護者、地域来賓の皆様などそれぞれの思いの中、自らも学校運営を担う一員として緊張感をもって出席したことを覚えています。

詳細は控えますが、マスコミを騒がせるような事件、事故に在任中に幾度か遭遇したことがありました。何故未然に防げなかったのか、再発防止は充分なのかという疑問は、現在でも繰り返し思い起こすことがあります。間近に接する自慢話に醜さを学び人生の教訓を得たこと、一方で高専を去った諸兄の思いをも反映した方向性を願っています。

高専を去ったのち、数名の卒業生の起業、就職のお手伝いをさせていただきました。単なる成否ではなく時間を惜しむことなく話し合い沖縄の強みを理解と納得のうえ就業したことで、彼らの自信に満ち社会にはばたく一員として活躍されていることに喜びを感じます。

近年の生成AIの台頭により、学校現場にも大きな変革をもたらすと思われます。AIが人間に突き付けた厳しいミッションを教育・研究でどのように克服していくのかなど興味深く見守り、今後の皆様の活躍によるすばらしい人材輩出と沖縄高専の発展を祈念しております。





第7代事務部長

今村 文昭

## 最南の地から最先端へ

沖縄工業高等専門学校創立20周年、誠におめでとうございます。

高専は昭和37年度校（九州では佐世保高専）から始まり、各県（設置されていない県もあります）に順次設置され、現在は国公私立併せて全国に58高専あります。

沖縄高専は平成14年（2002年）に、国立最後の高専として、ここ辺野古に開学し、平成16年4月に第1期生が入学しました。それから20年、約3200名が沖縄高専の門をくぐったことになります。

20年の間には多くの喜怒哀楽が学校にも、個々人にもあったでしょう。イチローは「苦悩というものは前進したいって思いがあって、それを乗り越えられる可能性がある人にしか訪れない。だから苦悩とは飛躍なんです。」とっています。これからも、様々な苦悩が寄せるでしょう。苦悩を乗り越え、更なる飛躍に期待したいと思います。

私は鹿児島県出身で沖縄高専に平成31年4月に赴任しました。鹿児島県出身の故山中貞則国会議員は沖縄県民の為に努力したことが評価され、沖縄名誉県民第一号の方であります。例に出すこと自体が大変失礼な事ではありますが、私も何か貢献したいと思い、努力したつもりですが、結果として達成できたことは、バス停名を「第二辺野古」から「沖縄高専入口」に変更することのみでした。家庭の都合で令和2年3月、僅か1年間の勤務となり、大した事は何も出来ませんでした。今でも沖縄高専の事は大変気になり、HP等にて活躍を確認しています。

「沖縄で学ぶ 沖縄から世界へ咲かせよう未来、最南の地から最先端へ」のキャッチフレーズのもと、教職員の皆様、学生の皆様の更なるご活躍・ご発展を衷心より祈念しております。



第8代事務部長  
藤元 高德

## 沖縄を振り返って

創立20周年誠にありがとうございます。

沖縄にはとても深い縁があったのだと退職後つくづく思っています。平成23年4月からの3年間は学生課長として、令和2年4月からの3年間は事務部長として、通算6年間沖縄高専に勤務させていただきました。1度目の赴任の際は、高専勤務は2校目でしたが、沖縄での生活スタイル、気候風土、沖縄の方々の気質などについては予備知識も全くなく想像もつかず「大丈夫かなあ、大変だなあ」と不安一杯に思っていたのと、大学勤務を通して初めての学務関係業務ということもあり非常に緊張していたと記憶しています。鮮明に覚えているのは、校舎・寮の建物は近代的で構造自体が斬新で他の高専とは全く異なる建築物であり、立派でよく整備された野球場、グラウンド等であると感動・感心したことで、時間を見つけては学生の学修・生活態度等チェックを兼ねて校内を見廻っていました。沖縄での生活は、沖縄高専教職員の方々から丁寧なご教示とご支援があり、業務もプライベートも非常に充実したものでありましたし満喫できました。お世話になった方々ありがとうございました。

2度目の赴任は、皆さんもご記憶のことと思いますが、新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言が沖縄にも拡大される直前で、4月1日に校長から辞令の交付を受けた後の最初の重要会議が入学式の開催是非についてでした。結局入学式は中止となり、以後、休校措置、遠隔授業等に関する方策決定及び実施と初めての事案に校長を始めとする執行部も手探りの状態の中、理事長の「学びを止めない」との至上命令のもと、高等教育機関である高専の学生にとって何が最適・適切な対応かを念頭に対処を行いました。結局私が在職した令和5年3月までは、新型コロナウイルス感染症のいわゆる感染症法の2類の扱いは続き、皮肉にも私が退職後の5月には5類に移行し、様々な制約がなくなりました。新型コロナウイルス感染症の拡大とともに沖縄に赴任し、特別な感染症としてではない疾病への移行とともに沖縄高専、沖縄の地を去ることとなりました。この3年間の記憶と言えば新型コロナウイルス感染症に関する事柄ばかりで、1度目の沖縄生活と比較した時のギャップに悔いが残りとても残念な気持ちで一杯です。外出自粛、人との交流厳禁、沖縄県内（離島を含む）のイベントの中止・延期など全てが止まり、全く思い出がありません。沖縄高専でもこの消えた3年間を取り戻すべく多彩・多種多様な取り組みが実施されていることと思いますので、これからはOBとして、事務部長在職時には充分でなかった部分を少しでも補うべく、沖縄高専の今後の充実、発展に少しでも貢献、寄与できればと思っております。ちばりよ～沖縄高専！応援しています。









事務部長  
亀井 耕治

## 沖縄高専創立20周年に寄せて

創立20周年おめでとうございます。巡り合わせで、沖縄高専の創立20周年の年に事務部長として赴任いたしました。事務部職員を代表して、ここにお祝いの言葉を寄せさせていただきます。

沖縄高専は、2009年（平成21年）10月の宮城・富山・香川・熊本の各県の国立8高専（「宮城・仙台電波」、「富山・富山商船」、「高松・詫間電波」、「八代・熊本電波」）が4高専（仙台、富山、香川、熊本）に再編統合されたのを除けば、もっとも新しい国立の高専となります。諸先輩方におかれては、創設準備にあたってのご苦労は大変なものであったろうとお察し申し上げます。

20周年を契機に、これまで沖縄高専にご奉職されました諸先輩方の親睦の場として、OB・OG会を発足することとなりました。将来的なお話になりますが、秋の高専祭の際に、ホームカミングデーを開催したいと計画しておりますので、その際はぜひ沖縄高専まで足をお運び頂き、旧交を深め、懐かしいお話に花を咲かせて頂ければと思います。

沖縄高専が創設時に掲げた志が現在の沖縄高専で果たされているのか、我々事務部として何が出来るのか、何をすべきなのか自問自答する毎日です。事務部が至らない場合、それは同時に当職が至らないということにも繋がりますが、諸先輩方の目から見て、我々現役世代が至らない点がありましたら、折に触れ叱咤激励して頂ければ幸いです。

諸先輩方が築き上げてきた「沖縄高専」というブランドを汚すことなく、30周年に向け、益々前進させていく所存であります。また、30周年以降もこのような節目を迎えられるよう、現職員一同が職責を全うしていきますので、何卒、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。



機械システム工学科長  
教授  
眞喜志 隆

## 一人の教員からの今後の沖縄高専へのメッセージ

今年で沖縄高専は創立20周年となります。小職も前職の琉球大学工学部からこちらに転職して20年目となり、来年度が定年の年となります。沖縄高専とのかかわりは、高専設立準備室が琉球大学の事務局や大東のNTTビルにあったころからとなり、校舎が建っていく様子や機械システム工学科のカリキュラム内容等の準備にお手伝いしていたころから、第1期生を迎え機械システム工学科教員3名、技術職員2名で講義や実習を行うところから始まりました。本科の講義内容の充実に伴い、専攻科設置、JABEE対応、航空技術者プログラム開設、モデルコアカリキュラムやWEBシラバス対応、観光・地域共生デザインコースの実施等、新しい分野への取組も進んできました。今後も時代や地域の要請に応じて学習内容を進化させて行くものと期待しております。

沖縄高専の理念は、沖縄工業高等専門学校学則第1章第1条にある「人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与すること」です。人材を育成して社会発展に寄与することが本校の理念で、最も重要な基本姿勢です。育成する人材は技術者であり、各専門分野で活躍し得る卒業生を育成することです。そのために理念に合った入学生を受け入れ、時代と社会の養成に合ったきめ細かな教育を行い、各分野での基礎力を持った卒業生を送り出すことが重要な目的となります。入学生の考え方も変化したと感じており、教育や学習が難しい学生も増えているように見え、20年前の大学教員の時に感じていたような学生の二極化がこの数年で本校の学生でも起きているように感じます。今後はますます多種多様化する入学生に対して、本校の理念である信頼される技術者、開拓精神のある技術者の育成に基づいた教育・学習を行い、各分野で活躍できる人材の育成に期待します。



情報通信システム工学科  
教授

神里志穂子

## 沖縄高専 ～優しいエンジニアが育つ場所へ～

2023年4月、20期生を新入生として迎える事ができました。これまでに多くの学生達と時間を共に過ごし、私自身もたくさんの学びと経験をする事ができました。沖縄高専の仕事で、一番自らを成長させるきっかけになったのが、2018年から2021年までの4年間、広報センター長をさせて頂いたことです。沖縄高専の魅力は何か、学生達をどのように成長させられているのか、広報している事は、ちゃんと実行できているのか、それらの事を日々考え、行動し、沖縄高専の広報活動を行ってきました。北部、中部、南部、離島に分けた学校説明会、オープンキャンパス、サマースクール、数学対策講座、わくわく実験教室などたくさんのイベントを行ってきましたが、どの活動もいつも学生達と一緒にあって、活動を盛り上げてくれた事をとってもありがたく思い、それが今の仕事の支えにもなっています。特に、コロナ禍にあって、スタートしたオンラインでの学校説明会や入試説明会は、学校見学や説明会を実際に実施できない中、受験生に学校の事が伝わるのか、入学者を確保できるのかなど不安なことだらけでしたが、その時にも一緒に情報を発信してくれた、学生達や教職員の皆さんの協力で、今では、オンラインでの説明会を随時行えるようになり、県内外の中学生や保護者が気軽に参加して下さっています。

素晴らしい学生達と大好きな沖縄高専を中学生や保護者の皆さんにPRできたこの4年間は、学生だけでなく、教職員の皆様、保護者の皆様に支えられて、沖縄高専に関わるすべての人に感謝し、入学した学生達を成長させるために自分が取り組むべき仕事は何か、考えるきっかけになりました。学生達と関わる事が多い私は、学生達から自分達がちゃんとやらないと後輩達が困るとか、先輩達に申し訳ないとかいう発言を耳にします。沖縄高専は、学生一人一人がお互いに思いやって、自分の事だけでなく同級生、後輩、先輩の事も考えて活動してくれる素晴らしい学生達が育てくれる学びの場だと実感しています(たまに、教員に厳しい学生もいますが…。^^;)。卒業生の皆さん、今の沖縄高専は、皆さんにどのように映っているでしょうか。後輩達、皆さんと同じように頑張っています。皆さんが、「沖縄高専を卒業してよかった!」と自慢できる「優しいエンジニアが育つ学校」となるようにこれからも後輩達と頑張っていきますね。これからも応援をよろしくお願いします!



メディア情報工学科  
教授

タンスリヤボン  
スリヨン

## 知識と情熱と友情の未来へ —沖縄高専で—

沖縄高専の第一期生が3年生の時、私が着任しました。今年で沖縄高専は創立20周年を迎え、私はこの学校で働けることに心から感謝しております。新たな時代に向かって、沖縄高専はますます躍進し、発展していくことを心より願っています。

沖縄高専は、比較的新しい高専ではありますが、その短い間に数多くの成果を上げ、国内外の大会で活躍する姿勢を見せてきました。ロボコン大会、プロコン大会、パソコン甲子園などでたくさんの成果を挙げて来ました。この成果は、本校学生たちの知識と情熱の証しであり、これからの更なる飛躍への布石となることでしょう。

ここで、特筆すべき出来事の一つに、2022年度から始まったタイ政府留学生1年生からの受け入れがあります。この取り組みは、学内の国際交流を低学年から一層活性化させ、日本人学生と留学生が共に学び、友情を育む機会となっています。また、2023年度からの「総括外国人留学生支援ブロック拠点校」の指定も、沖縄高専の国際交流がますます重要視されている証しです。

これからも、沖縄高専は国際交流の拠点として、留学生のサポートから始まり、日本留学前の言語教育の強化まで幅広い取り組みを行っていきます。私は、次の10年後にはさらなる進化を遂げた沖縄高専を想像しています。知識と情熱と友情が交差する未来を共に築いていくことを、心より楽しみにしています。

沖縄高専は、今後も沖縄県内でその存在感を高め、地域社会に貢献していく覚悟でいます。ご期待いただければ幸いです。



生物資源工学科 教授  
平良 淳誠

## 沖縄高専20周年を振り返り、そして未来へ

沖縄高専創立20周年を迎えられたこと、敬意を表しお祝い申し上げます。

本校の20周年を振り返り、時間の経過に伴う過密な変化があったように思います。教育においては、JABEE教育システムの稼働から終了、コアカリキュラム、そしてコロナ禍における遠隔授業など、教育現場はいろいろと翻弄される場面がありました。一方で社会の変化、特に少子化が加速的に進み、その対応はこれまで進めてきた教育の質にも影響を与え、今後さらに予測できない変化を教育現場に与えるのでしょうか。これは本校に限ったことではないのかもしれませんが。

本校における私自身を振り返りますと、亜熱帯地域の沖縄の特性を活かした教育・研究のできるユニークな生物資源工学科に惹かれ赴任したことが、昨日のこのようです。私自身のこれまで経験したことを沖縄の科学教育に活かしたいという思いでした。特に、卒業研究や特別研究において、学術的に質の高い内容を目指しました。手本になる先輩のいない1期生の学生がとても頑張っついてきたこと、また積極的に学問に真摯に取り組む質の高い学生が続いたことで、研究室の運営に弾みがつきました。彼、彼女らの成果は、当初発表が珍しがられた日本薬学会において継続して発表を行い、数多くの国際誌にも掲載されました。そして、卒業した彼らが、社会で頑張っていること、またお褒めの言葉を頂いたときには何よりの至福です。これは私に限ったことではなく、本校教員は個々の掲げた教育目標に専心して人材育成に励まれてきたことと思います。

一方、20周年も経過しますと、私自身も含めて本校に少し中だるみも出てきているように感じています。最近では教育現場の質の変化に翻弄されがちでもあります。私が座右の銘とします・破・離に基づく基本、応用、独創（創造）の段階を踏みながら身に着ける教育を徹底し、残り少なくなった在職期間を、本校の未来に向けて精進して参りたいと思っています。



総合科学科 教授  
小池 寿俊

## 平成14年11月29日(金)(必着)

この締切の沖縄高専の公募を見つけてから21年が経った。今回この原稿を書くにあたり、当時のファイルを眺めている。ちなみに公募要領における教員の年次進行の採用計画では、共通教育（現在の総合科学科）20名、機械11名、情報9名、メディア9名、生物11名とあり、この中には、すでに琉球大学に設置されていた「国立高等専門学校（沖縄）創設準備委員会」の先生方は含まれていない。現在はかなり陣容も変わっている。「共通教育」で今も残っているのは8名ほどであろうか。私は幸いにも平成15年10月1日に採用され、半年間のNTT名護別館（名護市大東）の事務室勤務を経て、平成16年4月から辺野古の沖縄高専校舎で働いている。

前振りが長くなったが、今回昔のファイルを開いたのは、抱負書に自分が何を書いたかを確かめるためであった。締めくくりの文の一部として、次のように書いていた。「（沖縄高専は）素晴らしい伝統を新しく培っていかれる訳であるが、私もそれに参加…。」

沖縄高専の伝統とは何であろうか。真っ先に思い浮かぶのは学生の積極的な学内外の活動である。研究、コンテスト、課外活動、資格取得等。それらを元とした卒業生の活躍も目覚ましい。着任時にはここまでとは思っておらず、日々彼らを頼もしく眩しく見ている。ただ、まだ伝統に達してはいないような気がする。また私自身はそれに「参加」はできていない。

伝統とは言えないかも知れないが、学生と教職員の距離の近さは沖縄高専の特徴だろう。特に創設間もない頃の学生の中には、寮での夕食や入浴を終えたあと校舎に戻り、研究室の教員に、勉強の質問、相談、雑談をした者もいた。これには私も少しは「参加」している。通常高学年ともなると、あまり我々総合科学科教員とは話をしないものであるが、何年間もおしゃべりしに来てくれた学生もいた。特に思い出すのは、眩い学生ではなく、悩みや不安を抱えた学生たちである。経験と楽観、そして期待も込めて、しばしば「あと2、30年経てば、これも笑って話せるようになるよ」と励ました。

次の創立30周年の頃には、伝統と呼べるものも定まってきているだろう。私の励ましの答えもある程度出ているだろう。（多少の不安を抱きつつも）それらを見るのを楽しみにしている。





技術支援室 技術職員

白幡 大樹

## 世界自然遺産と沖縄高専

2021年7月に「やんばる」（沖縄島北部）は奄美大島、徳之島、西表島と同時に世界自然遺産に登録されました。「やんばる」地域である国頭村、大宜味村、東村は日本全体の0.1%にも満たない狭い面積ですが、日本で確認されている鳥類の半分、カエルの1/4が確認されるほか、マンガローブ域、海域にも多くの絶滅危惧種や生物種が確認されている希少な環境です。沖縄高専はこのような稀有な環境である「やんばる」の玄関口にあたる名護市辺野古に位置します。

私は、「やんばる」を代表とする沖縄の自然に興味を持ち、大学、大学院と沖縄に生息する生物の研究、特にナマコ類の生殖に関する研究を行ってきました。辺野古にある大浦湾には体長4～5mほどにもなる世界最大のナマコ、「クレナイオオイカリナマコ」が生息しています。しかし、辺野古の海に限らず、沖縄県内ではナマコの数が増えています。数年前まではダイビングをすれば多種多様なナマコ類を見ることができたのですが現在はほとんど見ることはできません。原因は複数あると考えられますが、環境の変化、人間による乱獲などが挙げられます。また、観光業が沖縄経済に与える影響は大きいですが、観光を推進していけば、今まで人の手がほとんど入っていなかった「やんばる」の環境が変わってしまうことも懸念されます。

沖縄高専の学生には、世界でも稀に見る希少な環境のすぐ側で学んでいるのだということ誇りに思ってもらおうと同時に、どのように今の環境を未来に残しつつ観光に活かしていくのかという課題にも向き合っていってもらえたらと思います。そのために、沖縄の自然環境を直接肌で感じることでできるフィールドワークが重要だと思いますし、私自身も学生たちと一緒に考え、解決できるよう努力していきたいと思っています。



総務課 課長補佐 (財務)

豊川 雅喜

## 創立20周年を迎えて考えること

沖縄工業高等専門学校創立20周年、おめでとうございます！

私は、沖縄高専の事務職プロパー職員の第1号として平成18年に採用されました。採用当時は用度係に配属され、慣れない業務の中多忙な日々を過ごしました。学年進行ということもあり、様々な大型設備の調達に携わることができ、大学にも劣らない充実した設備を導入することができました。

そんな多忙な中でも、教員と技術職員、事務職員の親睦ソフトボール大会の企画や、教職員レクでのバドミントン、テニス、釣りなど、積極的に参加し教職員との交流を深めることができたことは、今でも新鮮に覚えています。

こんな私も高専生活17年目となります。採用された当時は、「高専」に勤めていることを話すと、みなさん「高専って何？」って聞いてきました。毎回「中学校を卒業して～」と同じように説明していましたが、今では「高専すごいね、頑張っているね」と言ってくれます。これは、教員・技術職員・職員の方々が、真摯に学生・地域に向き合い、また学生たちも一生懸命に勉強、課外活動を頑張り、成果を出したからこそ生まれる言葉だと思います。

高専は、社会に求められる人材育成に素早く対応できる組織です。令和5年度からスタートした観光・地域共生デザインコースは、データサイエンスを基盤として地域産業の発展に貢献できる人材を育成します。履修者が卒業する5年後にはどのような声が聞こえるのでしょうか？

きっと「沖縄高専ってすごいね」と言われることでしょう。そんな未来を創るために、これからも事務としての下支えを頑張っていきたいと考える次第です。



学生課 学生係長  
前山由香里

## 学生課での勤務を通して

沖縄高専を事務の面からサポートさせていただき、14年が経ちました。1つの高専を運営していくためには様々な業務がありますが、採用から13年間は総務課で庶務・会計業務に従事し、昨年度初めて学生課に配属となりました。

学生課に異動後は、これまでと全く異なる業務に右往左往し、周りの教職員の方々にお力添えいただきながら一瞬で過ぎていきました。また、毎日窓口で学生さんの対応をするようになり、今更ながら学校で働いていることを実感する日々です。課外活動、高専祭、体育祭などの学生活動や行事に関する仕事を1年間担当し、現在2年目となります。学生課職員として2回目の対応となりますが、毎年が新しい活動や行事への参加となる学生の皆さんにとっては、社会へ出る前に仲間と過ごす大切な時期を過ごしていることを意識し、活動をサポートしていきたいと思います。

また、学生の皆さんから今までとは違う新しい企画が出てくるときは、時代の変化を感じるとともに新しい発想を感じ、一生懸命学校をより良くしていきたいと想うエネルギーを感じさせられます。企画を実行に移すには、安全面やルール等考慮すべき事項があるため、そういった部分に関しては、職員の立場から助言をしていきたいと思います。

本校も創立から20年となりましたが、イベントや訪問時に校外の方とお話をしていると、どういった学校なのか、まだ浸透していない印象があり、本校は他の国立高専より若く、発展途上なのだと実感させられます。他方、学生の活躍は目覚ましく、各種大会・コンテストに担当の先生方の支援を受けながら毎年挑戦して日頃の活動の成果を披露し、優秀な成績を収めています。

今後も周りの教職員の方々の協力に感謝しつつ、沖縄高専のために何ができるのかを考えながら、微力ですが本校の発展に尽力していきたいと思います。



生物資源工学科 講師  
萩野 航

## 私の好きなササラダニについて

こんにちは、生物資源工学科3期生の萩野航です。今回は書きたいことを書きます。私は沖縄高専を卒業して帯広畜産大学へ3年次編入、その後北海道大学大学院で博士(理学)の学位を得て2018年から生物資源工学科の教員として戻ってきました。高専に居た頃からずっと「ダニ」を追いかけてきましたが、今は学生相手に(半強制的に)ダニの話を選びかけています。

というわけで聞かれてもいないのにここでダニの話をする。ダニといっても私が大好きなのは土壌中でバリバリ落ち葉を食べているササラダニです。ササラダニ亜目のダニは日本で800種以上いますが、一番人気はやっぱりイレコダニでしょうね。アルマジロ型で丸っこくて可愛いです。意外と種数が多いのも沼っぽくて良いですね。私は背毛が花卉状のハナビライレコダニが気に入っています。あとイカダニ、背中側を見ると本当にイカっぽい見た目だし、細長い体がミステリアスで面白いです。ウスタカダニは大きくて、ササラダニ界のサイコガンダムですね。逆にツブダニ・マドダニのなかまは小さくて、属レベルでも違いがわかりにくいのでやや人気落ちますかね。私はやっぱりフリソデダニが一番好きです。フリソデダニの分類で学位を取ったのもありますが、フリソデ(翼状突起)をパタパタさせながら歩く姿がものすごくカワイイし、ツルンとしたメカっぽい形状が堪らないです。もう何年もフリソデダニを見ていたので、実体顕微鏡でパッと見ただけで属がわかるようになりました。

さて、私が好きなダニの話をする、面白がってくれる学生と全く興味のない学生にはっきり二分されます。でもやっぱり自分が面白いと思うもの、好きなものを話す時が一番熱が入るか、脂が乗った授業ができる気がします。楽しんでできた授業は学生の反応も良いです。しかし今年で6年目、何度か同じ話を繰り返すと自分自身が飽きてしまっマイチな時があります。常に新鮮な気持ちで面白さを伝えていけたらと思います。これからも頑張ります。



技術支援室 技術職員  
花城 宗一郎

## 卒業後、沖縄高専に来て感じたこと

沖縄工業高等専門学校創立20周年を迎えられたこと、お祝い申し上げます。

私は情報通信システム工学科5期生、専攻科へと進んだ後、沖縄県内のIT企業に勤め、2022年7月に赴任しました。

数年ぶりの沖縄高専は懐かしく感じました。特に試験期間終了後の学生寮で、小さな部屋にぎゅうぎゅうに集まって楽しんでいる姿（試験から解放されてすっきりした笑顔）を見たときは、変わらないなと感じました。また、一般食堂で定番のタコライス、カレーライスは私の学生時代と変わらず同じ味を貫いていました。

赴任から1年が経ち、学生の時には分からなかった気づきがたくさんありました。

1つは、卒業後すぐに感じたことですが、高専卒は優秀な学生が多いことです。学生時代は追われながらも課題のレポートやプレゼンをこなしていましたが、定量的に資料を作成することや発表する能力は企業に入ってから存分に活かすことができました。

もう1つは、教職員が学生に対して多くの支援を行っていることです。教職員は15歳から「学生を預かる」という親心のような感覚で支援していることに驚きました。高専の学生は多感な時期を過ごすので、「支援」と「自立」の加減が難しいですが、学生自身が進む道を歩けるように、教職員が一丸となって取り組むことが大切だと感じました。

これまで、コロナ禍で長期のマスク生活でしたが、話し声や元気な挨拶の声など、私の記憶にある沖縄高専の姿が戻りつつあります。

遠隔授業、DX、AIなど、10年前は聞きなれない言葉も、今では日常的に耳にするようになりました。今後10年、時代の変革に置いて行かれないように自身もアップデートしながらICTを活用して、沖縄高専を支援していきたいと思います。



技術支援室 技術職員  
小橋川 秀太

## ただいま母校

私は沖縄高専20周年の節目となる年である令和5年に沖縄高専の技術職員になりました。タイトルにある通り、私は平成21年に機械システム工学科の6期生として入学し、専攻科に進学・卒業した後に民間企業で7年間働き、母校に戻ってきました。

沖縄高専の本科に入学してからの1年生から4年生の間は高専ロボコンに熱中し、夏季休暇に入ると合宿で朝から晩までロボコン漬けの日々でした。そこでモノづくりの楽しさ大変さを経験し、私自身のモノづくりの基礎になった日々でした。ロボコン活動を行う過程では顧問はもちろんのこと、技術職員の方々のサポートもありロボットを製作することができましたが、まさか今度は私が技術職員になるとは思ってもいませんでした。これからは技術職員という立場から学生にモノづくりの面白さを伝え、様々なことを経験して欲しいと思います。

本原稿を書いているときは技術職員に配属になって1か月という短い期間ですが、母校に恩返しできるように日々奮闘しています。

これまで高専や民間企業で学び・経験したことを生かして、今後の教育研究や地域へ貢献できるように取り組んでいく所存です。





総務課 施設係員  
上江洲賢伍

## 卒業生のその後

こんにちは、生物資源工学科3期卒業生・現本校職員の上江洲賢伍です。  
沖縄高専創立20周年、おめでとうございます。

それはつまり世界で大活躍しているであろう2000人以上の卒業生を輩出したということであり、とても素晴らしいことだと思います。ということで卒業生の2000分の1である私にクローズアップして、入学から一体どのような半生を送ってきたかなマの声をお伝え致します。

まず2007年から始まった学生時代編。共に暮らす愉快的仲間たちと赤点60点という高い壁に泣きべそをかきながら、先生方に120度のお辞儀で追試のお願いする高強度のトレーニングを5年間継続して行った結果、留年回避という勝利をもぎ取る成功物語です。その先に新たな試練が待ち構えているとも知らず。

おかげさまで2011年に卒業して、とある飲料メーカーに就職し会社員編が始まります。

配属先の工場では緑茶飲料「伊右〇門」をしこたま製造していました。つまり私が伊右〇門はん(もっくん)の中の人と言うてもろても過言ではないです。

また、私が在籍していたラインは本社連中から「実験ライン」と呼ばれていて、無慈悲にも新商品の生産実験とその初回生産を行うという十字架を背負わされており、おまけに室温40℃と物理的に熱い、まるでラスボス戦前の修行をしているような良い職場でした。

そんなわけで、うっかり修行に現を抜かし沖縄県出身の妻を射止め、ふっかつのじゅもん「Uターン」を唱えたことで、2018年に転職成功し、絶賛大活躍中の高専職員編が現在まで続いています。

母校で働くのはとても不思議な感覚です。仕事しながら懐かしい風景。頭の中が大人と学生を行ったり来たり。タイムスリップしたような新鮮なような。

その中で学生時代編の裏側を垣間見た出来事があります。それは、私のような留年ギリギリの学生を何とか救おうと夜遅くまで頑張っている先生方・職員の皆様の姿。衝撃でした。

卒業できていなければ全く違う半生だったであろうことを想像し、学校に恩返しをしようと頑張っています。

このように、一人の卒業生の半生でも1000文字では書き足りないので、沖縄高専を構成するあなたが、世界をより良い場所に変える2000人以上もの教え子を輩出したのは、やはりとても素晴らしいことですね。

目の前のことで精一杯の日々ですが、時にはどこかで活躍している卒業生に思いをはせて頂ければ幸いです。



学生課 教務係員  
糸洲佑紀

## 創立20周年おめでとうございます

私が中学1年の頃、父親が沖縄高専のパンフレットを持ってきました。時期的にまだ開学前の、1期生を募集しているものだったかと思います。受験なんてまだ先の事なのに気が早い親父だなあと思いながら中身を読んでみると、そこには新しいキャンパスと学生寮のイメージ図や、高校とは一味違うカリキュラムの説明など、とても興味を惹かれる内容で埋め尽くされており、いつの間にか私の中に、沖縄高専という存在が進学の選択肢として浮かび上がってきました。というのが大体20年前のことになります。

その後、私は沖縄高専生物資源工学科の3期生として入学し、5年間の青春を過ごした後、なんとか卒業し母校を去ったのですが、その数年後、謎の巡り合わせにより、職員として戻ってくることになりました。学生時代は沖縄高専に愛着こそあっても、「将来ここで働きたい!」なんて事は考えもしなかったもので、人生本当にわからないなと思います。

職員として7年目になりますが、採用当初は、入学したての1年生の頃と同じくらい戸惑いの連続でした。学生時代は事務室に行くことなんて年に4~5回程度でしたので、高専の事務がどのような仕事なのかなんて知る由もありませんでした。それが、いざ職員としてその仕事内容を目の当たりにした時はその多忙さに驚き、「沖縄高専を運営するにはこれほどの業務が必要なのか!」などと思いながら、早く戦力になれるようにと、日々の業務をこなしていきました。

沖縄高専も創立20周年を迎え、これまでに約2400人の学生が卒業しています。かつてその一人だった私も、今は職員の一人として学生の卒業を見送る立場となりました。今後も多くの学生が沖縄高専で学び、そして旅立ち、それぞれの人生を歩んで行くかと思っています。その歩みの途中で、ふと昔を振り返ったとき、沖縄高専での日々がとても良い思い出になっていけば良いなと思います。そう思ってもらえるように、私も微力ながら、今後の沖縄高専の発展に尽力していきたいと思っています。



航空技術者プログラム  
特命教授

大貫 龍哉

## 航空技術者プログラムへの期待

2019年末からの新型コロナウイルス感染症の影響により航空産業も大きな打撃を受け、大手企業グループの採用の凍結、採用数の抑制等、学生には航空産業への就職と言う点で非常に厳しい時代でした。しかし、2023年度より、航空産業にも明るい兆しが見え、当校からの航空産業への就職もコロナ前の状況に戻りつつあり、一部企業においては、コロナ以前の採用数を上回る計画を示している企業もあります。

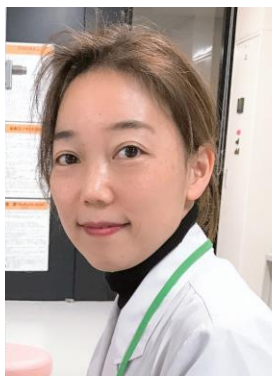
航空産業は、これから20年間で世界の旅客数は、コロナ前（2019年）との比較で約2.4倍の増加が予測され、その旺盛な旅客需要を受け、ジェット旅客機数も約1.7倍以上と大きく増加することが予測されています。

このような状況の中、沖縄県の21世紀ビジョンに基づき航空人材の養成を目的に、高等教育機関として8年前（2015年4月）に「航空技術者プログラム」を設立した関係者の判断には、まさに先見の明があり、また、ここまでこのプログラムを発展させて来られた関係者皆様のご努力に心から敬意を表します。

全国の高専の中でも、ANAグループおよびJALグループと産学連携による本格的な航空技術者の養成を行っている高専は当校だけです。

また、近年においては、航空産業界の7社（IHI、JAMCO、KHI、MHI、SUBARU、ANA、JAL）が、産学連携で高専において航空産業人材を養成すべく各種の取り組みが行われ始めています。その取り組みのトライアル校として全国の高専の中から当校を含め、都立産技高専、岐阜高専、神戸高専の4校が選抜されています。これは当校の教育に対して、産業界が大きな期待を寄せている証の一つと言えるものです。

創立20周年、心からお祝い申し上げるとともに、この20周年を新たな出発として、更なる学校の発展と航空産業の担い手となる人材の育成に微力ながら努力して行きたいと考えております。



生物資源工学科  
特命准教授

沖田 紀子

## 青い部屋の占い師

もう10年以上も前のことである。私は当時、渋谷にあった『青い部屋』という店で時々遊んでいた。ある日、この『青い部屋』で、【占いの館】というイベントが催された。特に占いを信じているわけではなかったが、私は暇潰しがてら占って貰った。すると占い師は、「あなたには、母方のお婆ちゃんのお墓を守る使命がある」と言うのだ。私は、「え？なんで？」という感じだった。「父方のお墓は守らなくて良いのですか？」と訊ねると、「そっちは他に守る使命の人がいるから、あなたの仕事ではない」と。私の母方のお婆ちゃんのお墓は沖縄の伊江島にあり、お婆ちゃんだけが入っている。そしてお婆ちゃんの子孫は誰も、沖縄に残っていないのだ。この事を、この占い師が知っている筈がない。なんとなく不思議ではあったが、当時の私は、その言葉をそんなに深く受け止めてはいなかった。

ところが、2021年の3月、突然、知人の紹介（というかゴリ押し）で、沖縄高専の生物資源工学科教員の採用試験を受けることになった。そして、2021年6月、私は2年の任期付きで沖縄高専に着任することとなった。母方のルーツは沖縄だが、私自身は東京で育ち、両親も東京にいる。まさか、沖縄に移住することになるとは思ってもみないことだった。

ふと、『青い部屋』で出逢った占い師の言葉を思い出し、「これかー」と思った。

2年任期だったため、2023年3月（昨年度末）で私の任期は終了の筈だった。がっ！めちゃくちゃナイスなタイミングで、2023年度スタートの『観光・地域共生デザインコース』の教員の公募が出たのだ。私はこれに応募し、今年度以降も沖縄高専にいられる事になった。この縁に感謝し、沖縄の将来を担う人材育成に全身全霊を注ごうと思う。

ところで、今回の採用も任期付きだが、この任期が終わる頃にまた、沖縄に留まることになる何かが起こるのかも知れないと思うと、今からちょっと楽しみでもある。



日本語・日本文化教育センター  
特命准教授

サビケ 理奈

## 少しの勇気から始まる

学生の皆さん、今年、本校で何名の留学生が長期留学しているかご存じですか？6名？10名？正解は14名です。次に、どの国の留学生が一番多いでしょうか？モンゴル？マレーシア？わからない？昨年はモンゴル人留学生でしたが、今年は「タイ」人留学生が5割を占めています。ではどうしてタイ人の留学生が増えたのでしょうか。

本校では2021年までは長期留学生は3年次編入生だけを受け入れておりましたが、2022年度からタイ王国プリンセスチュラボンサイエンスハイスクールからタイ政府派遣留学生を受け入れ始めました。彼らはタイの中学を卒業して来沖し、本科1年生から専攻科まで7年間本校で専門の勉強をします。また、2023年度は別のプログラムでタイ高専から3年次編入留学生の受け入れも始めました。

私はタイ人留学生のサポート役として2022年2月に本校に着任し、日本語・日本文化教育センターに所属し、主に1、2年生のタイ政府派遣留学生の日本語の授業の担当、留学生全体のサポートをしております。

私の仕事はただ会話ができるようになるためだけに日本語を教えるのではなく、独特な感性をもつ日本語の背景、日本や沖縄の文化や歴史、礼儀作法、沖縄での生活、どのように日本人とコミュニケーションを取ればいいのかなど様々なことを教える必要があります。また、日本のやり方や文化を留学生達に押し付けるのではなく、相手の文化を理解しどのように日本でうまくやっていけるのか導いていく必要もあります。

皆さん、本校にいる留学生と話したことがありますか？同じクラスに留学生がいるけど話したことがない、留学生達に興味があるけどどうやって話しかけたらいいのかわからないと思っている

学生が少なからずいると思います。

まずは、その国の場所、使用されている言語、宗教、食べ物などを自分で調べたり、相手に聞いたり、お互い興味を持っていることについて話したりし、徐々に理解を深めていけばいいと思います。私は英語がわからないから話せない。どうしたらいいの？え？怖い！などと考えたり身構えたりする必要はありません。話しかける勇気が少しだけあれば大丈夫です。英語で話しかける必要もありません。まずは、身近にいる留学生に声をかけることから始めてみてください。少しだけ勇気を振り絞ることでみえる世界が変わってくると思います。

日本語・日本文化教育センター  
特命准教授

玉城 梓

## You're right from your side. I'm right from mine

この頃の流行語というか「国際交流」、「多文化共生」という言葉。この言葉を意識して使っている時点で、ちょっと違和感を感じます。私のまわりの、人種の垣根なく共生している人々を見ると、つまり上のような言葉を自然体で実践している人はそんなことは意識してないですからね。そんな大それたことではなく、他者の立場に立ち、お互いに背景を理解し接するのが理想の共生かと思えます。

ところで、ボブ・デュランの「One too many mornings」にこのような歌詞があります。「You're right from your side. I'm right from mine」直訳すると、「君の立場からすると君が正しい。私の立場からすると私が正しい」。これは、だれのことを指しているのかわかりません。配偶者かもしれないし、友人かもしれないし、先輩後輩かもしれないし、同僚かもしれないし、外国人かもしれません。でも、いずれの関係でも当てはまると思いませんか。ほかの文化を持った他者といっても、その垣根ってどこにあるのでしょうか。配偶者でも友人でも同僚でも外国人でも文化的背景や生まれ育った環境、考え方って少なからず違うと思います。だから、日本人 VS 外国人という括りで隔てるのではなく、「地球人 (by ベイカー 菜秋)」という考え方がいいですよ。

さて、学校の国際交流の取り組みに戻ります。現在日本語・日本文化教育センターでは、センター職員を中心に、留学生、日本人学生チューターが協働してさまざまな活動を行っています。なかでも特に力を入れているのは、地域交流や、外国人弁論大会、地域住民や児童・生徒、高校生と共に学び合える場（「留学生出張講師」「英語交流会」「慰霊の日平和学習」など）をつくることです。そのほか留学生を中心としたWSB (World Students Bridge) でお馴染みの国際交流委員会では、毎週火曜日の放課後、部長のセリムエッセイさんを中心にさまざまな活動に取り組んでいます。

また、うちのセンターはまず教員が元気で学生を引っ張れるよう体力づくり（筋トレ部）を心がけております。先生が元気なら学生も引っ張られて元気になるのです。そのおかげか、学生もどンドン元気になり、留学生の醍醐味を味わえて楽しんでいるようです。

最後に、冒頭にも書きましたが、この世界から「国際交流」、「多文化共生」という言葉がなくなったときから、真の意味での共生社会になれると思います。この言葉がこの世界から消滅しますように……。









情報工学コース(11期生)

## 高江洲 順吉

### #(ハッシュタグ)成長

創立20周年おめでとうございます！

メディア情報工学科11期の高江洲順吉です。私は本科から専攻科へ進学し、計7年間在学しました。

本科では寮生活を送り、厳しい規則に悩まされたことが記憶に残っています。特に7時の点呼がしんどかったです。規則に対して改善するためのムーブメントができれば良かったと反省しています。苦悩はありましたが、11時の補食室で食べたラーメンの味は今でも忘れられません。2年

の寮生活を終えて、高専付近のアパートで6年間を過ごしました。アパート生活では、友達と一緒に勉強し、テストや学校行事後の派手な宴を通じて友情を深め合うことができたと思います。

専攻科では創造システム工学実験の講義を通じて、ITを活用して課題解決に取り組みました。若年層への周知をTwitter(現X)を用いたSNS広告で実現しようとしました。そこからものづくりへの興味関心がより大きくなったと実感しています。

現在はIT系の会社でネイティブアプリを開発して様々な企業の問題解決をしています。沖縄高専で得た最大の財産は「仲間」です。同窓生、先輩、後輩との絆は今でも続き、悩んだときにはいつでも相談できます。高専の仲間たちを誇りに思い、彼らの頑張りに励まされています。



生物資源工学コース(11期生)

## 伊野 波佳介

### All My Kosen

創立20周年誠におめでとうございます。私が11期生として入学したのは2014年ですが、当時の匂いや、景色、感情は今でも鮮明に覚えていることが多いです。それほど刺激的な日々を送っていたんだと、この原稿を書きながら改めて感じています。

私が入学した当時は、本科1、2年生は全寮制でした。入寮初日に実家のことを思い見知らぬ天井を見上げて涙していた自分を今では可愛く思います。入学後1年くらいは、実家に帰りたい思いが強くて寮の橋から国道329号の実家がある方角をよくぼーっと眺めていました。しかし、素敵な友人たちとの出会いや必死に取り組んだ野球、部活引退後に過ごした疑似大学生生活などを通して、気づいたら学校に通うのが好きになっていました。

それまでわちゃわちゃと呑気に過ごしていた私ですが、卒業研究を機に急に学問に熱が入り始めました。そして専攻科修了後も進学し、現在も同分野の研究を続けております。研究の楽しさを教えていただいた磯村先生には誠に感謝しております。

高専での経験が私の現在の人格形成に大きく影響しているなど感じる事が多々あります。在校生の皆様は様々な思いを抱えていらっしゃると思いますが、大切な青年期を存分に楽しみ、時には戦い、時にはだらだらしながら過ごしていただけたら、高専OBとしてうれしく思います。

## 5年間の成長

この度は創立20周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。  
メディア情報工学科12期卒業生の喜納瑶夏です。

私が沖縄高専に入学した当初は、慣れない環境への不安でいっぱいだったことを覚えています。それでも、同じ環境で同じ気持ちの友達と協力し、先輩方にやさしく教えてもらうことで、いつの間にか、自分なりの楽しい高専生活を送ることができました。楽しそうな先輩方を見て、「自分も先輩方みたいなカッコいい人になりたい」と思い、部活や委員会、イベント運営など様々な活動に参加しました。そこでは、自発的に行動することの大切さを知ることができました。楽しいことだけではなく大変なこともありましたが、そのような一つ一つの出来事が自分の成長と自信につながったと思っています。

私にとっての高専生活は、専門的な勉強でのスキルアップはもちろん、人としても大きく成長できた貴重な5年間でした。かけがえのない大きな経験の機会を与えてくださった沖縄高専に感謝いたします。

結びに、沖縄高専のご発展と皆様方のご活躍を心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



メディア情報工学科(12期生)

喜納瑶夏

## 「私が沖縄高専で得たモノ」

こんにちは。沖縄高専情報通信システム工学科12期生の山城卓巳です。  
突然ですが、自分にとって今の仕事は「夢」ではありませんでした。

それどころか、具体的な目標もなくただ漫然と日々を過ごしていた沖縄高専時代-そんな自分の中にあった二つの確かなこと。

それは、モノづくりが好きだったことと、「自分は何かを成し遂げるんだ」という根拠のない自信(笑)。

無事卒業後、製鉄業のプラントエンジニアとなり、あれよあれよという間に4年が経ち、一人の仕事にも慣れてきたところですが、最近、自分にこの仕事を選ばせた原体験があることに気付きました。

それは、高専時代の工学実習でした。与えられた課題に対してグループで意見を交えながら実験を行い、結果に対しての評価を行う。

グループの仲間と力を合わせながら、ゼロから論理を作り上げる体験は「ものづくり」の面白さを、結果を講評されたり、仲間から頼られる体験は「他人に評価される」嬉しさを教えてくれました。いずれも、今の仕事にとって大きな醍醐味となる要素です。

また、今最も感じるのは、人の縁のおかげで自分はここにいるということ。

在学中、共に切磋琢磨した友人。今の仕事を知るきっかけになった先輩。様々な業界をご教示くださった先生方。人生に無駄なことは何一つないのだと、感謝する日々です。

どうかこの沖縄高専で、あなたの人生に一石を投じる「ご縁」がありますように。



情報通信システム工学科(12期生)

山城卓巳





機械システム工学科(13期生)

## 齋藤 秀和

### 好きを見つめて(Mindful)

30年勤めた仕事からの退職と次の人生を考え始めた頃、クーリエ・ジャポンでハーバード大学エレン・ランガー心理学教授のCounterclockwise (Mindful)「新しいワクワクする環境は新たな気づきを生み人間の能力を大きく向上させる」の記事を読み、高校の頃迄大好きであった理系の勉強を始めたら世の中がどのように見えるかと進路の模索を始めた。

沖縄に日本で唯一生物資源工学系の学科を持つ工業高等専門学校があり、1、2年に4学科に触れられると説明を受け、固くなっている頭には一番良い環境と期待して受験を決めた。入学式を迎えた時、周りの全てが眩しかった。異物の入学で雰囲気壊さないよう自らの規範を「問われる迄は口を挟まない」、「最良の成績を目指す」とした。

みずみずしい新たな友人たちと授業を開始し、学科外の研究として出身企業の開発資材を使ったマンゴーの鮮度保持研究等も行い、様々な機会を得て勉強の進め方を学び、2年生を終える頃には頭の回転もかなり回復した。又、興味を抱いた「環境による能力向上」は1、2年の所属クラスの成績が明確に良かった結果を聞き、思わぬ所に出たと感じた。

気候の沸騰化やAIによる変化など環境が厳しくなる中、在學生や卒業生には自分の好きな領域を見つめ、楽しみ、やがて人間だけが発揮できる能力として極めて、人生を高めるとともに世界(地球)に貢献する人財になっていって欲しい。



情報通信システム工学科(13期生)

## 冷水 晴香

### 高専の教えと友達

沖縄工業高等専門学校、創立20周年おめでとうございます。

本科を卒業し、あれからすでに3年経っていることに驚きを隠せません。現在は県内の通信事業者で営業職に就いており、慌ただしい毎日を送っています。

今思い返しても高専で過ごした5年間は(コロナもありましたが)充実しており、かけがえのない日々でした。

在學生の皆さんは耳にタコができるほど言われているかもしれませんが、高専5年間でできた友達は一生モノの友達になります。(特殊環境だからでしょうか)

私にも社会に出てお互い遠く離れたところにはいますが、今でもお互いに嬉しい事辛い事をLINEで共有し合って、たまに集まってお酒を飲んだりする友達があります。

これだけで社会のストレスから救われますので、是非いま隣にいる友達を大切に、一緒に思い出に残る日々を送ってください。

また、この場を借りて先生方にも感謝を。あの5年間、腐らず、経験や達成感を得られるように導いてくださりありがとうございました。おかげで年上同期達に埋もれることなく過ごせています。

私は先生たちの力や思いやりなくして、充実した高専生活は得られなかったと感じています。是非後輩たちにも同じように寄り添っていただけると幸いです。

これからは、社会人として沖縄高専の発展の一助となるように精進して参りますので、末筆ながら沖縄高専の一層の発展と皆様方のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 高専での思い出

沖縄高専、創立20周年おめでとうございます。

思い返してみると、私にとってはレベルの高かった高専を受験し、手ごたえが無かったため合格発表前に受験票を捨ててしまったことがもう7年も前のことかと思うと、とても懐かしく感じます。

入学してからは、レベルの高い授業に苦戦しましたがあっという間の充実した5年間でした。

そのなかでも特に印象に残っているのが5年間の寮生活です。初めての寮生活は、毎日、朝夕の点呼や清掃活動があったりなど、慣れないことばかりでしたが、1年生の終わりには寮長に立候補し4年生まで寮長を務めさせていただきました。

寮長になったばかりのころは何をしたら良いのかも分からず先輩方や先生方に相談をしたりアドバイスをいただくことがとても多かったですが、慣れてきてからは自分たちでイベントを企画したり、ルール改善のために動いたこともありました。

1年生で寮長に立候補するのは少し勇気が必要でしたが、とても成長できたと感じているので、在校生の皆さんも気になることがあればまずは挑戦してみると良いと思います。

沖縄高専のさらなる発展を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



情報通信システム工学科(14期生)

伊藤 咲

## 共に歩んだ7年間

創立20周年、おめでとうございます。沖縄高専の大きな節目を皆で祝えること、とても喜ばしく思っております。私は現在専攻科2年に在籍しており、沖縄高専とは2017年の入学以来から7年の付き合いとなります。

7年! 当たり前のように沖縄高専での日々を過ごしていましたが、改めて振り返るととても長い間お世話になったなとシミジミ感じております。沖縄高専を取り囲む亜熱帯性の豊かな自然と、色彩豊かでさながら宝石

の様な動植物は、私の好奇心にいつでも刺激を与えてくれました。そして、その好奇心を掬い上げて育ててくださったのが、高いスキルを持った先生方です。先生方は何時も親身になってご指導してくださいました。良質な教材を以て良質な指導をする、これが沖縄高専の強みではないかと考えます。ちなみに寮生活も7年間過ごしたから、感覚的に寮は第二の実家と言っても過言ではないでしょう。友人と生活を共に過ごした時間はかけがえない絆を育み、生涯の友を作ってくれました。

20周年を迎え、積み重ねた歴史にふさわしい貫禄が沖縄高専の名についてきたと思います。この名に恥じぬようなエンジニアになれるよう、これからも研鑽を積んでいきます。



生物資源工学コース(14期生)

久保 拓哉



機械システム工学コース(15期生)

## 儀間南軌

### 日々漸進

日々漸進。一般的には「日々前進」と書くと思います。「前進」には、前に進む以外に進歩するという意味合いがあります。それに対し、「漸進」は段階的を追って少しずつ進むという意味合いがあります。今回、タイトルにあえて「漸進」を採用したのは少し意味があります。「前進」という単語には、先ほど述べたように“進歩する”という意味があります。「技術が進歩する」や「着実な進歩を遂げる」など進歩には“物事がより良い方向へ進む”といった意味合いが含まれています。しかし、人生100年時代の現代において、必ずしも物事がより良い方向へ進むわけではありません。そのため、「日々前進」は生きるにあたって少し重すぎる言葉だと私は思います。

高専は“順調に進級すれば”20歳で卒業です。20年という短い人生の中で4分の1を高専で過ごすこととなります。100歳まで生きたとしても20分の1は高専で過ごすこととなります。高専で過ごす5年間は楽しいことだけでなく、辛いことも多いです。しかし、高専での5年間は人生で生きる糧となります(そうであると願いたい)。そのため、少しずつでも努力し、前に進めるようにこれからも努力していきたいと思います。

最後になりますが、今回創立20周年にあたりこのような機会を設けていただきありがとうございます。



電子通信システム工学コース(15期生)

## 星草汰

### 「はじめて」がたくさん詰まった学生生活

はじめまして。

私は電子情報通信システム工学コース1年の星草汰です。

執筆を行っている現在、高専生活を振り返ると非常に濃密で楽しい5年間でした。

はじめて親元を離れて寮で生活しつつ、個性豊かなメンバーに囲まれながら勉強やテストに挑んだ1・2年生。創造研究を友達に誘われ、私を含めた5名でWICONや東熱の助成プロジェクトに協力して出場し、採択されて嬉しかった3年生。創造研究が本格化し、先輩方とWICONやDCONに出場したが、惜しくも敗れて泣いてしまった4年生。新たな後輩たちとコンテストに挑んで賞を取ったり、はじめて国際大会の学会の場で発表して最優秀賞を獲得して嬉しかった5年生。私にとって「はじめて」の経験がたくさん詰まった5年間でした。

その後、高専生としての節目である卒業式を迎え、2023年4月から専攻科に進学し、新たな学生生活が始まりました。新しい研究の場を与えられ、新体制でコンテストに挑みつつ、就職活動を現在行っています。今後も幅広い社会の方々や他校の学生と交流を行い、さらなる「はじめて」の経験を積み重ねたいと考えております。

最後に長くなりましたが、本校の末長い発展をお祈りいたしまして、記念誌コメントとさせていただきます。



## 沖縄高専での学び

この度は、沖縄高専創立20周年おめでとうございます。

16期生は、今年で20歳を迎えることもあり、沖縄高専に対して「同い年だ」と親近感が湧く学生もいるかと思います。

学生生活では他分野の創造研究や学会発表など様々な経験ができ、視野が広がると同時に自分が今どの位置にいるかを知り、常に焦る気持ちもありました。勉強に対してどのようなモチベーションで、自分がどれぐらいできるのか。周りの環境と自身のポテンシャルを考えながら自分が過ごしやすいように常日頃から工夫をしてきました。

こうして毎日の生活をより良くしようという意識が工学の分野でも重要であると沖縄高専で学ぶことができました。また、新しい自分を発見することができ、新たな人間関係を構築していく中でクラスメイトと実験を協力して行ったり、先生方のアドバイスを受けたりと助けてもらうことが多々ありました。そうした周りの方に感謝をすることを忘れずに過ごせた学生生活は私を大きく成長させました。

自身の人間性を高めていくとともに、自分がどの成長のステージにいたとしても常に周りの方に感謝をしながら目標に向かって日々創意工夫をしていきたいと思っています。



機械システム工学科(16期生)

我那覇 綸

## 高専生活

私が沖縄高専に入学してきて早4年と半年が過ぎました。早いですね。年を取ってこんな感じなのかなあとしみじみ感じている次第です。思い返してみると学級長や寮長、高専祭実行委員、部活など個人的にいろいろ頑張った4年半だったなと思います。そのどれもが貴重な体験で、苦しいことも多々ありましたがそのたびにいろいろな人に支えてもらい乗り越えることができました。本当に感謝でいっぱいです。

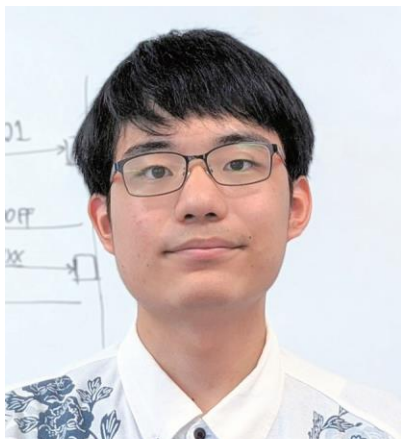
勉強に関してはあまり苦しく感じたことはありませんでした。もともと勉強が好きで、どの教科の勉強も好きでしたが、小さい頃から生物の研究をしたいと思っていたこともあり専門分野の勉強は特に楽しんで行っていました。授業で習ったことを自分のやりたいことにどのように応用できるのかを考えるだけで5年の卒業研究が待ち遠しくてたまりませんでした。

実際に卒業研究が始まると自身の知識の乏しさや技術不足に日々打ちのめされていますが、それでも好きなことに没頭できる毎日で幸せだなと感じます。こうしていられるのも周囲の人の支えがあってこそだと思っています。その感謝の気持ちを忘れずに、今後研究を通して少しでも恩返しができるように自分にできることを一つ一つ精一杯頑張ります。



生物資源工学科(16期生)

安里 匡平



情報通信システム工学科(17期生)

## 宮里 彰吾

### 己が志へと、日々邁進を

私達17期生はコロナ禍の最中に入学し、“入学式が無い”という類稀な経験をした学年でもあります。1年次から新型コロナの影響によって様々な活動が制限され、非常に肩身の狭い思いをしていたことは今でも印象深く記憶に残っています。入学から早4年目、紆余曲折はありつつも、教員や周囲の手厚いサポートを受けながら、無事20周年というめでたい節目に立ち会うことが出来たことを、大変光栄に感じています。

私はこの4年間で高専ロボコンや趣味としての開発、学生会活動や他高専生と連携したイベント等、高専ならではの環境を活かした様々な活動へと力を入れてきました。波長の合う人間、周囲の豊かな自然、自由度の高い開発環境なども相まってどれも刺激的で有意義な経験となり、入学当初はただ漠然としていた「自分の中で理想とする技術者像や将来像」といったものも、次第に定まってきました。もちろん現在も日々成長の毎日で、技術者を志す身としては非常に素晴らしい環境だと常々実感しています。

同世代でも数少ない、“高専生”としての道を選んだからには、最後まで技術に対して貪欲に、様々な知識や経験を蓄えていければと思います。沖縄高専での生活も、短くて残り1年と少し。名残惜しい気もしますが、高専を卒業したその後のまだ見ぬ景色を求めて、全力で駆け抜けてまいります。



メディア情報工学科(17期生)

## 砂川 虎南

### 感染症の影響を大きく受けた3年半

私たち17期生が入学してから早くも4年が経とうとし、進路を考える時期に差し掛かっていることに時の流れの速さを感じます。そんな中で、沖縄高専の創立20周年に立ち会えることを嬉しく思います。おめでとうございます。

沖縄高専で過ごした3年と半分の時間を振り返ってみると、やはり感染症拡大による影響を大きく受けたと思います。1年生、自宅で受けた遠隔授業。顔もまだ見たことない人と一緒に受ける授業は精神的にも少し緊張していました。2年生になると制限も少し緩和され、部活動や初めての高専祭を経験することができました。先輩や後輩とやっと交流ができて嬉しかったです。3年生では、研修旅行で同じ学科のクラスメイトと楽しい思い出を作ることができました。この頃には学生会議会の議長も務め、感染症拡大後初めて対面で学生会議会を行いました。4年生では体育祭が復活し、競技や応援に熱中していたことを昨日の出来事のように思い出します。次の登校日、みんな筋肉痛だったのはいい思い出です。

沖縄高専の学び舎で学ぶことができるのもあと1年になりましたが、限られた時間で今の学生会を、感染症拡大以前のような活発な学生会に戻していけるよう、私たちの世代で精一杯頑張りたいと思います。

## 私の高専生活

沖縄高専20周年おめでとうございます！

私が沖縄高専に入学してから早3年目となりました。残りの学校生活が半分もないことを考えると、時間が経つのは本当に早いと感じます。入学当初は、家族から離れての寮生活や学校生活、友達ができるかなど、多くの不安がありました。しかし、ここで知り合った仲間たちは皆、個性豊かで面白い人たちばかりで、今では家に帰ることを忘れるほど楽しい毎日を送っています。高専は普通校と違い、15歳から22歳の学生が在籍しているので、いろんな人と出会う機会があります。また留学生も多いので、異なる文化や価値観に触れることができるのも、ここ高専の特色の一つだと思います。最近まで、新型コロナウイルスの影響で行事が制限されていましたが、2023年に入り規制が緩和され、少しずつではありますが、学校内でのイベントが増えています。これで、クラスメイトや先輩、後輩と交わる場が多くなることを楽しみにしています。

私は充実した学校生活をともに過ごすクラスメイトや友達、いつも支えてくれる親や先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも様々なことに挑戦しながら、卒業まで仲間たちと共にたくさんの思い出を作りたいと思います。



情報通信システム工学科(18期生)

仲座エナ

## 誰かを笑顔にできる エンジニアになるために

こんにちは。僕はメディア情報工学科3年の北井洸太郎です。

この度は、沖縄高専創立20周年おめでとうございます。

14歳の時、「プログラマーかけ〜」「将来有望」などITエンジニアに憧れ、自ら技術者を志して、沖縄高専に入学しました。今では、早くも3年生で振り返ると、この2年経った間に、自分のスキルや内面、興味関心など色々な面が変化し、成長したと感じます。僕は、地元が石垣島なので、慣れ親しんだ故郷を離れて、新しい環境に飛び込む中、最初は、さまざまな壁にぶち当たりました。寮生活だったり、友達のことだったり、学校の勉強だったり、しかし、その時々、自分の考え方や行動、習慣などを省みて、学び、変化させてきました。

高専に入って特に、なりたいエンジニア像が変わったように感じます。入学する前や入学したばかりの頃は、ただ単純に「ITエンジニアは給料が良さそう」とか、「プログラム書けるのがかっこいい」という表面的な肩書きや利得的なものを見ていましたが、高専生活を過ごす中で、そもそもエンジニアになってどうしたいのか？考えるようになり、今は、「誰かを笑顔にできたらいいな」という想いが強いと感じます。

これからも、誰かを笑顔にできるエンジニアを目指して、頑張ります。



メディア情報工学科(18期生)

北井洸太郎





機械システム工学科(19期生)

## 新垣仁飛

### 座学よりも大事な勉強

「平凡」私を表すにはそれがぴったりでした。機械システム工学科に入った周りの同級生はこの学科の特性を活かせる企業に入りたいと入学した時から決めている人や、隙があれば何かしら計算している人などがいて、自分は周りついていけるかに入学してすぐに不安になりました。

学習でも周りについていけなくなり、一年全部の単位を取得しましたが、ギリギリの科目もあり、順位も中の下でした。

そんな平凡な私はどうやってこの後学生生活をしようか、悩みました。そして、一つの結論に至りました。特別なことができないなら、誰でもできることを極めよう。そう考え、学生会執行部に入ったり、寮の委員会に入ったり、二年になってからは委員会をまとめる寮長を務めたり、誰でもできる仕事を沢山経験して、自分ができることを増やしました。以前全くやり方の分からなかった作業も過去の経験からできるようになり、自分の成長を感じました。言葉ではよく聞いていたのですが、「百聞は一見に如かず」という言葉がある通り、実際に体感してみると聞いていた何倍も感じ方が違うと感じました。この経験は専門知識よりも人間として大事だな、と感じました。

高専で学ぶ五年間、技術者になるための知識を学ぶと同時に、幅広い経験を積んで人間としても成長していきたいと思います。



情報通信システム工学科(19期生)

## サイソン ジューマ

### 高専で学べた楽しさ

沖縄高専創立20周年おめでとうございます! 情報通信システム工学科2年のサイソン・ジューマです。

私は高専入学と同時に寮外生でもあり新しい環境だったので馴染めるかどうかとても不安でした。思いのほか高専は普通校の生徒とは違い頭のねじが外れている人が多いのですぐに新しい環境に馴染めました。

沖縄高専で2年過ごして思ったことは、個人的な感想だと情報科の先生は他学科の先生と比べてとても親しみやすい先生だと感じました。その分先生と学生の距離が縮まりやすいのでとても楽しい学科です。楽しい学科なのは間違いないのですが不満点がいくつかあります。自分は1年の時からプログラミングのバグ取りが得意で周りの友達のバグ取りとしていたのですが、いつの間にか先生にバグ取りと頼みにいく学生が自分に回されていたことです。毎回ではないのですが情報の先生が自分のどこを見てそのような信頼を置いているのかが毎回疑問で仕方ありません。ですが自分は情報の学科別の授業がとても好きで高専の授業の中でも毎回楽しみにしている授業でもあります。創立して5分の1世紀が経つ高専でこのような楽しい体験を与えてくれることへ感謝しながら残り3年以上の生活を楽しみたいと思います。

## エンジニアへの道

沖縄高専創立20周年、誠におめでとうございます。

私は、2023年4月に20期生として当校に入学し、約半年が経ちました。短期間ではありますが、この半年間で沖縄高専についてや、本学科の学習内容、寮での生活についておおよその雰囲気をつかむことができました。

私が沖縄高専に入学したいと思ったきっかけは、当校の卒業生である兄の姿を見てきたからでした。

私は当時幼かったのですが、年を重ねるごとに「高専では大学生のようなことを高校生のうちからやっているんだ」と驚きを感じ、「私もここに絶対入学したい!」と思っていました。

沖縄高専に入学してからは学びが多く、県内外各地から先生・生徒などの人が集まり、新しい価値観を知ることができ、一般高校とは異なった学習スタイルで自主性が養われたと思います。他にも、名護の自然あふれる広大な土地が生かされた校舎は、利便性に優れており、学習環境が整っているため楽しく学習することができると感じました。

まだまだ先は長いですが、人生の通過点として沖縄高専で今できることを後悔しないよう行動していき、社会に貢献できるようなエンジニアになりたいと思います。

改めまして、末筆ではありますが当校の益々のご発展をお祈り申し上げます。



機械システム工学科(20期生)

西川 いちか

## 新世界

2023年4月。緊張や驚きに満ちながら20期生新生代表として宣誓した日から早5ヶ月が経ちましたが、未だ学校生活は毎日驚きと発見で溢れています。私は元々親族にいた高専生の影響で進学を希望していたのでそれなりに知っていることは多いと自負していたのですがそんなことは全くなく、理系科目の難しさや創造研究での活動、そして何と云っても幅広い人間関係に驚かされました。高専は普通高校と違い5年制であったり教員が研究者だったりするので興味深い話題を提供してくれる先生方や様々な経験を積んだ先輩方のお話を気軽に聞くことができるのも高専ならではの良さです。

また私服登校や寮生活という学生の自主性を育むことのできる環境も高専の特徴であると思いました。良い意味でも悪い意味でも自由度の高い校風なので、自分がすべきことは何なのかを考える力が身に付いたり自由ゆえの様々な趣味を通して普段は触れないような知識も得ることができ、それが学習に役立ったり...と色々な場面で関わっています。

設立から20年という記念すべき年に入学でき大変うれしく思うと共に、これから沖縄高専を背負う身として、日本の産業を支えていく技術者として精一杯学習していきたいと思っています。



生物資源工学科(20期生)

小渡 ゆりこ



機械システム工学科(16期生)

## ムハンマド ナキーブ アミル ビン モハマド アヌワ

### 留学生としての高専生活

沖縄高専創立20周年おめでとうございます！私は、国際交流委員会の書記と会計のナキーブです。高専の3年生に編入学してから、もう2年間ぐらい経って様々な経験と思い出ができました。

初めて沖縄に来たとき、不安ばかり感じました。私の日本語レベルは大丈夫か、友達が作れるのか、寮生活に対応できるか、色々な悩みがありました。しかし、優しい先生方、先輩達、友人、そして事務職員全員から指導を絶えずもらっているのが、高専の生活も少しずつ慣れてきました。

また、沖縄高専では、沖縄の美しい自然も楽しむことができます。一番の思い出といえば、渡嘉敷島へ平和学習に行きました。そのとき、留学生達、先生達と一緒にシュノーケリングしたり、バーベキューしたりすることができました。3日間は短かったが、色々なことに挑戦できて楽しかったです。他は、留学生達と共に夢工場の前で餅作りしました。餅をつくのが大変だったが、いい経験になりました。

こうした経験ができ、沖縄高専に編入学して本当に良かったと思います。これから高専での経験を活かし、今の先輩達を越せるような立派な技術者、そしてマレーシアと日本の架け橋になりたいと考えています。



情報通信システム工学科(17期生)

## エッセイ セリム

### 人生の転機 沖縄高専



この度は、御校創立20周年を迎え、誠におめでとうございます。私は、チュニジア出身のセリムと申します。2022年、初めて沖縄に足を踏み入れ、沖縄高専の情報通信システム工学科に編入しました。新たな環境と日本の教育システムに初めて触れ、不安と期待が入り混じりました。しかし、積極的にクラスメートと交流し、先生方からの温かいサポートを受け、不安を克服し、優れた成績を収めることができました。高専の強み

は、協力と共感のコミュニティです。困難に立ち向かう際、絶えず支えてくれる仲間がいます。この異文化の環境で、私自身も成長し、ソフトスキルを磨き、恐れていた挑戦に果敢に取り組む自信を得ました。今後、日本での生活が続く中で、高専で培ったスキルと視野を活かし、日本での就職を目指しています。また、日本と母国チュニジアとの架け橋として、両国関係の発展に貢献したいと、熱い思いで努力し続けます。沖縄高専は、確かに私の人生を変える重要な節目です。この素晴らしい学びの場に感謝の意を表し、未来へのさらなる成功と成長を願っています。



## 新たな人生の道を 歩み始める

沖縄高専創立20周年おめでとうございます。

沖縄高専が20年を迎えた2023年、私は沖縄高専で新たな人生道を歩み始めました。留学前は、「沖縄の生活はどうか」、「日本語は大丈夫かな」、「友達ができるかな」と色々な心配をしていましたが、沖縄に来てその心配はなくなりました。初めて来た日から、先生方やスタッフのみなさん、友人たちが温かく受け入れてくださっているからです。

日本での学校生活は外国人にとって難しいと思われるかもしれませんが、しかし、先生方にサポートしていただき、充実した毎日をご過ごしています。先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。確かに勉強は大変ですが、努力すれば必ずいい結果が出ると信じて頑張っています。寮での生活は少し厳しいですが、友達や先輩・後輩たちと一緒に色々なことをして楽しんでいます。また、クラスメートもバドミントン部の仲間も、みんな気さくに接してくれるのでとても幸せです。

今日まで、知り合った人、訪れた場所、学んだことがたくさんあります。新たな道で、私は少しずつ大人へと成長しています。ここでたくさんのご経験し、思い出を作っていきたいと思います。これからも応援よろしくお願ひします。



メディア情報工学科(18期生)

サリム ナナパト

## 高専で初めての留学

1年間くらい振り返ってみると、あの時は私の大きな出発点だったと思います。高専生生活も、日本語も、外国に行くことも、全部私の初めての経験でした。私はとってもドキドキして、「沖縄高専に留学したらどうなるかなあ」と思いました。

最初に沖縄に来た時、やはり日本語が全然分かりませんでした。授業を受けたり、日本人と話したりするときはとても大変でした。でもここは人も優しいし、友達もできたので、とても嬉しかったです。高専で勉強して一番好きなことは実験をすることです。面白くて、楽しい勉強の方法だと思います。高専生活は楽しい活動があって、リラックスした時間を過ごしています。ここに来てから、自分で色々なことが出来るようになりました。私は恥ずかしがりやですが、去年と比べたら今はちょっと新しいことにチャレンジしたくなってきています。少しでもこれは自分にとって良い変化だと思います。1年が経ち、高専から多くのことを得たと感じています。人生において良い経験です。

私が日本で高専にいる限りは、頑張って勉強するというはもちろん旅行も楽しんで、たくさんいい思い出を作りたいです。日本語ももっと上手になって、情熱と目標を持って、そしてなりたい自分に少しずつ成長していきます。最後に創立20周年おめでとうございます！



生物資源工学科(19期生)

ウィトゥーンサクン  
ナタモン



生物資源工学科(20期生)

## ウィッタヤ ウォラパット

### 沖縄での生活

#### 自分のやりたいことを追いかけて

僕が初めて「日本」を知ったのは6歳のとき、アニメから。

その頃は「わ～日本人になりたい！日本語が分かったら、字幕なしでアニメが見られる！」と思ったが、それは叶わない夢と思っていた。

大人になるにつれて日本への興味が増し、携帯電話を使って日本について色々調べたり学んだりして、日本への見方も変わった。物価が高い、台風と人が怖い…けれど、僕は沖縄高専へ留学する機会を得た。

入学してから初めは少し不安だったけど、生活してみたら、けっこういい！物価は高いけどスーパーが遠いから大丈夫！台風は怖いけど学校が休みになる(\*^ω^)/、沖縄の人も怖くない！と思った。今一番怖いのは漢字だ！((( ; ㄥ )))

それに自由な時間が多いので、趣味が楽しめる！そう！僕の趣味は寝ることだ！ここは天気もいいから寝やすいし、寒くないからたくさん寝ることができる。

また、最近僕は新しい趣味を見つけた！植物を育てるのが大好きなのだ。いま僕の部屋は林になった。

僕は沖縄高専が大好きだ！ここでずっと寝たい♪(´ε`\*)

# 第4章

沖縄工業高等専門学校創立20周年

Students' Activities

## 学生たちの活動

■学生表彰

■学生会長・寮生会長



## 学生表彰 優秀賞（平成25年度以降）

番号	年度	学科	学年	氏名
第32号	平成25	機械システム工学科	5	玉城 大暉
第33号	平成25	メディア情報工学科	5	長嶺 伸
第34号	平成25	生物資源工学科	5	祖納元 美樹
第35号	平成25	電子通信システム工学コース	専攻科2	仲本 祥子
第36号	平成25	生物資源工学コース	専攻科2	土田 永渡
第37号	平成26	情報通信システム工学科	5	俵 拓朗
第38号	平成26	メディア情報工学科	5	金城 絵理奈
第39号	平成26	生物資源工学科	5	長谷川 成海
第40号	平成26	機械システム工学コース	専攻科2	金城 富宏
第41号	平成26	電子通信システム工学コース	専攻科2	新田 航平
第42号	平成26	生物資源工学コース	専攻科2	吉田 若菜
第43号	平成27	情報通信システム工学科	5	久高 優也
第44号	平成27	メディア情報工学科	5	當眞 ジェyson翔
第45号	平成27	生物資源工学科	5	宮里 春奈
第46号	平成27	電子通信システム工学コース	専攻科2	照屋 未来
第47号	平成27	情報工学コース	専攻科2	福山 賢一
第48号	平成27	生物資源工学コース	専攻科2	多田 一風太
第49号	平成28	機械システム工学科	5	サンニ スジャトミコ ハルタント
第50号	平成28	情報通信システム工学科	5	新里 智樹
第51号	平成28	メディア情報工学科	5	江川 達翔
第52号	平成28	生物資源工学科	5	古謝 良人
第53号	平成29	機械システム工学科	5	安元 康貴
第54号	平成29	情報通信システム工学科	5	松田 健太
第55号	平成29	メディア情報工学科	5	仲程 優貴
第56号	平成29	生物資源工学科	5	島袋 礼華
第57号	平成29	機械システム工学コース	専攻科2	平安山 涼
第58号	平成29	電子通信システム工学コース	専攻科2	金城 優生
第59号	平成29	生物資源工学コース	専攻科2	宮里 春奈
第60号	平成30	機械システム工学科	5	比嘉 悠人
第61号	平成30	情報通信システム工学科	5	長嶺 健
第62号	平成30	メディア情報工学科	5	大城 聖也
第63号	平成30	生物資源工学科	5	伊志嶺 桃佳
第64号	平成30	電子通信システム工学コース	専攻科2	与座 章宙
第65号	平成30	情報工学コース	専攻科2	古謝 秀人
第66号	平成30	生物資源工学コース	専攻科2	奥田 愛未
第67号	令和元	機械システム工学科	5	宮平 大輝
第68号	令和元	情報通信システム工学科	5	島袋 隆也

番号	年度	学科	学年	氏名
第 69 号	令和元	メディア情報工学科	5	具志堅 大河
第 70 号	令和元	生物資源工学科	5	江川 瑠那
第 71 号	令和元	生物資源工学コース	専攻科 2	島袋 礼華
第 72 号	令和 2	機械システム工学科	5	福地 紘人
第 73 号	令和 2	情報通信システム工学科	5	前門 秀楨
第 74 号	令和 2	メディア情報工学科	5	比嘉 雄亮
第 75 号	令和 2	生物資源工学科	5	比嘉 菜緒
第 76 号	令和 2	機械システム工学コース	専攻科 2	荻堂 盛彬
第 77 号	令和 2	電子通信システム工学コース	専攻科 2	池村 洸夢
第 78 号	令和 2	生物資源工学コース	専攻科 2	高良 一平
第 79 号	令和 3	機械システム工学科	5	新崎 広人
第 80 号	令和 3	情報通信システム工学科	5	久場 悠誠
第 81 号	令和 3	メディア情報工学科	5	上原 茉央
第 82 号	令和 3	生物資源工学科	5	嘉数 万里奈
第 83 号	令和 3	情報工学コース	専攻科 2	亀谷 長太
第 84 号	令和 3	生物資源工学コース	専攻科 2	比嘉 柚香
第 85 号	令和 4	機械システム工学科	5	尾風 剛
第 86 号	令和 4	情報通信システム工学科	5	浦崎 美柚
第 87 号	令和 4	メディア情報工学科	5	仲宗根 義尊
第 88 号	令和 4	生物資源工学科	5	當山 天地
第 89 号	令和 4	機械システム工学コース	専攻科 2	平良 繁幸
第 90 号	令和 4	情報工学コース	専攻科 2	真嘉比 浩乃
第 91 号	令和 4	生物資源工学コース	専攻科 2	花光 渉

## 学生表彰 学術賞 (平成25年度以降)

番号	年度	団体名	学科	学年	氏名	理由
第17号	平成25		電子通信システム工学コース	専攻科1	内間 大輔	平成25年度電子情報通信学会九州支部第21回学生会講演会において「学生会講演奨励賞」受賞
第18号	平成25		電子通信システム工学コース	専攻科1	呉屋 航	平成25年度電気学会九州支部沖縄支所講演会において「沖縄学術講演奨励賞」受賞
第19号	平成25		電子通信システム工学コース	専攻科1	花城 宗一郎	国際学会ESHPにおいて「Young Scientist Award」受賞
第20号	平成25	生物資源研究会	生物資源工学科	3	宮里 春奈	第3回高校生バイオサミット in 鶴岡において「農林水産大臣賞」及び「審査員特別賞」受賞
			生物資源工学科	3	蔵屋 眸	
			生物資源工学科	3	玉代勢 隆平	
			生物資源工学科	3	比嘉 慈	
			生物資源工学科	2	奥平 ちずか	
第21号	平成25	美らくいな	電子通信システム工学コース	専攻科2	宇根 健一郎	第20回コカ・コーラ環境教育賞において「優秀賞」受賞
			情報通信システム工学科	5	蔵屋 沙那恵	
第22号	平成26		電子通信システム工学コース	専攻科1	與那覇 萌	平成26年度電気学会九州支部沖縄支所講演会において「沖縄学術講演奨励賞」受賞
第23号	平成26		電子通信システム工学コース	専攻科2	内間 大輔	国際シンポジウム (ISTS2014) において「Presentation Award」受賞
			電子通信システム工学コース	専攻科2	呉屋 航	
			電子通信システム工学コース	専攻科1	照屋 未来	
第24号	平成26		メディア情報工学科	5	友利 萌	第15回理工系学生科学技術論文コンクールにおいて「優秀賞」受賞
第25号	平成26		機械システム工学科	5	松永 啓詳	第15回理工系学生科学技術論文コンクールにおいて「特別賞」受賞
第26号	平成27		情報通信システム工学科	2	知名 紗也加	IEEE第7回キャリアアップ・スキルアップに関するエッセイコンテストにおいて「Women in Engineering 部門」及び「Undergraduate 部門」の両部門にて「優秀賞」受賞
第27号	平成27		電子通信システム工学コース	専攻科2	照屋 未来	2015年IEEE福岡支部学生研究奨励賞を受賞
第28号	平成27		情報工学コース	専攻科2	荻堂 修太	平成27年電気学会産業応用部門研究会において「本部表彰 (優秀論文発表賞A)」受賞
第29号	平成27		生物資源工学科	5	上原 野亜	第16回理工系学生科学技術論文コンクールにおいて「特別賞」受賞
第30号	平成27		メディア情報工学科	5	正木 彩花	第16回理工系学生科学技術論文コンクールにおいて「特別賞」受賞
第31号	平成28		電子通信システム工学コース	専攻科1	内嶺 佑太	インドネシア・ガジャマダ大学で開催された6th International Symposium on Technology for Sustainability (ISTS2016)において「Presentation Award」受賞
第32号	平成28		メディア情報工学科	5	古謝 秀人	第17回理工系学生科学技術論文コンクールにおいて「最優秀賞・文部科学大臣賞」受賞
第33号	平成29		機械システム工学コース	専攻科2	伊波 研人	第4回総会学術講演会において「平成29年度日本材料学会九州支部賞Young Researcher Award」を受賞
第34号	平成29		電子通信システム工学コース	専攻科2	内嶺 佑太	第25回電子情報通信学会九州支部学生会講演会において「学生会講演奨励賞」を受賞
第35号	平成29		情報工学コース	専攻科1	喜屋武 幹生	ICIIBMS2017において「ICIIBMS 2017 STUDENT TRAVEL AWARD」受賞
第36号	平成29		情報工学コース	専攻科1	金城 大海翔	電気学会「優秀論文発表賞」受賞
第37号	平成29		情報工学コース	専攻科1	森田 道成	ICIIBMS2017において「ICIIBMS 2017 STUDENT TRAVEL AWARD」受賞 ISIPS2017において「Excellent Poster Presentation Award」受賞



番号	年度	団体名	学科	学年	氏名	理由
第38号	平成29	コア・コネクト	情報通信システム工学科	2	古堅 武琉	第2回ドコモ近未来社会学生コンテストにおいて「奨励賞」受賞
			情報通信システム工学科	2	與那嶺 侑也	
			情報通信システム工学科	2	仲間 航大	
第39号	平成29	レアメタル	情報通信システム工学科	3	上原 一朗	東熱科学技術奨学財団の研究助成プロジェクトにおいて「本賞（最高賞）」受賞
			情報通信システム工学科	3	岡部 仁	
			情報通信システム工学科	3	渡慶次 和希	
第40号	平成29		機械システム工学科	5	上原 孝之	「電気学会優秀論文発表賞」受賞
第41号	平成29		電子通信システム工学コース	専攻科2	荻堂 盛也	「電気学会優秀論文発表賞」受賞
第42号	平成30	DSP48	情報通信システム工学科	4	上原 一朗	LSIデザインコンテスト・イン沖縄において「準優勝」
			情報通信システム工学科	4	渡慶次 和希	
			情報通信システム工学科	4	岡部 仁	
			情報通信システム工学科	4	比嘉 祥吾	
第43号	平成30		電子通信システム工学コース	専攻科2	与座 皇哉	電子情報通信学会において「学生会講演奨励賞」受賞
第44号	平成30	ICT委員会	情報通信システム工学科	4	外間 ルイ	NICTオープンハウス2018学生によるポスターセッションにおいて「最優秀ポスター賞」を受賞
			メディア情報工学科	3	呉屋 愛恵	
			メディア情報工学科	4	岸本 善生	
第45号	平成30		情報工学コース	専攻科2	古謝 秀人	平成30年電気学会次世代産業システム研究会において「優秀論文発表賞」受賞
第46号	平成30		電子通信システム工学コース	専攻科2	与座 章宙	平成30年電気学会次世代産業システム研究会において「優秀論文発表賞」受賞
第47号	平成30		メディア情報工学科	5	西銘 かな	理工系学生科学技術論文コンクールにおいて「優秀賞」受賞
第48号	令和元	Next Generation Marine leisure	電子通信システム工学コース	専攻科1	杉田 太一	高専ワイヤレスIoTコンテストの成果発表会において「最優秀賞（総務大臣賞）」受賞
			情報通信システム工学科	5	下里 凜乃介	
			情報通信システム工学科	5	阿嘉 祥介	
			情報通信システム工学科	4	照屋 珠嵐	
			情報通信システム工学科	4	ピッチ デイヴィット	
第49号	令和元	うちなーブレンド	電子通信システム工学コース	専攻科2	並里 健汰	高専ワイヤレスIoTコンテストの成果発表会において「企業連携賞」受賞
			電子通信システム工学コース	専攻科1	金城 悠斗	
第50号	令和元	ゆいまーる De すいまーる	電子通信システム工学コース	専攻科1	荷川取 大	高専ワイヤレスIoTコンテストの成果発表会において「社会課題解決賞」受賞
			電子通信システム工学コース	専攻科1	長嶺 健	
			電子通信システム工学コース	専攻科1	池村 洸夢	
			電子通信システム工学コース	専攻科1	城田 璃々	
第51号	令和元	DSP48 2期生	情報通信システム工学科	5	比嘉 祥吾	LSIデザインコンテスト・イン沖縄において「準優勝」
			情報通信システム工学科	5	岡部 仁	
			情報通信システム工学科	4	前田 凌雅	
			情報通信システム工学科	4	親富祖 元希	
第52号	令和元	Balsam flower	電子通信システム工学コース	専攻科2	長濱 嗣志	社会実装教育フォーラムにおいて「社会実装賞」受賞
			情報通信システム工学科	5	上原 一朗	
			情報通信システム工学科	5	比嘉 祥吾	
			情報通信システム工学科	5	岡部 仁	
			情報通信システム工学科	5	山城 悠生	

番号	年度	団体名	学科	学年	氏名	理由
第53号	令和元	チーム不発弾	情報通信システム工学科	5	福里 優気	平成30年度全国高専社会実装教育フォーラムにおいて「社会実験賞」受賞
			情報通信システム工学科	5	山城 卓巳	
第54号	令和元	沖縄05	情報通信システム工学科	4	嵩里 健太	平成30年度全国高専社会実装教育フォーラムにおいて「要素技術賞」受賞
			情報通信システム工学科	4	大工廻 睦都	
			情報通信システム工学科	4	親富祖 元希	
第55号	令和元	Fish Learning	情報通信システム工学科	5	奥浜 駿	全国高専ディープラーニングコンテストにおいて「第4位」
			情報通信システム工学科	5	福里 優気	
			情報通信システム工学科	5	清水 朱里	
			情報通信システム工学科	4	照屋 珠嵐	
			情報通信システム工学科	4	仲宗根 美妃	
			情報通信システム工学科	4	ピッチ デイヴィット	
第56号	令和元		電子通信システム工学コース	専攻科1	池村 洸夢	4th STI-Gigaku2019において「BEST POSTER AWARD」受賞
第57号	令和元		情報通信システム工学科	5	仲宗根 綾乃	第11回キャリアアップ・スキルアップに関するエッセイコンテストにおいてUndergraduate部門の「優秀賞」受賞
第58号	令和元		生物資源工学科	5	新垣 さくら	島豆腐おからの有効利用についての研究が、国際紙『Journal of Environment and Safety』に掲載
			生物資源工学科	5	川満 日向子	
			生物資源工学科	5	新垣 奈瑠瀬	
第59号	令和元		生物資源工学科	2	當山 天地	バイオインフォマティクス技術者認定試験に合格し「奨励賞」受賞
第60号	令和元		情報工学コース	専攻科2	知念 響紀	平成31年電気学会次世代産業システム研究会において「優秀論文発表賞」受賞
第61号	令和2	HENOKO KING	情報通信システム工学科	4	金城 琉馬	ITU AI/ML in 5G Challenge国際ラウンドにおいて奨励賞にあたる「Honorable Mention Certificate」受賞
			情報通信システム工学科	4	比嘉 風優希	
			情報通信システム工学科	4	宇地泊 源	
			情報通信システム工学科	4	上原 尚	
第62号	令和2	ポセイドローン	電子通信システム工学コース	専攻科1	奥浜 駿	全国高専ディープラーニングコンテストにおいて「全国第5位」及び「企業賞（矢崎総業賞）」受賞 全国高専ワイヤレスIoTコンテストの成果発表会において「ビジネスクリエイト大賞」受賞
			電子通信システム工学コース	専攻科1	西 達大	
			情報通信システム工学科	5	比嘉 諒人	
			情報通信システム工学科	5	ピッチ デイヴィット	
			情報通信システム工学科	5	照屋 珠嵐	
			情報通信システム工学科	4	金城 琉馬	
第63号	令和2	DSP48 3期生	情報通信システム工学科	4	富島 悠介	LSIデザインコンテスト・イン沖縄において「準優勝」
			情報通信システム工学科	4	高江 怜臣	
			メディア情報工学科	3	平良 昂也	
第64号	令和2		情報通信システム工学科	4	金城 琉馬	ISIE2020において「第2位」
第65号	令和2		機械システム工学コース	専攻科2	前里 敬吾	電気学会電子・情報・システム部門大会において「電気学会優秀論文発表A賞」受賞 2020年9月、電気学会論文誌に掲載決定
第66号	令和4		情報工学コース	専攻科2	社領 一樹	2021年度教育システム情報学会(JSISE)学生研究発表会九州・沖縄地区大会において「優秀発表賞」受賞

## 学生表彰 皆勤賞（平成25年度以降）

番号	年度	学科	学年	氏名
第18号	平成25	生物資源工学科	5	宮城 誠
第19号	平成26	情報通信システム工学科	5	田仲 曙光
第20号	平成26	電子通信システム工学コース	専攻科2	仲宗根 浩一
第21号	平成26	電子通信システム工学コース	専攻科2	新田 航平
第22号	平成26	メディア情報工学科	5	金城 絵理奈
第23号	平成27	機械システム工学科	5	平田 礼奈
第24号	平成27	情報通信システム工学科	5	塩浜 瑠世
第25号	平成27	メディア情報工学科	5	金城 将希
第26号	平成27	メディア情報工学科	5	呉屋 こなみ
第27号	平成27	メディア情報工学科	5	當眞 ジェイソン翔
第28号	平成27	機械システム工学コース	専攻科2	小橋川 秀太
第29号	平成27	生物資源工学コース	専攻科2	城間 博紹
第30号	平成27	生物資源工学コース	専攻科2	祖納元 美樹
第31号	平成27	生物資源工学コース	専攻科2	當山 礼那
第32号	平成27	生物資源工学コース	専攻科2	宮城 誠
第33号	平成28	機械システム工学科	5	石川 巧
第34号	平成28	メディア情報工学科	5	古謝 秀人
第35号	平成28	生物資源工学科	5	桃原 佳克
第36号	平成28	情報通信システム工学科	5	座間味 愛樹
第37号	平成28	情報通信システム工学科	5	与座 皇哉
第38号	平成29	機械システム工学科	5	安元 康貴
第39号	平成29	情報通信システム工学科	5	島袋 歩
第40号	平成30	機械システム工学科	5	前里 敬吾
第41号	平成30	機械システム工学科	5	山城 翔吾
第42号	平成30	情報通信システム工学科	5	原田 繭
第43号	平成30	メディア情報工学科	5	西銘 かな
第44号	令和元	機械システム工学科	5	知念 優奈
第45号	令和元	機械システム工学科	5	照屋 結衣
第46号	令和元	機械システム工学科	5	宮平 大輝
第47号	令和元	生物資源工学科	5	江川 瑠那
第48号	令和元	生物資源工学科	5	金城 涉
第49号	令和2	機械システム工学科	5	宮城 武玖
第50号	令和2	機械システム工学科	5	宮城 璃久
第51号	令和2	機械システム工学科	5	山城 開夢
第52号	令和2	メディア情報工学科	5	木下 ももこ
第53号	令和2	メディア情報工学科	5	比嘉 雄亮
第54号	令和2	生物資源工学科	5	平良 莉子



番号	年度	学科	学年	氏名
第55号	令和2	生物資源工学科	5	花光 渉
第56号	令和3	機械システム工学科	5	新崎 広人
第57号	令和3	情報通信システム工学科	5	伊藤 咲
第58号	令和3	情報通信システム工学科	5	久場 悠誠
第59号	令和3	生物資源工学コース	専攻科2	金城 渉
第60号	令和4	機械システム工学科	5	尾風 剛
第61号	令和4	メディア情報工学科	5	オドギーブ アリオンザヤ
第62号	令和4	メディア情報工学科	5	上原 龍馬

## 学生表彰 特別賞（平成25年度以降）

番号	年度	団体名	学科	学年	氏名	理由
第32号	平成25		機械システム工学科	4	岡田 匡平	ボーイスカウト日本連盟から「富士章」受章
第33号	平成25		メディア情報工学科	3	當眞 ジェyson翔	第7回アジア太平洋情報オリンピックにおいて「銅メダル」受賞
第34号	平成25		メディア情報工学科	4	菊池 陽平	平成23年4月から平成25年12月までピア・サポーターとして障害を持つ学生を支援
第35号	平成25		メディア情報工学科	2	瀧元 幸	第50回（平成25年度）九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会水泳競技 女子50mバタフライにおいて「第1位」 女子100m自由形において「第2位」
第36号	平成25	女子バスケットボール部	生物資源工学科	5	宮城 李夢	第50回（平成25年度）九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会バスケットボール競技（女子）において「優勝」 第48回（平成25年度）全国高等専門学校体育大会バスケットボール競技（女子）において「第3位」
			生物資源工学科	5	平良 美奈子	
			メディア情報工学科	5	町田 静香	
			メディア情報工学科	4	松田 芽	
			メディア情報工学科	4	仲宗根 梨奈	
			メディア情報工学科	3	足立 詩緒香	
			メディア情報工学科	3	森 歩未	
			情報通信システム工学科	2	川満 涼夏	
第37号	平成25	男子バスケットボール部	生物資源工学科	5	伊良部 寛規	第50回（平成25年度）九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会バスケットボール競技（男子）において「第3位」
			情報通信システム工学科	5	伊禮 吉充	
			情報通信システム工学科	5	大城 裕哉	
			生物資源工学科	5	青山 千博	
			生物資源工学科	5	宮城 誠	
			機械システム工学科	4	座喜味 聖斗	
			情報通信システム工学科	4	上間 南海斗	
			情報通信システム工学科	4	岸本 忠也	
			情報通信システム工学科	4	新城 貴大	
			メディア情報工学科	4	上原 可意	
			メディア情報工学科	4	饒辺 大稀	
			生物資源工学科	4	服部 暉	
			機械システム工学科	3	安間 大雅	
			生物資源工学科	3	玉那覇 大也	
生物資源工学科	3	與儀 泰一郎				
第38号	平成25	メディア情報工学科 鈴木研究室	メディア情報工学科	5	照屋 のぞみ	全国高等専門学校第24回プログラミングコンテスト課題部門において「特別賞」受賞
			メディア情報工学科	5	仲嶺 真豪	
			メディア情報工学科	5	松井 くるみ	
			メディア情報工学科	5	宮里 和裕	

番号	年度	団体名	学科	学年	氏名	理由
第39号	平成25	ICT委員会	メディア情報工学科	5	日熊 悠太	全国高等専門学校第24回プログラミングコンテスト自由部門において「特別賞」受賞
			メディア情報工学科	4	照屋 大地	
			情報通信システム工学科	2	大田 有夏	
			情報通信システム工学科	1	山城 響	
第40号	平成25	ICT委員会	メディア情報工学科	3	當眞 ジェイソン翔	パソコン甲子園2013プログラミング部門において「第5位」
			メディア情報工学科	1	清水 梨玖	
第41号	平成25	ICT委員会	メディア情報工学科	3	西原 希咲	2014うちな～ICTビジネスプラン発表会において「沖縄情報通信懇談会会長賞」受賞
			メディア情報工学科	2	春木 竜聖	
			生物資源工学科	1	賀数 志乃	
第42号	平成25	ICT委員会	メディア情報工学科	1	我如古 拓史	2014うちな～ICTビジネスプラン発表会において「フロム沖縄理事長賞」受賞
			メディア情報工学科	1	知念 響紀	
			メディア情報工学科	1	仲程 優貴	
第43号	平成25	メディア情報工学科 鈴木研究室	メディア情報工学科	5	照屋 のぞみ	第6回沖縄学生ビジネスプランコンテストにおいて「優秀賞」受賞
			メディア情報工学科	5	仲嶺 真豪	
			メディア情報工学科	5	松井 くるみ	
			メディア情報工学科	5	宮里 和裕	
第44号	平成26		メディア情報工学科	3	山城 広周	第1回九州沖縄地区高等専門学校弓道大会の男子個人戦において「優勝」
第45号	平成26	女子バスケットボール部	メディア情報工学科	5	松田 芽	第51回(平成26年度)九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会バスケットボール競技(女子)において4年連続「優勝」 第49回(平成26年度)全国高等専門学校体育大会バスケットボール競技(女子)において「第3位」
			メディア情報工学科	4	足立 詩緒香	
			メディア情報工学科	4	森 歩未	
			情報通信システム工学科	3	川満 涼夏	
			生物資源工学科	3	喜納 星	
			生物資源工学科	3	古波津 千百合	
			生物資源工学科	1	喜屋武 柚奈	
			生物資源工学科	1	森本 晴子	
			生物資源工学科	1	知念 沙耶果	
			生物資源工学科	1	涌井 菜摘	
			生物資源工学科	1	仲眞 花南	
生物資源工学科	1	照屋 里奈				
第46号	平成26	ICT委員会	メディア情報工学科	3	生田 輪太郎	パソコン甲子園2014モバイル部門において「グランプリ」受賞
			メディア情報工学科	3	春木 竜聖	
			メディア情報工学科	2	島袋 瑞樹	
第47号	平成26	ICT委員会	メディア情報工学科	2	安慶名 雄大	パソコン甲子園2014モバイル部門において「ベストアイデア賞」受賞
			メディア情報工学科	2	知念 響紀	
			メディア情報工学科	2	我如古 拓史	
第48号	平成26	ICT委員会	メディア情報工学科	4	西原 希咲	平成25年度起業家甲子園において「特別賞(企業賞)」受賞
			メディア情報工学科	3	春木 竜聖	
			生物資源工学科	2	賀数 志乃	
第49号	平成26	ICT委員会	メディア情報工学科	4	西原 希咲	全国高等専門学校第25回プログラミングコンテスト競技部門において「準優勝」
			メディア情報工学科	3	渡嘉敷 真優	
			情報工学コース	専攻科1	日熊 悠太	
第50号	平成26	ICT委員会	メディア情報工学科	5	名渡山 夏子	第一回ビジネスモデル発見&発表会全国大会において「キャンパス部門 最優秀特別賞・ICTビジネス研究会賞」受賞
			メディア情報工学科	5	近藤 史麻	
			メディア情報工学科	5	金城 絵理奈	
第51号	平成26	ICT委員会	メディア情報工学科	3	生田 輪太郎	第2回うちな～ICTビジネスプラン発表会において「沖縄情報通信懇談会会長賞」「NICT賞」受賞
			メディア情報工学科	3	春木 竜聖	
			メディア情報工学科	2	島袋 瑞樹	
第52号	平成26	ICT委員会	メディア情報工学科	5	名渡山 夏子	第2回うちな～ICTビジネスプラン発表会において「ICTビジネス研究会キャンパス賞」受賞
			メディア情報工学科	5	近藤 史麻	
			メディア情報工学科	5	金城 絵理奈	
第53号	平成26	ICT委員会	メディア情報工学科	5	與那城 有	トレンドマイクロプログラミングコンテスト国内予選会において「第7位」
			メディア情報工学科	5	照屋 大地	
			メディア情報工学科	5	呉屋 寛裕	
			情報工学コース	専攻科1	日熊 悠太	
第54号	平成26		メディア情報工学科	5	久保田 明成	平成24年4月から平成27年2月までピア・サポーターとして障害を持つ学生を支援
第55号	平成26		生物資源工学科	5	與那嶺 歩	平成26年1月から平成27年2月までピア・サポーターとして障害を持つ学生を支援

番号	年度	団体名	学 科	学 年	氏 名	理 由
第56号	平成26	チーム沖縄高専	生物資源工学科	5	服部 暉	2014年度に実施されたりゅうぎんアントレプレナー支援セミナーの最終選考において「特別賞」受賞
			生物資源工学科	5	宮川 慧	
第57号	平成27	弓道部	機械システム工学科	5	桐原 遥子	第2回九州沖縄地区高等専門学校弓道大会の女子団体戦において「第3位」
			生物資源工学科	4	座間味 愛由	
			生物資源工学科	2	佐渡山 楓花	
第58号	平成27	第9回COCET プレコン出場 チーム	機械システム工学科	4	大城 立津也	第9回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストのプレゼンテーション部門において、「特別賞（COCET賞）」受賞
			情報通信システム工学科	4	武田 都子	
			メディア情報工学科	4	田崎 豊夏	
			メディア情報工学科	2	安里 眞夢	
第59号	平成27	ICT委員会	メディア情報工学科	2	玉那覇 壱世	ETロボコン2015沖縄地区大会において「デベロッパー部門プライマリークラス競技優勝」受賞
			メディア情報工学科	2	垣花 周	
			メディア情報工学科	1	垣花 周	
第60号	平成27	ICT委員会	情報工学コース	専攻科1	與那城 有	全国高等専門学校第26回プログラミングコンテスト競技部門において「特別賞」受賞
			メディア情報工学科	2	又吉 純次	
			メディア情報工学科	1	呉屋 愛恵	
第61号	平成27	ICT委員会	メディア情報工学科	3	島袋 瑞樹	パソコン甲子園2015モバイル部門において「ベストアイデア賞」受賞
			情報通信システム工学科	3	山城 響	
			メディア情報工学科	2	潮平 諒也	
第62号	平成27	ICT委員会	メディア情報工学科	2	又吉 純次	パソコン甲子園2015プログラミング部門において「審査委員特別賞」受賞
			メディア情報工学科	2	森永 駿介	
第63号	平成27	ICT委員会	メディア情報工学科	3	島袋 瑞樹	第3回うちな～ICTビジネスプラン発表会において「沖縄情報通信懇談会会長賞」「NICT賞」受賞
			情報通信システム工学科	3	山城 響	
			メディア情報工学科	2	潮平 諒也	
第64号	平成27	ICT委員会	メディア情報工学科	1	呉屋 愛恵	第3回うちな～ICTビジネスプラン発表会において「ICTビジネス研究会キャンパス賞」受賞
			メディア情報工学科	1	金城 樹里	
			情報通信システム工学科	1	外間 ルイ	
第65号	平成27	ICT委員会	メディア情報工学科	5	西原 希咲	第3回うちな～ICTビジネスプラン発表会において「IIA会長賞」受賞
			メディア情報工学科	4	辺土名 朝飛	
			情報通信システム工学科	4	与座 章宙	
			メディア情報工学科	3	當間 環	
第66号	平成27	ICT委員会	情報工学コース	専攻科1	與那城 有	ACM-ICPC国際大学対抗プログラミングコンテストアジア地区大会に、国内予選を突破して出場した。
			メディア情報工学科	5	當眞 ジェイソン翔	
			メディア情報工学科	5	足立 詩緒香	
第67号	平成27	女子バスケット ボール部	メディア情報工学科	5	森 歩未	第52回（平成27年度）九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会バスケットボール競技（女子）において「準優勝」
			メディア情報工学科	5	仲宗根 梨奈	
			情報通信システム工学科	4	川満 涼夏	
			生物資源工学科	4	喜納 星	
			生物資源工学科	2	喜屋武 柚奈	
			生物資源工学科	2	知念 沙耶果	
			生物資源工学科	2	涌井 菜摘	
第68号	平成27		生物資源工学科	5	仲村 佑介	入学してから卒業までの5年間に於いて、寮生会の役員として学生寮の生活改善・治安維持に特段に貢献した。
第69号	平成27		生物資源工学コース	専攻科2	平良 美奈子	本校学生として、初めて「トビタテ！留学JAPAN」日本代表プログラムに採択され、留学期間中に「沖縄高専生による、沖縄高専生のための海外インターンシップ派遣先の開拓」活動に挑戦した。その結果、17のインターンシップ受入候補先を開拓した。また、在校生のグローバル意識の向上と活動支援を積極的に推進した。
第70号	平成28	ICT委員会	メディア情報工学科	2	呉屋 愛恵	2015年ICTビジネスモデル発見&発表会全国大会に「ピュアの極み乙女。」として出場し、「総務大臣賞（キャンパス大賞）」受賞
			メディア情報工学科	2	金城 樹里	
			情報通信システム工学科	2	外間 ルイ	
第71号	平成28	ICT委員会	情報工学コース	専攻科2	與那城 有	ACM-ICPC国際大学対抗プログラミングコンテストアジア地区つくば大会に国内予選を突破して出場し「第25位」
			メディア情報工学科	4	清水 梨玖	
第72号	平成28	ICT委員会	情報通信システム工学科	4	山城 響	全国高等専門学校第27回プログラミングコンテスト自由部門において「特別賞」受賞
			メディア情報工学科	4	島袋 瑞樹	
			メディア情報工学科	4	清水 梨玖	
			メディア情報工学科	2	金城 樹里	
			メディア情報工学科	2	山城 凜	
			情報通信システム工学科	1	古堅 武琉	



番号	年度	団体名	学科	学年	氏名	理由
第73号	平成28	ICT委員会	メディア情報工学科	3	又吉 純次	第14回全国高等学校パソコンコンクール(パソコン甲子園2016) プログラミング部門において「第6位」
			メディア情報工学科	3	貝盛 陽平	
第74号	平成28	ICT委員会	メディア情報工学科	2	宮里 颯斗	第14回全国高等学校パソコンコンクール(パソコン甲子園2016) モバイル部門において「ベストデザイン賞」受賞
			メディア情報工学科	2	伊波 智博	
			メディア情報工学科	2	知花 朱里	
第75号	平成28	ICT委員会	メディア情報工学科	4	當間 環	2016うちな～ICTビジネスプラン発表会において「ICTビジネス研究会キャンパス賞」受賞
			情報通信システム工学科	2	外間 ルイ	
第76号	平成28	ICT委員会	メディア情報工学科	4	島袋 瑞樹	2016うちな～ICTビジネスプラン発表会において「沖縄情報通信懇談会会長賞・NICT賞」受賞
			メディア情報工学科	4	清水 梨玖	
			情報通信システム工学科	5	与座 章宙	
			メディア情報工学科	2	金城 樹里	
			メディア情報工学科	2	山城 凜	
			情報通信システム工学科	1	古堅 武琉	
第77号	平成28	ICT委員会	メディア情報工学科	2	宮里 颯斗	2016うちな～ICTビジネスプラン発表会において「フロム沖縄理事長賞」受賞
			メディア情報工学科	2	伊波 智博	
第78号	平成28	ICT委員会	メディア情報工学科	1	真嘉比 浩乃	2016うちな～ICTビジネスプラン発表会において「AGIS会長賞」受賞
			メディア情報工学科	1	小室 凜央	
			メディア情報工学科	1	今村 有志	
			メディア情報工学科	1	宮城 翔	
			メディア情報工学科	1	大宜見 玲	
第79号	平成28	女子バスケットボール部	情報通信システム工学科	5	川満 涼夏	第53回(平成28年度)九州沖縄地区高専体育大会バスケット競技(女子)において「準優勝」
			生物資源工学科	5	喜納 星	
			生物資源工学科	5	古波津 千百合	
			生物資源工学科	3	喜屋武 柚奈	
			生物資源工学科	3	知念 沙耶果	
			メディア情報工学科	3	ニャムドルジ エルデネマー	
			生物資源工学科	3	森本 晴子	
			生物資源工学科	2	翁長 京香	
			生物資源工学科	1	比嘉 菜緒	
			機械システム工学科	1	香村 真衣	
生物資源工学科	2	屋比久 鈴美				
第80号	平成28		情報通信システム工学科	1	比嘉 昂佑	那覇市スポーツ少年団での活動が評価され、沖縄県青少年保護育成条例に基づく善行青少年等の「県知事表彰」を受賞
第81号	平成28		メディア情報工学科	3	安里 眞夢	SECCON2016において「文部科学大臣賞」を受賞 本大会の予選である第11回情報危機管理コンテストにおいて福井大学・沖縄高専・金沢高専の混成チームのメンバーとして出場し「経済産業大臣賞」を受賞
第82号	平成28	生物資源同好会	生物資源工学科	3	石原 玲南	第1回高専生サミット on Bioinspired Chemistryにおいて「プレゼンテーション賞」を受賞
			生物資源工学科	5	八部 雄太	
			生物資源工学科	3	宮城 美月	
第83号	平成28		生物資源工学科	5	木村 碧樹	第1回高専生サミット on Bioinspired Chemistry)において「鶴岡高専校長賞」を受賞
第84号	平成28		メディア情報工学科	3	仲間 李子	第69回沖縄展の書芸部門において「沖縄教育特別賞」を受賞
第85号	平成29	女子バスケットボール部	生物資源工学科	4	喜屋武 柚奈	第54回(平成29年度)九州沖縄地区高専体育大会バスケット競技(女子)において「優勝」 第52回(平成29年度)全国高専体育大会において「第3位」
			生物資源工学科	4	知念 沙耶果	
			メディア情報工学科	4	ニャムドルジ エルデネマー	
			生物資源工学科	4	森本 晴子	
			生物資源工学科	3	翁長 京香	
			生物資源工学科	2	比嘉 菜緒	
			生物資源工学科	2	松田 奈美	
			機械システム工学科	2	香村 真衣	
生物資源工学科	1	赤嶺 季映				

番号	年度	団体名	学科	学年	氏名	理由
第86号	平成29	硬式テニス部	情報通信システム工学科	3	根路銘 詠一	平成29年度九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会において (男子団体の部) 優勝 (男子個人の部) シングルス「第3位」(木村) ダブルス「準優勝」(根路銘、比嘉)
			情報通信システム工学科	3	比嘉 祥吾	
			機械システム工学科	3	木村 宥	
			メディア情報工学科	3	大城 光輝	
			生物資源工学科	3	具志堅 悠馬	
			情報通信システム工学科	2	宮平 大湖	
			メディア情報工学科	2	真志喜 蒼麻	
			生物資源工学科	2	玉城 晃太	
			機械システム工学科	1	新垣 朝啓	
第87号	平成29	硬式テニス部	生物資源工学科	5	小濱 夏実	平成29年度九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会において (女子個人の部) シングルス「第3位」(小濱ちひろ) ダブルス「準優勝」(小濱ちひろ、小濱夏実)
			メディア情報工学科	4	小濱 ちひろ	
第88号	平成29	fusion field	メディア情報工学科	3	金城 拓登	マリンチャレンジプログラム九州・沖縄大会において「優秀賞」受賞
			メディア情報工学科	2	宮城 武蔵	
			機械システム工学科	2	眞榮田 大和	
			機械システム工学科	3	邊土名 信雄	
			機械システム工学科	2	加古 暁海	
第89号	平成29	wants	情報通信システム工学科	3	上原 一朗	第6回SCORE!サイエンスinオキナワにおいて「第2位」
			情報通信システム工学科	3	岡部 仁	
			機械システム工学科	3	内間 零斗	
第90号	平成29	チーム山城	情報通信システム工学科	3	山城 卓巳	第6回SCORE!サイエンスinオキナワにおいて「第3位」
			情報通信システム工学科	3	山城 悠生	
			情報通信システム工学科	3	宇地原 大智	
第91号	平成29	ICT委員会	メディア情報工学科	3	宮里 颯斗	2017年ビジネスモデル発見&発表会沖縄大会において「ビジネス部門最優秀特別賞・沖縄県知事賞・沖縄銀行賞」受賞
			メディア情報工学科	2	真嘉比 浩乃	
第92号	平成29	ICT委員会	メディア情報工学科	3	金城 樹里	全国高等専門学校第28回プログラミングコンテスト自由部門において「特別賞」受賞
			メディア情報工学科	3	岸本 善生	
			メディア情報工学科	3	山城 凜	
			情報通信システム工学科	3	外間 ルイ	
			情報通信システム工学科	1	比嘉 風優希	
第93号	平成29	ICT委員会	メディア情報工学科	3	宮里 颯斗	第15回全国高等学校パソコンコンクール(パソコン甲子園2017) モバイル部門において「ベストデザイン賞」受賞
			メディア情報工学科	3	伊波 智博	
			メディア情報工学科	2	真嘉比 浩乃	
第94号	平成29	ICT委員会	情報通信システム工学科	3	外間 ルイ	2017うちな〜ICTビジネスプラン発表会において「トップモデル賞・NICT賞・テレコムサービス協会沖縄支部会長賞」受賞
			メディア情報工学科	2	呉屋 愛恵	
第95号	平成29	ICT委員会	メディア情報工学科	3	ゲレグドルジ ミンジン	2017うちな〜ICTビジネスプラン発表会において「I・O DATA賞」受賞
			メディア情報工学科	2	家村 一摩	
			メディア情報工学科	2	宮城 翔	
			メディア情報工学科	2	伊佐 志琉	
			メディア情報工学科	2	社領 一樹	
第96号	平成29	ICT委員会	メディア情報工学科	2	小室 凜央	2017うちな〜ICTビジネスプラン発表会において「IIA会長賞」受賞
			メディア情報工学科	2	今村 有志	
			メディア情報工学科	2	美里 幸輝	
第97号	平成29	ICT委員会	メディア情報工学科	3	宮里 颯斗	2017うちな〜ICTビジネスプラン発表会において「フロム沖縄理事長賞」受賞
			メディア情報工学科	2	真嘉比 浩乃	
第98号	平成29		電子通信システム工学コース	専攻科2	金城 優生	九州沖縄地区高専大会において H23年100m平泳ぎ及び200mリレー「第2位」 H24年100m平泳ぎ「第2位」 H27年200mリレー「第2位」
第99号	平成29		情報通信システム工学科	5	島袋 歩	九州沖縄地区高専大会において H26年800m自由形「第3位」 H28年100m自由形「第3位」 H29年800m自由形「第3位」
第100号	平成29		メディア情報工学科	5	中野 貴稀	九州沖縄地区高専大会において H27年200mリレー「第2位」
第101号	平成29		生物資源工学科	4	佐渡山 楓花	第38回全国高等専門学校通信弓道大会において (女子個人の部) 優勝
第102号	平成29	弓道部	生物資源工学科	4	佐渡山 楓花	第38回全国高等専門学校通信弓道大会において (女子団体の部) 優勝
			生物資源工学科	4	又吉 巴菜	

番号	年度	団体名	学科	学年	氏名	理由
第103号	平成30	女子バスケットボール部	生物資源工学科	5	喜屋武 柚奈	第55回(平成30年度)九州沖縄地区高専体育大会バスケット競技(女子)において「優勝」第53回(平成30年度)全国高専体育大会において「第3位」
			生物資源工学科	5	知念 沙耶果	
			メディア情報工学科	5	ニヤムドルジ エルデネマー	
			生物資源工学科	5	森本 晴子	
			生物資源工学科	4	翁長 京香	
			機械システム工学科	3	香村 真衣	
			生物資源工学科	3	比嘉 菜緒	
			生物資源工学科	3	松田 奈美	
			生物資源工学科	2	赤嶺 季映	
			機械システム工学科	2	玉城 早也佳	
			情報通信システム工学科	2	安山 千鶴	
			情報通信システム工学科	1	金城 恵	
			情報通信システム工学科	1	幸地 芽	
第104号	平成30	男子ハンドボール部	機械システム工学科	5	松澤 拓未	第55回(平成30年度)九州沖縄地区高専体育大会ハンドボール競技において「第3位」
			機械システム工学科	5	山城 孝太	
			情報通信システム工学科	5	岸本 流栄	
			生物資源工学科	5	小橋川 誠雅	
			機械システム工学科	4	内間 零斗	
			機械システム工学科	4	大田 勝斗	
			機械システム工学科	4	齊藤 主丸	
			メディア情報工学科	4	伊佐 信人	
			生物資源工学科	4	金城 渉	
			生物資源工学科	4	知念 賢生	
			機械システム工学科	3	仲間 琉央	
			情報通信システム工学科	3	大城 太志	
			情報通信システム工学科	3	新里 陸月	
			生物資源工学科	3	岡野 祥希	
			機械システム工学科	2	比嘉 駿	
生物資源工学科	1	北園 凜気				
第105号	平成30	ICT委員会	情報通信システム工学科	4	外間 ルイ	2017年ビジネスモデル発見&発表会全国大会において「女性起業家大賞」「エネコム賞」受賞
			メディア情報工学科	3	呉屋 愛恵	
第106号	平成30	ICT委員会	メディア情報工学科	4	宮里 颯斗	2017年ビジネスモデル発見&発表会全国大会において「審査委員会特別賞」受賞
			メディア情報工学科	3	真嘉比 浩乃	
第107号	平成30	ICT委員会	情報通信システム工学科	4	外間 ルイ	平成29年度起業家甲子園において「審査委員特別賞・クラウドワークス賞・株式会社jig.jp賞・IBM Blue Hub賞・パナソニック賞・YJキャピタル賞」受賞
			メディア情報工学科	3	呉屋 愛恵	
			メディア情報工学科	4	岸本 善生	
第108号	平成30	ICT委員会	メディア情報工学科	5	玉那覇 壱世	全国高等専門学校第29回プログラミングコンテストの課題部門において「特別賞」受賞
			情報通信システム工学科	4	外間 ルイ	
			メディア情報工学科	4	岸本 善生	
			情報通信システム工学科	3	ピッチ デイヴィット	
第109号	平成30	ICT委員会	メディア情報工学科	3	小室 凜央	第16回全国高等学校パソコンコンクール(パソコン甲子園2018)において「グランプリ」受賞
			メディア情報工学科	3	真嘉比 浩乃	
第110号	平成30	ICT委員会	メディア情報工学科	2	伊藝 巧也	PARADISE JAM2018において「審査委員特別賞」受賞
			メディア情報工学科	2	伊佐 龍拓	
			情報通信システム工学科	2	崎間 達帆	
			メディア情報工学科	2	比嘉 風	
			メディア情報工学科	2	慶田 神乃恩	
第111号	平成30	ICT委員会	情報通信システム工学科	4	外間 ルイ	起業家甲子園沖縄地区大会において「NICT賞」受賞
			メディア情報工学科	1	上原 すみ加	
			メディア情報工学科	1	酒井 玄	
第112号	平成30	ICT委員会	情報通信システム工学科	4	外間 ルイ	X-Tech innovation2018において「グランドチャンピオン」受賞
			メディア情報工学科	1	上原 すみ加	
			メディア情報工学科	1	酒井 玄	
			情報通信システム工学科	2	比嘉 風優希	
第113号	平成30		情報通信システム工学科	3	古堅 武琉	日本ゲーム大賞2018 U18部門において「銅賞」受賞
第114号	平成30		機械システム工学科	2	當間 誉朗	日本ボーイスカウトでの活動が評価され、沖縄県青少年保護育成条例に基づく善行青少年等の「県知事表彰」を受賞



番号	年度	団体名	学科	学年	氏名	理由
第115号	平成30		情報通信システム工学科	2	伊藤 咲	平成30年度女子寮長を務め、これまでになかった寮のイベントや寮生会規則の制定を行った。 多くの出前授業や学校説明会に参加し、沖縄高専の広報活動に貢献した。
第116号	令和元	男子ハンドボール部	機械システム工学科	5	内間 零斗	第56回(令和元年度)九州沖縄地区高専体育大会ハンドボール競技において「第3位」
			機械システム工学科	5	大田 勝斗	
			生物資源工学科	5	金城 渉	
			生物資源工学科	5	知念 賢生	
			情報通信システム工学科	4	大城 太志	
			情報通信システム工学科	4	新里 陸月	
			生物資源工学科	4	岡野 祥希	
			機械システム工学科	3	比嘉 駿	
第117号	令和元	ICT委員会	情報通信システム工学科	5	外間 ルイ	全国高等専門学校第30回プログラミングコンテストの課題部門において「特別賞」受賞
			メディア情報工学科	3	入江 祐毅	
			メディア情報工学科	2	備瀬 己智	
			情報通信システム工学科	1	岸本 凜	
第118号	令和元	ICT委員会	メディア情報工学科	5	宮里 颯斗	全国高等専門学校第30回プログラミングコンテストの自由部門において「日立製作所企業賞」受賞
			メディア情報工学科	5	山城 凜	
			メディア情報工学科	2	上原 すみ加	
			メディア情報工学科	1	市岡 麻衣	
第119号	令和元	ICT委員会	メディア情報工学科	1	市岡 麻衣	起業家甲子園沖縄地区大会2019において「NICT賞」受賞
			メディア情報工学科	1	當銘 涼音	
			情報通信システム工学科	1	山城 佑斗	
第120号	令和元	ICT委員会	情報通信システム工学科	5	外間 ルイ	PARADISE JAM2019において「最優秀賞」受賞
			メディア情報工学科	5	伊波 智博	
			メディア情報工学科	5	金城 樹里	
			メディア情報工学科	5	垣花 周	
第121号	令和元	ICT委員会	情報通信システム工学科	4	宇地原 大智	PARADISE JAM2019において「OADC賞」受賞
			メディア情報工学科	3	伊藝 巧也	
			メディア情報工学科	3	伊佐 龍拓	
			メディア情報工学科	3	比嘉 風	
			メディア情報工学科	3	慶田 神乃恩	
第122号	令和元	ICT委員会	情報通信システム工学科	3	慶田 神乃恩	第1回宮古スペースバルーンコンテストにおいて「Loop賞(スポンサー企業賞)」受賞
			メディア情報工学科	3	伊藝 巧也	
			メディア情報工学科	3	伊佐 龍拓	
			メディア情報工学科	3	比嘉 風	
			メディア情報工学科	3	慶田 神乃恩	
第123号	令和元	きじむな〜	情報通信システム工学科	3	崎間 達帆	第8回SCORE!サイエンスinオキナワにおいて「優勝」
			情報通信システム工学科	3	久高 萌永	
			情報通信システム工学科	3	外間 円佳	
			情報通信システム工学科	3	安山 千鶴	
			機械システム工学科	3	山城 翔	
			メディア情報工学科	3	田仲 風花	
第124号	令和元	ちゅら☆うるま	情報通信システム工学科	2	前田 光太	高校生ものづくり・ことづくりプランコンテスト2018において「最優秀賞」受賞
			機械システム工学科	2	玉那覇 龍太郎	
			メディア情報工学科	2	仲間 怜央	
			メディア情報工学科	2	玉城 洵弥	
			メディア情報工学科	2	町田 峻	
			生物資源工学科	2	山根 蒼	
			生物資源工学科	2	岸本 花菜	
第125号	令和元	広報センター学生グループ	情報通信システム工学科	4	冷水 晴香	広報センター内に学生グループを立ち上げ、学校説明会・オープンキャンパス・サマースクール・出前授業等様々な広報活動に取り組んだ。
			機械システム工学科	4	兼城 凜多	
			機械システム工学科	4	香村 真衣	
			情報通信システム工学科	4	福井 慶次	
			メディア情報工学科	4	比嘉 雄亮	
			生物資源工学科	4	林 心	
			生物資源工学科	4	比嘉 菜緒	
第126号	令和元		情報通信システム工学科	1	福浜 幹人	令和元年度沖縄県高校総体ヨット競技のシングルハンダー級で「第3位」

番号	年度	団体名	学科	学年	氏名	理由
第127号	令和元		機械システム工学科	3	當間 誉朗	日本ボーイスカウトでの活動が評価され、富士スカウト（富士章）として認定された
第128号	令和2	とまと	情報通信システム工学科	1	鷺澤 稜河	U18 IT夢コンテスト2020において「優秀賞」受賞
			情報通信システム工学科	1	上地 慧	
			情報通信システム工学科	1	新城 楓澄	
			メディア情報工学科	1	砂川 虎南	
			メディア情報工学科	1	譜久島 こゆき	
第129号	令和2	沖縄高専 03 チーム	情報通信システム工学科	4	比嘉 風優希	社会実装教育フォーラムにおいて「社会実装賞」受賞
			情報通信システム工学科	4	久場 悠誠	
第130号	令和2	きじむな〜	情報通信システム工学科	4	久高 萌永	社会実装教育フォーラムにおいて「社会実装賞」ならびに「三菱電機ロボット技術賞」受賞
			情報通信システム工学科	4	外間 円佳	
			情報通信システム工学科	4	安山 千鶴	
			機械システム工学科	4	山城 翔	
			メディア情報工学科	4	田仲 風花	
第131号	令和2		情報通信システム工学科	2	福浜 幹人	令和2年度沖縄県高等学校新人体育大会ヨット競技のシングルハンダー級で「第1位」
第132号	令和2		機械システム工学科	3	川端 莉未	学生寮での模範的な行動（新型コロナウイルス感染症対応）
第133号	令和2		機械システム工学科	3	山田 さくら	学生寮での模範的な行動（新型コロナウイルス感染症対応）
第134号	令和2		機械システム工学科	4	嘉手納 悠	学生寮での模範的な行動（新型コロナウイルス感染症対応）
第135号	令和2		機械システム工学科	4	山城 翔	学生寮での模範的な行動（新型コロナウイルス感染症対応）
第136号	令和2		情報通信システム工学科	4	西銘 ティナ	学生寮での模範的な行動（新型コロナウイルス感染症対応）
第137号	令和3	2021年度高専祭実行委員会	メディア情報工学科	4	坂本 愛里	前年度からの引継ぎも十分でない中、新型コロナウイルス感染症拡大状況に応じて日程・開催内容の変更に対応し、2021年度高専祭を大成功に導いた。
			機械システム工学科	4	山内 弘竜	
			生物資源工学科	3	喜屋武 春萌	
			情報通信システム工学科	3	城間 康幸	
			機械システム工学科	4	佐渡山 颯太	
			生物資源工学科	4	佐々木 花菜	
			生物資源工学科	4	照屋 ほのか	
			機械システム工学科	4	上原 光平	
			情報通信システム工学科	4	寺尾 秀徳	
			情報通信システム工学科	4	幸地 芽	
			情報通信システム工学科	4	島袋 克輝	
			メディア情報工学科	4	玉城 洵弥	
			情報通信システム工学科	4	金城 恵	
			機械システム工学科	4	砂川 優斗	
			生物資源工学科	4	與那嶺 円	
メディア情報工学科	4	金山 京平				
第138号	令和3	なんくるないカー	情報通信システム工学科	5	金城 琉馬	第2回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト2021において「企業賞（TDK賞）」を受賞 高専ワイヤレスIoTコンテスト2020において「社会課題解決大賞」を受賞 令和2年度社会実装教育フォーラムにおいて「優秀社会実装賞」を受賞
			情報通信システム工学科	5	津波 琉	
			情報通信システム工学科	5	近木 裕太	
			情報通信システム工学科	4	古堅 飛向	
			情報通信システム工学科	4	星 草汰	
			情報通信システム工学科	4	島袋 颯馬	
			情報通信システム工学科	4	仲座 涼太	
			情報通信システム工学科	4	平良 心輝	
第139号	令和3	もずっくん	情報通信システム工学科	2	吉見 成	第10回スコア！サイエンスinオキナワ：起業のための研究能力において「優勝」
			情報通信システム工学科	2	秦 浩大	
			情報通信システム工学科	2	玉城 海凪	
第140号	令和3	ロボット製作委員会	機械システム工学科	3	中村 英誠	アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2021九州沖縄地区大会において「特別賞（本田技研工業株式会社）」受賞 同コンテスト全国大会において「特別賞（株式会社安川電機）」を受賞
			機械システム工学科	3	宮里 鷹翔	
			情報通信システム工学科	3	小瀨 就	
			機械システム工学科	3	松川 咲穂	
			機械システム工学科	2	照屋 吉規	
			情報通信システム工学科	2	宮里 彰吾	
			機械システム工学科	1	甲本 志結	
			機械システム工学科	1	新垣 美海	

番号	年度	団体名	学科	学年	氏名	理由
第141号	令和3		情報通信システム工学科	5	宮里 佳明	第58回（令和3年度）九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会水泳競技代替大会・男子200mバタフライにおいて「第1位」入賞 第56回全国高等専門学校体育大会水泳競技への出場権を獲得
第142号	令和4	どこ点シューズ	情報通信システム工学科	3	平良 俊樹	第11回スコア！サイエンスinオキナワ：起業のための研究能力において「準優賞」受賞
			情報通信システム工学科	3	新里 察得	
第143号	令和4	くさからん	情報通信システム工学科	2	吉井 慈恩	第11回スコア！サイエンスinオキナワ：起業のための研究能力において「特別賞」受賞
			情報通信システム工学科	2	當眞 嗣歩	
第144号	令和4	ロボット製作委員会 Bチーム	機械システム工学科	4	中村 英誠	アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2022九州沖縄地区大会において「デザイン賞」受賞 製作したロボットが評価され、同コンテスト全国大会にエキシビジョン参加
			情報通信システム工学科	4	小濱 就	
			機械システム工学科	4	宮里 鷹翔	
			メディア情報工学科	3	新野 夏南人	
			機械システム工学科	2	伊志嶺 孝太	
			機械システム工学科	2	仲本 凜	
			機械システム工学科	2	貞包 真生	
第145号	令和4	こども食堂・Taco スバプロジェクト	電子通信システム工学コース	専攻科1	久場 悠誠	専攻科創造システム工学実験において、子どもたちの貧困対策と資源の有効利用を目的とした「麦芽粕・乾燥酵母を活用した商品開発と地域活性化」の取り組みにより商品開発・テスト販売を行い、地域の活性化、子どもたちの成功体験に繋がる素晴らしい取り組みを行った。
			機械システム工学コース	専攻科1	嘉手納 悠	
			電子通信システム工学コース	専攻科1	上地 格	
			機械システム工学コース	専攻科1	當間 誉朗	
			機械システム工学コース	専攻科1	山城 翔	
			機械システム工学コース	専攻科1	串間 太有	
第146号	令和4	パイナップール	情報通信システム工学科	5	上藤 綾乃	高専GCON2022において「文部科学大臣賞」受賞
			情報通信システム工学科	5	佐藤 緋美	
			情報通信システム工学科	4	上原 彩來	
			情報通信システム工学科	3	伊藤 砂羽	
			情報通信システム工学科	2	石垣 花緒	
			生物資源工学科	2	知念 紅葉	
第147号	令和4	宮城研P・S	情報通信システム工学科	3	藤波 太陽	テクノ愛2022高校の部において「グランプリ」受賞 2022年理工系高校生によるプロジェクトにおいて「本賞」受賞
			情報通信システム工学科	3	平良 琉馬	
			情報通信システム工学科	3	与那覇 玄己	
			情報通信システム工学科	3	久場 琉澄	
			情報通信システム工学科	3	伊計 琉汰	
			情報通信システム工学科	3	知念 遥斗	
第148号	令和4		生物資源工学科	2	譜久山 琉	バイオインフォマティクス技術者認定試験に合格し「学会奨励賞」受賞
第149号	令和4		メディア情報工学科	3	飯田 日和	第59回（令和4年度）九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会水泳競技・女子100m背泳ぎにおいて「第2位」 第57回全国高等専門学校体育大会水泳競技への参加資格を獲得
第150号	令和4		情報通信システム工学科	1	比嘉 徠日	第59回（令和4年度）九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会水泳競技・男子100m背泳ぎにおいて「第2位」 第57回全国高等専門学校体育大会水泳競技への参加資格を獲得
第151号	令和4		生物資源工学科	1	藤木 喜仁	第59回（令和4年度）九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会水泳競技・男子100m自由形において「第3位」 第57回全国高等専門学校体育大会水泳競技への参加資格を獲得



## 学生表彰 高専機構学生表彰（平成25年度以降）

年 度		学 科	学 年	氏 名	理 由	
平成 25	生物資源研究会	生物資源工学科	3	宮里 春奈	第3回高校生バイオサミット in 鶴岡において「農林水産大臣賞」受賞	
		生物資源工学科	3	藏屋 眸		
		生物資源工学科	3	玉代勢 隆平		
		生物資源工学科	3	比嘉 慈		
		生物資源工学科	2	奥平 ちずか		
		メディア情報工学科	3	當眞 ジェイソン翔	第7回アジア太平洋情報オリンピックにおいて「銅メダル」を受賞	
平成 26	ICT 委員会	メディア情報工学科	3	生田 輪太郎	パソコン甲子園 2014 モバイル部門において「グランプリ」、「情報処理学会若手奨励賞」受賞	
		メディア情報工学科	3	春木 竜聖		
		メディア情報工学科	2	島袋 瑞樹		
		メディア情報工学科	2	安慶名 雄大	パソコン甲子園 2014 モバイル部門において「ベストアイデア賞」受賞	
		メディア情報工学科	2	我如古 拓史		
		メディア情報工学科	2	知念 響紀		
		メディア情報工学科	5	名渡山 夏子	第1回ビジネスモデル発見&発表会全国大会のキャンパス部門において「最優秀特別賞」及び「ICT ビジネス研究会賞」を受賞	
		メディア情報工学科	5	近藤 史麻		
		メディア情報工学科	5	金城 絵理奈		
平成 27	ICT 委員会	情報工学コース	専攻科1	與那城 有	ACM-ICPC 国際大学対抗プログラミングコンテスト アジア地区つくば大会「第22位」	
		メディア情報工学科	5	當眞 ジェイソン翔		
		メディア情報工学科	3	島袋 瑞樹	パソコン甲子園 2015 モバイル部門において「ベストアイデア賞」受賞	
		情報通信システム工学科	3	山城 響		
		メディア情報工学科	2	潮平 諒也		
			電子通信システム工学コース	専攻科2	照屋 未来	「2015IEEE 福岡支部 学生研究奨励賞」受賞
平成 28	ICT 委員会	メディア情報工学科	2	金城 樹里	第2回 ICT ビジネスモデル発見&発表会全国大会のキャンパス部門において「総務大臣賞」受賞	
		メディア情報工学科	2	呉屋 愛恵		
		情報通信システム工学科	2	外間 ルイ		
			生物資源工学コース	専攻科1	宮里 春奈	研究成果を学会発表、並びに医化学分野の著名な雑誌“Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters”に筆頭著者として掲載 共同研究により関連論文2報を掲載
			メディア情報工学科	3	安里 眞夢	SECCON2016において「文部科学大臣賞」受賞
	令和 4	宮城研 P・S	情報通信システム工学科	3	藤波 太陽	テクノ愛 2022 高校の部において「グランプリ」を受賞 2022 年理工系高校生によるプロジェクトにおいて「本賞」を受賞
情報通信システム工学科			3	平良 琉馬		
情報通信システム工学科			3	与那覇 玄己		
情報通信システム工学科			3	久場 琉澄		
情報通信システム工学科			3	伊計 琉汰		
情報通信システム工学科			3	知念 遥斗		

## 学生会長・寮生会長

---

年 度	学生会長	寮生会長	
平成 26	宮城 渉	川満 慎	照喜名 愛三里
平成 27	具志堅 興太	高江洲 慧	奥田 愛未
平成 28	城間 祥太郎	屋嘉比 悠希	仲里 ひろ
平成 29	西銘 かな	大嶺 宏仁	翁長 京香
平成 30	喜納 瑤夏	與那覇 星希	伊藤 咲
平成 31・令和元	真志喜 蒼麻	久場 悠誠	伊藤 咲
令和 2	當間 峻央	家村 一摩	伊藤 咲
令和 3	山内 弘竜	安里 匡平	上里 日那多
令和 4	備瀬 哲平	吉見 成	久場 琴史
令和 5	新城 楓澄	新垣 仁飛	渡辺 珠月

# 第5章

沖縄工業高等専門学校創立20周年

Regional cooperation/Regional contribution

## 地域連携・地域貢献活動

---

■出前授業一覧

■個別事業

■交流協定(国外・国内)



## 出前授業・個別事業（平成 24 年度以降）

年度	事業名	日程	実施校等	参加人数	参加学年等	担当
平成 24	親子体験学習 液体窒素を利用し、物質の三態を確認する	6/3	名護市立 稲田幼稚園・ 小学校	136名	園児・児童	平山（生物）
	ぶるぶるしよう	6/6	名護市立 大北小学校	10名		神里（情報）、TA 3名
	電気を作ろう	6/14				神里（情報）、TA 3名
	葉をつくる微生物を見つけよう	7/4				田邊（生物）
	タンパク質の分解	6/22	名護市立 小中一貫教育校 緑風学園	26名	中学2年生	平山（生物）
	四足ロボットの製作	7/5	宜野湾市立 嘉数小学校	児童 155名 教員5名		下嶋（機械）
	振動ロボットの製作					杉本・神里・兼城・山田（情報）、 TA 7名
	自然の色、人工の色					田邊（生物）
	お湯で動くエンジン					松栄（機械）
	受けつがれる生命（花から実へ）	7/11	名護市立 久辺小学校	26名	小学5年生	三宮（生物）
	わたしたちの地球（生物のつながり）			27名	小学6年生	田邊（生物）
	なんでも凍る不思議な液体	10/15	うるま市立 具志川小学校	56名	小学5年生	平山・山城・田中・嶽本（生物）
	植物の色素で酸とアルカリを調べよう			46名	小学6年生	田邊・池松（生物）
	熱い、冷たい水で動くエンジン（スターリングエンジン）	12/13	うるま市立 南原小学校	54名	小学5年生	松栄（機械）
	液体窒素を使った実験と金属の現象			41名	小学6年生	眞喜志隆（機械）
機械科2年生でロボットコンテストを行う	1/22	名護市立 名護中学校		中学2年生	下嶋・眞喜志隆・政木（機械）	
光エネルギー	2/5	うるま市立 彩橋小学校	23名	小学6年生	濱田・田中（生物）	
平成 25 年度 大宮中学校出前授業 ・液体窒素の世界、物質の三態 ・遺伝子について ・風船ホバークラフトを作成し風の力を考える ・光と色の不思議（なぜ草木の葉は緑色に見えるか実験で確認） ・ホタルの発光実験（光るスライム作り）	9/4	名護市立 大宮中学校	170名	中学1年生	平山・三宮・田邊（生物） 太田・玉城（龍）（メディア）	

年度	事業名	日程	実施校等	参加人数	参加学年等	担当
平成25	平成25年度 大宮中学校出前授業 ・液体窒素の世界、物質の三態 ・遺伝子について ・風船ホバークラフトを作成し風の力を考える ・ホタルの発光実験（光るスライム作り）	9/5	名護市立大宮中学校	153名	中学2年生	平山・三宮・田邊（生物） 太田（メディア）
	液体窒素（マイナス196℃）の世界！	11/27	浦添市立前田小学校	60名	小学6年生	平山（生物）
	平成25年度 うるま市出前授業 ・スターリングエンジンの製作（小学生） ・まいなす190度の世界（小学生） ・メロディ回路の組み立て（小学生） ・植物の増え方（小学生） ・目に見えない微生物の世界（小学生） ・ビュートレーサー・コンピューター制御（中学生） ・物質の三態・状態変化（中学生）	11/28・29	うるま市の小中学生	260名	小学5・6年生 中学1・2年生	平山・三宮・玉城（康）（生物）
平成26	平成26年度 うるま市・金武町体験授業 ・ホバークラフトを作ってみよう（小学生） ・マイナス180度の世界を体験しよう！（小学生） ・ふりふりバター～液体が個体に代わる秘密～（小学生） ・ライントレーサー実験（中学生） ・目に見えないマイクロな世界（中学生） ・筋肉のふしぎ！（小学生）	7/26	うるま市・金武町の小中学生	生徒・保護者約130名	小学5・6年生 中学1～3年生	武村・富澤・安里（機械） 平山・田中・玉城（康）（生物） 久米（総合）
	平成26年度 大宮中学校体験授業 ・ホバークラフトをつくろう ・風船ホバークラフトをつくろう ・液体窒素（マイナス196℃）の世界！物質の三態 ・目に見えない微生物の世界	8/27	名護市立大宮中学校	137名	中学1年生	武村（機械） 太田（メディア） 平山・玉城（康）（生物）
	「速さ」に関する単元で、算数が学びたくなる導入授業（教科：算数）	9/2	名護市立屋部小学校	75名	小学6年生	渡利（総合）
	サイエンスクラブへの出前授業 風船ホバークラフトをつくろう	9/8	本部町立本部小学校	小学生16名 教諭2名	小学4～6年生	太田・玉城（龍）（メディア）
平成26	プログラミング（Scratch）教室	3/6	名護市立大宮中学校（理科クラブ）		中学生	太田・玉城（龍）（メディア）

年度	事業名	日程	実施校等	参加人数	参加学年等	担当
平成 27	ホタルの生態や発光実験を通して身近な環境や自然について考える	6/20	琉球大学 附属小学校	76名	小学4年生	池松・田邊・井口（生物）
	バターを作ってみよう！～なぜ液体が固体になるの？～	6/26	名護市立 安和小学校	17名 (教員2名)	小学 4～6年生	田中（生物）
	平成27年度 大宮中学校体験授業 ・風船ホバークラフトを作ろう！ ・液体窒素（マイナス196℃）の世界！物質の三態 ・目に見えない微生物の世界	8/31	名護市立 大宮中学校	162名 (引率 10名)	中学1年生 5クラス	太田・玉城（龍）（メディア） 平山・玉城（康）（生物）
	6学年総合的な学習の時間・特別授業 講話「これまでの人生、これからのチャレンジ」	11/16	琉球大学 附属小学校 体育館	111名	小学6年生	池松（生物）
	光と色の実験	11/22	宜野湾市 教育委員会	42名 (保護者 20名)	宜野湾市 小学校 4～6年生	田邊（生物）
	ホタルの光のひみつ					
平成 28	「液体窒素」を感じてみよう！	7/11	泡瀬特別支援学 校中等部	中等部 約20名 教員 約10名	中学 1～3年生	平山（生物）
	平成28年度 大宮中学校体験授業 ・海中ロボットと海に関する話。 水力船を作ってみよう ・LEDを点滅させよう！ ・スクラッチを使ったプログラミング ・キノコの栽培	8/31	名護市立大宮中 学校		中学1年生 4クラス	武村（機械） 兼城・谷藤・金城（伊）・山田・ 神里（情報） 太田・玉城（龍）（メディア） 田邊・嶽本（生物）
	海中ロボットと海に関する話	9/1	名護市立 上本部中学校		中学1年生 1クラス	武村（機械）
	水力船を作ってみよう					
	蛍・うみほたるの発光実験	10/11	名護市立 名護小学校 (理科クラブ)		小学生	田邊（生物） 太田（メディア）
	水中ロボットに関する話	11/26	沖縄アミークス インターナショ ナル		小学 3～6年生 中学 1～3年生	武村（機械）
	平成28年度 うるま市・金武町 出前授業 ・村の鍛冶屋さん(焼入れ、熱処理) ・水力船を作ろう！ ・スクラッチプログラミング教室 ・電気で遊ぼう	1/7	うるま市・ 金武町の小学生		小学 5・6年生	眞喜志隆・武村（機械） 金城（篤）（メディア） 神里（情報）

年度	事業名	日程	実施校等	参加人数	参加学年等	担当
平成 29	平成 29 年度 うるま市・金武町 出前授業 ・工夫と創造の架け橋（紙を使っ た橋の工作） ・ペットボトルロケットで学ぶ科 学技術 ・プログラミング ・サーモンeggゼリー工場	8/19	うるま市・金武 町の小中学生	24 名 25 名 31 名 9 名	・小学 1～6年生 ・小学 1～6年生 ・小学 3～6年生 ・中学 1～3年生	眞喜志治（機械） 太田・金城（篤）（メディア）
	ドローン体験	8/23	松田区	20 名	小学4年生 ～中学生	姉崎（メディア）
	金属の変形と熱処理	8/31	本部町立 上本部中学校	28 名	中学2年生	眞喜志隆・比嘉（機械）
	ジャイロ効果の体感（ジャイロ 2輪の製作）					
	LEDを点灯させよう	9/30	宜野湾市立 嘉数中学校	生徒 262名 保護者	中学2年生	神里・中平・亀濱（情報） 釣・新田・儀保（技術支援室）
	低融点合金を活用したアクセサ リーの制作					
	使い捨てカイロを作ろう					
	ホタルの生態や発光実験を通し て身近な環境や自然について考 える	9/30	琉球大学 附属小学校	児童 約105名 保護者	小学4年生	池松・田邊（生物）
	ロボットづくりの魅力	3/1	名護市立 名護小学校	幼稚園児、 児童、職員 約900名	幼稚園 小学 1～6年生	武村（機械）・金城（篤）（メディア） 儀保（技術支援室）
液体窒素を使った実験	3/19	宮古島市立 久松中学校			神里・亀濱（情報） 蔵屋（技術支援室）	
アクリル発光ボード制作実験						
平成 30	平成 30 年度 うるま市・金武町 出前授業 ・4足歩行ロボットの製作とコン テスト ・アクリル発光ボード制作 ・Scratchで始めるゲームプログ ラミング ・土の中の生物を観察してみよう ・工作教室	8/18	うるま市・金武 町の小中学生		・中学生 ・小学 5・6年生 ・小学 5・6年生 ・小学 5・6年 ・小学 4年生以下	・下嶋（機械） ・亀濱（情報） ・玉城（龍）・鈴木・金城（篤）（メディア） ・萩野（生物） ・武村（機械）・高良・兼城（情報）
	振動で動くロボットを作ろう！	8/22	沖縄市 あげだ児童館	18 名	小学 1～3年生	・武村（機械） ・神里（情報）
	熱処理と変形	8/30	本部町立 上本部中学校	生徒17名 引率教員 3名	中学2年生	・眞喜志隆・政木（機械）
	鉛筆を使ってプラスチックの硬 さを測ろう					
風船ホバークラフトを作ろう！	9/8	沖縄アミークス インターナシヨ ナル	受講生徒 32名	未就学児 補助学生 中学 1～3年生	・武村（機械） ・神里・山田（情報）	



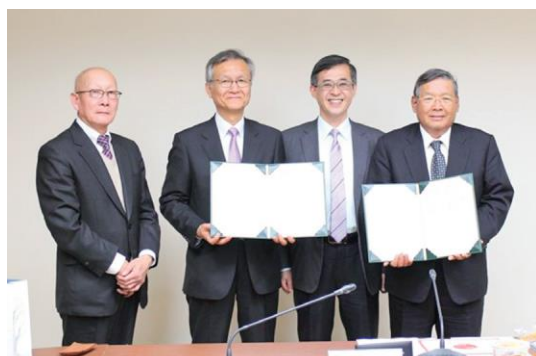
年度	事業名	日程	実施校等	参加人数	参加学年等	担当
平成31・令和元	2019年度うるま市・金武町・宜野座村体験授業 ・プログラミングの基礎を学ぼう ・プログラミング de ロボット対戦 ・2進数に挑戦 ・ミクロの世界を観察しよう ・光糸電話や光マイクを作ろう ・昆虫標本を作ろう ・船の工作教室 ・おもちゃで笑顔を作ろう ・雲とロケットを作ろう！	8/18	うるま市・金武町・宜野座村の小中学生	285名	小中学生	眞喜志治・武村（機械） 神里・高良・山田・與那嶺・亀濱（情報） 鈴木・玉城（龍）（メディア） 田中・池松・萩野（生物）
	金属探知機制作	8/30	本部町立上本部中学校	29名	中学2年生	
	LEGOを使ったロボット制作					
令和2	沖縄高専体験授業2020 ・マイクロビットで遊ぼう ・鉛筆を使ってプラスチックの硬さを調べよう ・光糸電話や光マイクを作ろう ・iPadによるスクラッチプログラミング ・UVレジンを使っているいろいろな標本を作ろう ・液体窒素（低温の不思議な世界）	10/31	うるま市・金武町・宜野座村の小中学生	78名	小中学生	眞喜志隆・政木（機械） 高良・兼城・谷藤・金城（伊）・中平・亀濱（情報） 與那嶺・玉城（龍）・鈴木・金城（篤）（メディア） 萩野（生物）
令和3	沖縄高専体験授業2022 ・プロペラカーを楽しもう ・身近な昆虫の標本を作ろう ・Microbitでプログラミング体験 ・プログラミングを学ぼう	3/26	うるま市・金武町・宜野座村の小中学生	60名	小中学生	眞喜志治・武村（機械） 亀濱（情報） 鈴木（メディア） 萩野（生物）
令和4	実体顕微鏡を用いて微小な土壌生物を観察してみよう	9/9	宜野湾市立 普天間小学校	90名	小学6年生 30×3クラス	萩野（生物）
	島くとうば講座	9/12	南城市立 馬天小学校	45名 教師2名	小学4年生	崎原（総合）
	ペアプログラミング	9/13	名護市立 久辺小学校	22名	小学3年生	鈴木（メディア）
		9/14		18名	小学4年生	
	ホタルとウミホタルの発光タンパク質	10/18	名護市立 名護小学校	15名	小学校 高学年	田邊（生物）
	沖縄伝統のしまくとうばが絶滅の危機にある	10/31	金武町立 嘉芸小学校	29名	小学6年生	崎原（総合）
	Scratchで始めるゲームプログラミング	11/9	名護市立 久辺小学校	29名	小学6年生	鈴木（メディア） 金城（伊）（情報）
		11/10			小学5年生	
Scratchで始めるゲームプログラミング	1/25	名護市立 久辺小学校	18名	小学4年生	金城（伊）（情報）	
	1/26			小学5年生		
光るオリジナルのかわいいワッペンを作ろう！	3/14	那覇市立 天妃小学校	78名	小学1年生	金城（伊）（情報）	

# 交流協定締結状況(平成25年度以降)

## 国 外

- 平成 26 年 2 月 6 日 インドネシア ガジャマダ大学専門学校  
平成 26 年 2 月 6 日 マレーシア ペトロナス工科大学  
平成 26 年 2 月 6 日 インドネシア ガジャマダ大学  
平成 26 年 2 月 7 日 タイ キングモンクット工科大学北バンコク校  
平成 26 年 2 月 10 日 タイ カセサート大学  
平成 26 年 6 月 9 日 ベトナム ハノイ大学  
平成 26 年 6 月 28 日 中国 厦門理工学院  
平成 26 年 8 月 2 日 モンゴル モンゴル科学技術大学  
平成 27 年 3 月 3 日 台湾 国立臺北科技大學  
平成 27 年 6 月 15 日 ベトナム ハノイ大学  
平成 28 年 3 月 1 日 タイ キングモンクット工科大学トンブリ校  
平成 29 年 2 月 22 日 ベトナム ダナン科学技術大学  
以上は九州沖縄地区高専と共同で国際交流協定を締結

- 平成 28 年 9 月 2 日 タイ シーナカリンウィロート大学  
令和 元 年 11 月 8 日 台湾 開南大学



## 国 内

- 平成 26 年 11 月 11 日 沖縄振興開発金融公庫  
平成 26 年 12 月 10 日 株式会社カヌチャベイリゾート  
平成 29 年 3 月 21 日 国立大学法人島根大学  
平成 30 年 3 月 19 日 公立大学法人名桜大学  
平成 30 年 3 月 30 日 日本トランスオーシャン航空株式会社





# 第6章

沖縄工業高等専門学校創立20周年

Materials

## 資料編

- 教育理念・教育目標
  - 教育課程表
- 地域別入学者数
  - 高専フォーラム
- 歴代産学連携協力会会長
  - 歴代後援会長
  - 歴任教職員一覧
  - 歴代推奨機一覧



# 教育理念・教育目標

## 教育理念

人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与する。

## 目的

教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する。

## 教育目標

### < 本科教育目標 >

- (1) 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する。
- (2) 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する。
- (3) 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する。
- (4) 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する。

## 各学科の人材育成上の目的及び教育目標

### (機械システム工学科)

#### ■人材育成上の目的

「モノ」の創造・設計・生産に必要な知識・技術をシステムとして統合した教育研究を行い、地球的視点で「モノづくり」を支えることのできる実践力の高い技術者を育成する。

#### ■教育目標

1. 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力
2. 材料・加工学等の要素技術やCAD・CAM・CAE等のコンピュータを使用した生産技術力
3. 各種力学、熱・流体工学等の要素技術や機械製品に関する設計技術力
4. 電気・電子工学、制御・メカトロニクス工学等を用いたシステム化技術力

### (情報通信システム工学科)

#### ■人材育成上の目的

環境と技術の調和および社会的責任を考え、産業界の発展に寄与すべく、電気・電子工学と情報通信工学の基本技術を習得させ、情報通信機器などの設計・開発・運用のできる実践的・創造的技術者を育成する。

#### ■教育目標

1. 総合科学分野情報通信技術を社会的視点で捉え、多面的に物事を考え、論理的に思考・説明できる能力
2. コンピュータのハードウェアとソフトウェアの基礎知識を備え、通信を含む社会の様々な問題をシステムとして解決できる基本技術力
3. 通信システム設計、通信ネットワーク運用に必要となる通信工学と情報セキュリティなどの基本技術力
4. 情報通信技術の基礎となる電子工学の基礎知識とデジタル及びアナログの集積回路設計の基本技術力

## (メディア情報工学科)

### ■人材育成上の目的

数学や自然科学の基礎知識とメディア情報工学の専門的基礎知識をもとにして、産業界の発展に寄与し、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成する。

### ■教育目標

1. 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力
2. コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの基礎技術を理解し、ネットワーク分野、コンテンツ分野に適用できる能力
3. モバイル通信、ネットワークとセキュリティの基礎技術を理解し、応用するための基本的な能力
4. 種々の情報を加工、表現する技術の基礎を理解し、表現できる能力

## (生物資源工学科)

### ■人材育成上の目的

生物資源の活用に必要な生物化学工学、環境科学、微生物学、食品系工学、バイオテクノロジーの基礎能力と専門技術を身につけ、環境に配慮し、産業界の要請に応えるべく実践的・創造的技術者を育成する。

### ■教育目標

1. 生命科学の基礎となる自然・人文科学の基礎知識を活かし論理的に思考できる能力
2. 地球環境保全の調査・分析に必要な基礎的技術力
3. 微生物学・食品科学の基礎技術を理解し、産業規模で実践できる技術力
4. 生物資源を利用した食品・化粧品などの開発に必要な基礎的技術力

## < 専攻科教育目標 >

- (1) 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する。
- (2) 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する。
- (3) 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する。
- (4) 地球的視野と倫理観を備え社会に貢献できる人材を育成する。

# 教育課程表 (一般科目) (令和5年度入学)

授業科目	単位数	区 分	学 年 別 配 当										備 考		
			1年		2年		3年		4年		5年				
			単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間			
国語	国語Ⅰ	2	講義	2	通										
	国語Ⅱ	2	講義			2	通								
	国語Ⅲ	2	講義					2	通						
	文学概論	2	講義							2	半				学修単位
	日本語表現	2	講義							2	半				学修単位
英語	English ComprehensionⅠ	2	演習	2	通										
	English ComprehensionⅡ	2	演習			2	通								
	English ComprehensionⅢ	2	演習					2	通						
	English ComprehensionⅣ	2	演習							2	半				学修単位
	English CommunicationⅠ	1	演習	1	半										
	English CommunicationⅡ	1	演習			1	半								
	English SkillsⅠ	2	演習	2	通										
	English SkillsⅡ	2	演習			2	通								
	English SkillsⅢ	2	演習					2	通						
	English SkillsⅣ	2	演習							2	半				学修単位
社会科学	科学技術英語	2	演習									2	半		学修単位
	歴史学概論	2	講義			2	通								
	地理学概論	2	講義					2	通						
	地域文化論	2	講義							2	半				学修単位
	技術者倫理	2	講義									2	半		学修単位
	現代社会	1	講義	1	半										
	基礎数学Ⅰ	4	講義	4	通										
	基礎数学Ⅱ	4	講義	4	通										
	微積分Ⅰ	4	講義			4	通								
	微積分Ⅱ	4	講義					4	通						
数学	線形代数	2	講義			2	通								
	確率・統計	2	講義							2	半				学修単位
	物理Ⅰ	2	講義	2	通										
	物理Ⅱ	2	講義			2	通								
	化学	2	講義・演習	2	通										
自然科学	生物と環境	2	講義			2	通								生物・環境分野
	地球科学概論	2	講義							2	半				学修単位
	スポーツ実技Ⅰ	2	実技	2	通										
	スポーツ実技Ⅱ	2	実技			2	通								
	スポーツ実技Ⅲ	1	実技					1	半						
健康科学	健康科学	1	演習・講義					1	半						
	修得単位計	77		22		21		14		14		6			
選択	英語演習	2	演習							2	半				学修単位
	生命科学	2	講義・実験							2	半				学修単位
	スポーツ実技Ⅳ	2	実技							2	通				
	特許法・法学	2	講義							2	半				学修単位
	日本語Ⅰ※	2	講義・演習					2	通						※外国人留学生科目
	日本語Ⅱ※	2	講義・演習							2	半				※外国人留学生科目、学修単位
	日本事情Ⅰ※	2	講義・演習					2	通						※外国人留学生科目
	日本事情Ⅱ※	2	講義・演習							2	半				※外国人留学生科目、学修単位
	開設単位計	8		0		0		0		8		0			本校以外の教育施設に於ける学修単位および資格試験は含まない
	修得単位計	2		0		0		0		2		0			
開設単位合計	85		22		21		14		22		6				
修得単位合計	79		22		21		14		16		6				

※ 特別学修一般として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含まない。(詳細は別に定める)

# 教育課程表 (機械システム工学科) (令和5年度入学)

授業科目	単位数	区 分	学 年 別 配 当										備 考			
			1 年		2 年		3 年		4 年		5 年					
			単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間				
必修	専門科目共通	沖縄高専セミナー	2	講義	2	半										
		情報技術の基礎	3	講義	3	通										
		創造演習	2	演習			2	通								
		インターンシップ	3	実習						3	通					
	基礎科目群	専門基礎工学	2	講義	2	半										
		プログラミングⅠ	2	講義・演習			2	通								
		応用数学Ⅰ	2	講義						2	半				学修単位	
		応用数学Ⅱ	2	講義								2	半		学修単位	
	材料システム群	応用物理	2	講義			2	通								
		機械力学Ⅰ	2	講義						2	半				学修単位	
機械力学Ⅱ		1	講義・演習						1	半						
材料加工システムⅠ		3	実習	3	通											
材料加工システムⅡ		4	実習			4	通									
材料加工システムⅢ		2	実習					2	半							
機械工作法		1	講義					1	半							
機械材料		2	講義			2	通									
設計システム群	CAD・CAMⅠ	2	演習					2	通							
	CAD・CAMⅡ	2	演習						2	半				学修単位		
	材料科学	2	講義						2	半				学修単位		
	機械製図基礎学	2	講義・実習	2	通											
	機械製図学	2	講義・実習			2	通									
	機械設計学	1	講義・実習					1	半							
	材料力学設計Ⅰ	2	講義・実習					2	通							
	材料力学設計Ⅱ	2	講義・演習							2	半			学修単位		
	総合構造設計	2	講義・演習							2	通					
	熱工学Ⅰ	2	講義							2	半			学修単位		
制御システム群	熱工学Ⅱ	1	講義・演習							1	半					
	流体工学	2	講義							2	通					
	熱流体機器	2	講義								2	半		学修単位		
	電気・電子工学	2	講義			2	通									
共通群	制御工学	2	講義							2	半			学修単位		
	メカトロニクス工学	3	講義・実習								3	通		学修単位		
	計測工学	2	講義								2	半		学修単位		
	卒業研究	8	実験									8	通			
修 得 単 位 計		83			12		12		13		26		20			
選択	基礎科目群	プログラミングⅡ	2	講義・演習				2	通							
		化学Ⅱ	2	講義					2	通						
	材料システム群	CAE	2	講義							2	半		学修単位		
		設計システム群	エネルギー変換工学	2	講義							2	半		学修単位	
	制御システム群		生産工学	2	講義							2	半		学修単位	
		システム制御論	2	講義							2	半		学修単位		
		知能制御論	2	講義							2	半		学修単位		
	指定科目	共通群	創造研究*	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通	*各学年毎に単位取得可(最大5単位)
			航空基礎Ⅰ	航空基礎Ⅰ	2	講義・演習			2	通						航空技術者プログラム履修者に限る
				航空基礎Ⅱ	2	講義・演習					2	通				航空技術者プログラム履修者に限る
航空機技術Ⅰ				2	講義・演習							2	通		航空技術者プログラム履修者に限る	
航空機技術Ⅱ				2	講義・演習								2	通	航空技術者プログラム履修者に限る	
航空実習	4	実習									4	通	航空技術者プログラム履修者に限る			
開 設 単 位 計		31			1		3		7		3		17			
修 得 単 位 計		6			0		0		2		0		4			
開 設 単 位 合 計		114			13		15		20		29		37			
修 得 単 位 合 計		89			12		12		15		26		24			

※ 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含まない。(詳細は別に定める)



# 教育課程表 (情報通信システム工学科) (令和5年度入学)

授業科目	単位数	区 分	学 年 別 配 当										備 考			
			1 年		2 年		3 年		4 年		5 年					
			単 位	期 間	単 位	期 間	単 位	期 間	単 位	期 間	単 位	期 間				
専 門 科 目 全学・共通	沖縄高专セミナー	2	講義	2	半											
	情報技術の基礎	3	講義	3	通											
	創造演習	2	演習			2	通									
	インターンシップ	3	実習						3	通						
	基 礎 科 目 群	離散数学	2	講義								2	半		学修単位	
		応用数学	2	講義						2	半				学修単位	
		応用物理	2	講義						2	半				学修単位	
		情報通信工学実験基礎	2	実験	2	半										
		情報通信工学実験Ⅰ	2	実験			2	通								
		情報通信工学実験Ⅱ	2	実験					2	通						
		情報通信工学実験Ⅲ	2	実験						2	通					
		計算機工学Ⅰ	2	講義	2	通										
		計算機工学Ⅱ	2	講義			2	通								
		ソフトウェア演習	1	演習	1	半										
		コンピュータアーキテクチャ	2	講義					2	通						
		プログラミング基礎Ⅰ	2	講義	2	通										
		プログラミング基礎Ⅱ	2	講義			2	通								
		応用プログラミングⅠ	4	演習						4	通				学修単位	
		応用プログラミングⅡ	4	演習								4	通		学修単位	
	データベース	2	講義								2	半		学修単位		
工 学 通 信 群	電気回路Ⅰ	2	講義			2	通									
	電気回路Ⅱ	2	講義					2	通							
	電磁気学Ⅰ	2	講義						2	半				学修単位		
	ネットワーク概論	2	講義			2	通									
	信号処理	2	講義						2	半				学修単位		
	情報理論	2	講義							2	半			学修単位		
	通信工学Ⅰ	2	講義						2	半				学修単位		
	通信工学Ⅱ	2	講義							2	半			学修単位		
	工 電 子 集 積 回 路 群	半導体工学	1	講義				1	半							
		電子回路Ⅰ	2	講義					2	通						
		電子回路Ⅱ	2	講義					2	通						
		電子回路演習	2	演習						2	通				学修単位	
	集積回路工学	4	講義								4	通		学修単位		
	ソ フ ト ウ ェ ア 機 群	計測工学	2	講義					2	通						
		制御工学Ⅰ	2	講義						2	半				学修単位	
オペレーティングシステム		2	講義					2	通							
アルゴリズムとデータ構造		2	講義					2	通							
共通群	卒業研究	8	実験								8	通				
修 得 単 位 計	88			12		12		17		23		24				
基 礎 科 目 群	化学Ⅱ	2	講義							2	半			学修単位		
	電磁気学Ⅱ	2	講義								2	半		学修単位		
	工 情 報 通 信 群	情報通信総合演習	2	演習						2	通				学修単位	
		電波電送学	2	講義								2	半		学修単位	
		通信法規	1	講義								1	半		学修単位	
	計 算 機 ソ フ ト ウ ェ ア 群	人工知能	2	講義						2	半				学修単位	
		制御工学Ⅱ	2	講義						2	半				学修単位	
	共 通 群	産業創造セミナー	2	講義・実習					2	通						
		創造研究*	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通	*各学年毎に単位取得可(最大5単位)	
	指 定 科 目	航空基礎Ⅰ	2	講義・演習			2	通							航空技術者プログラム履修者に限る	
		航空基礎Ⅱ	2	講義・演習					2	通					航空技術者プログラム履修者に限る	
		航空機技術Ⅰ	2	講義・演習						2	通				航空技術者プログラム履修者に限る	
		航空機技術Ⅱ	2	講義・演習								2	通		航空技術者プログラム履修者に限る	
		航空実習	4	実習								4	通		航空技術者プログラム履修者に限る	
	開 設 単 位 計	32			1		3		5		11		12			
修 得 単 位 計	1			0		0		0		1		0				
開 設 単 位 合 計	120			13		15		22		34		36				
修 得 単 位 合 計	89			12		12		17		24		24				

※ 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含まない。(詳細は別に定める)

※ 修得単位に関して、学修単位数が60単位を超える場合には担任へ相談すること。

# 教育課程表 (メディア情報工学科) (令和5年度入学)

授業科目	単位数	区分	学年別配当										備考			
			1年		2年		3年		4年		5年					
			単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間				
専門科目 共通	沖縄高専セミナー	2	講義	2	半											
	情報技術の基礎	3	講義	3	通											
	創造演習	2	演習			2	通									
	インターンシップ	3	実習						3	通						
	基礎科目群	離散数学	2	講義				2	通							
		応用数学	2	講義						2	半				学修単位	
		応用物理	2	講義				2	通							
		情報理論	2	講義						2	半				学修単位	
		プログラミングⅠ	3	講義	3	通										
		メディア情報工学セミナー	1	講義	1	半										
コンピュータアーキテクチャ		2	講義				2	通								
I群	メディアコンテンツ基礎	3	講義・演習	3	通											
	メディア情報工学実験Ⅰ	4	実験			4	通									
	コンピュータグラフィックスⅠ	2	講義						2	半				学修単位		
	コンピュータグラフィックスⅡ	2	講義								2	半		学修単位		
	コンピュータグラフィックスⅢ	2	講義								2	半		学修単位		
	メディア情報工学実験Ⅱ	2	実験				2	通								
	II群	プログラミングⅡ	4	講義			4	通								
		プログラミングⅢ	2	実験					2	通						
		アルゴリズムとデータ構造	2	講義					2	通						
		メディア情報工学実験Ⅳ	2	実験						2	通					
オブジェクト指向言語		2	講義						2	半				学修単位		
OSとコンパイラⅠ		2	講義						2	半				学修単位		
OSとコンパイラⅡ		2	講義								2	半		学修単位		
データベース	2	講義								2	半		学修単位			
III群	デジタル回路	2	講義			2	通									
	メディア情報工学実験Ⅲ	2	実験					2	通							
	デジタルシステム設計	2	講義						2	半				学修単位		
IV群	通信工学	2	講義					2	通							
	情報セキュリティⅠ	2	講義							2	半		学修単位			
	情報セキュリティⅡ	4	講義							4	半		学修単位			
	コンピュータネットワークⅠ	2	講義					2	通							
共通群	産業創造セミナー	2	講義・演習						2	半				学修単位		
	卒業研究	8	実験								8	通				
修得単位計	85			12		12		18		21		22				
選択 プログラム 指定科目	I~IV群	メディアコンテンツ応用	2	講義							2	半		学修単位		
		組み込みソフトウェア	2	講義							2	半		学修単位		
		信号処理とメディア通信	2	講義							2	半		学修単位		
	共通群	創造研究*	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通	*各学年毎に単位取得可 (最大5単位)	
		航空基礎Ⅰ	航空基礎Ⅰ	2	講義・演習			2	通						航空技術者プログラム履修者に限る	
			航空基礎Ⅱ	2	講義・演習				2	通					航空技術者プログラム履修者に限る	
			航空機技術Ⅰ	2	講義・演習						2	通			航空技術者プログラム履修者に限る	
			航空機技術Ⅱ	2	講義・演習								2	通	航空技術者プログラム履修者に限る	
	航空実習	4	実習								4	通	航空技術者プログラム履修者に限る			
	開設単位計	23			1		3		3		3		13			
修得単位計	4			0		0		0		0		4				
開設単位合計	108			13		15		21		24		35				
修得単位合計	89			12		12		18		21		26				

※ 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含まない。(詳細は別に定める)

※ I群:メディア・コンテンツ群、II群:ソフトウェア群、III群:ハードウェア群、IV群:ネットワーク群

# 教育課程表 (生物資源工学科) (令和5年度入学)

授業科目	単位数	区 分	学 年 別 配 当										備 考			
			1 年		2 年		3 年		4 年		5 年					
			単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間				
専 門 科 目 全学共通	沖縄高専セミナー	2	講義	2	半											
	情報技術の基礎	3	講義	3	通											
	創造演習	2	演習			2	通									
	インターンシップ	3	実習							3	通					
	基 礎 科 目 群	基礎科学	2	講義	2	半										
		応用物理	2	講義					2	通						
		応用数学	2	講義							2	半			学修単位	
		基礎プログラミング	2	講義	2	通										
		情報技術の応用	2	講義					2	通						
	必 修	生 物 化 学 工 学 群	有機化学Ⅰ	2	講義			2	通							
物理化学基礎			2	講義			2	通								
生物分析化学			2	講義・実習			2	通								
有機化学Ⅱ			2	講義					2	通						
生化学			3	講義					3	通						
生化学実験			1	実験					1	通						
遺伝子工学			2	講義							2	半			学修単位	
遺伝子工学実験			2	実験							2	半			学修単位	
生物工学			2	講義							2	半			学修単位	
生物工学実験			2	実験							2	半			学修単位	
環 境 ・ 微 生 物 学 群	微生物学	3	講義			3	通									
	微生物学実験	1	実験			1	通									
	発酵学	2	講義・実習					2	半							
	環境学	1	演習					1	半							
	環境学実験	2	実験					2	半							
工 食 品 化 学 群	生物資源利用学Ⅰ	2	講義							2	半			学修単位		
	生理学	2	講義							2	半			学修単位		
	生理学実験	2	実験							2	半			学修単位		
	食品プロセス工学	4	講義									4	通	学修単位		
	食品製造学	2	講義・実験									2	通			
共 通 群	産業創造セミナー	2	講義・演習							2	半			学修単位		
	バイオテクノロジー基礎実験	4	実験	4	通											
	化学および化学実験法	2	実験					2	半							
	化学資格基礎	2	講義					2	通							
	卒業研究	8	実験									8	通			
修 得 単 位 計	81			13		12		19		23		14				
選 択	生 物 化 学 工 学 群	分子生物学	2	講義								2	半	学修単位		
		細胞工学	2	講義								2	通			
	環 境 ・ 微 生 物 学 群	環境保全学	2	講義							2	半		学修単位		
		植物生理学	2	講義							2	半		学修単位		
		資源リサイクル学	2	講義								2	半	学修単位		
	食 品 化 学 工 学 群	生物資源利用学Ⅱ	2	講義・実験								2	半	学修単位		
		タンパク質工学	2	講義								2	通			
	共 通 群	産業化学	2	講義								2	通			
		創造研究*	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通	* 各学年毎に単位取得可 (最大5単位)	
	指 定 科 目	ブ ロ グ ラ ム	航空基礎Ⅰ	2	講義・演習			2	通						航空技術者プログラム履修者に限る	
航空基礎Ⅱ			2	講義・演習					2	通				航空技術者プログラム履修者に限る		
航空機技術Ⅰ			2	講義・演習							2	通		航空技術者プログラム履修者に限る		
航空機技術Ⅱ			2	講義・演習								2	通	航空技術者プログラム履修者に限る		
航空実習			4	実習								4	通	航空技術者プログラム履修者に限る		
開 設 単 位 計	33			1		3		3		7		19				
修 得 単 位 計	8			0		0		0		2		6				
開 設 単 位 合 計	114			14		15		22		30		33				
修 得 単 位 合 計	89			13		12		19		25		20				

(注1) 4年生の選択科目は、環境・微生物学群から2単位以上修得すること。

(注2) 5年生の選択科目は、生物化学工学群、環境・微生物学群、食品化学工学群、共通群から6単位以上修得すること。

◎ 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含まない。(詳細は別に定める)

# 教育課程表 (創造システム工学専攻) (令和5年度入学)

	必修・ 選択の別	科目名	単位数	区分	学年別配当単位数				備考	
					1年		2年			
					前期	後期	前期	後期		
全 コ ー ス	一般科目	実用英語Ⅰ	2	講義	2					
		実用英語Ⅱ	2	講義			2			
	専 門 共 通 科 目	必 修	特別研究ⅠA	3	実験	3				
			特別研究Ⅱ	8	実験			8		
			専攻科実験	4	実験			4		
			創造システム工学実験	4	実験	4				
	修得単位数計			23		9		14		
	一般科目	選 択	哲学・倫理学	2	講義				2	※1年又は2年で修得可
			日琉交流史	2	講義		2			
			地球科学特論	2	講義		2			
			琉球諸語入門	2	講義	2				
			英詩研究	2	講義		2			
			English Business Communication	2	講義			2		
			スポーツ科学特論	2	講義			2		
			創造システム工学セミナー一般	2	講義	2		2		※学内で開催する教育技術講演会 ※1年又は2年で修得可
	修得単位数計			4		4				
	専 門 共 通 科 目	選 択	特別研究ⅠB	3	実験		3			2年次選択可 1か月：4単位 2か月：8単位 3か月：12単位 3単位以上 修得すること
			長期インターンシップ	4～12	実習	4～12				
			物理学特論	2	講義		2			
			数学通論	2	講義	2				
			応用解析学	2	講義			2		
			応用物理特論	2	講義	2				
			物理化学	2	講義			2		
バイオテクノロジー			2	講義		2				
バイオマス利用工学			2	講義		2				
品質・安全マネジメント特論			2	講義		2				
経営工学			2	講義			2			
グローバルインターンシップ	2	実習				2	1年次選択可			
創造システム工学セミナー専門	2～8	講義	2～8				2単位：30時間 4単位：60時間 6単位：90時間 8単位：120時間以上 ※連携企業・提携校で実施する講義			
修得単位数計			15		15					
修得単位数計			42		42					
開設単位数計			82		82					



	必修・ 選択の別	科目名	単位数	区分	学年別配当単位数				備考
					1年		2年		
					前期	後期	前期	後期	
専門科目	機械システム工学コース	材料学特論	2	講義	2				
		溶接・接合工学	2	講義			2		
		連続体力学	2	講義	2				
		材料強度学特論	2	講義			2		
		数値シミュレーションⅠ	2	講義		2			
		数値シミュレーションⅡ	2	講義			2		
		生産工学特論	2	講義		2			
		制御系構成論	2	講義		2			
		表面工学	2	講義				2	
		輸送現象論	2	講義	2				
		流体工学特論	2	講義	2				
		熱機関工学	2	講義	2				
		ロボット工学	2	講義				2	
	技術管理概論	2	講義				2		
	電子通信システム工学コース	シミュレーション工学	2	講義		2			
		数理計画法	2	講義		2			
		生体情報工学	2	講義			2		
		数値解析論	2	講義			2		
		信号処理特論	2	講義		2			
		アルゴリズム理論	2	講義				2	
		マイクロ波工学	2	講義	2				
		システムLSI設計工学	2	講義	2				
		光電子デバイス	2	講義	2				
		半導体物性工学	2	講義		2			
		弾性波工学	2	講義			2		
		電子機器工学	2	講義				2	
		情報工学コース	知能システム特論	2	講義			2	
	LSIプロセス工学		2	講義	2				
	情報数学		2	講義	2				
	メディアコンテンツ特論		2	講義		2			
	組込システム特論		2	講義	2				
	データ工学		2	講義		2			
	情報セキュリティ特論		2	講義			2		
	ソフトウェア開発特論		2	講義				2	
	計算機科学特論		2	講義	2				
	ロボティクス		2	講義			2		
	ヒューマンインタフェイス		2	講義			2		
	ネットワーク特論		2	講義		2			
	生物資源工学コース		システム制御工学	2	講義	2			
		画像処理特論	2	講義		2			
		デジタルフォレンジック	2	講義				2	
		プログラミング特論	2	講義			2		
		資源生物機能形態学	2	講義	2				
		分子生物学Ⅱ	2	講義	2				
		植物工学	2	講義				2	
無機化学		2	講義		2				
代謝生化学		2	講義			2			
応用微生物学		2	講義	2					
酵素化学		2	講義	2					
醸造学		2	講義		2				
生物資源の機能性科学		2	講義			2			
酸化ストレスの生命科学	2	講義		2					
タンパク質資源利用学	2	講義			2				
食品化学	2	講義		2					
食品機能学	2	講義				2			
他コースの選択科目									
選択	航空工学Ⅰ	2	講義	2					
	航空工学Ⅱ	2	講義	2					
	航空工学Ⅲ	2	講義			2			
	航空工学Ⅳ	2	講義				2		
修得単位計			20		20				
開設単位計			118		68	50			
修得単位計			62		62				
開設単位計			200		200				

※ 本校以外の教育施設で修得した単位を認めることがある

# 地域別入学者数

## 平成26年度～令和5年度

地区	出身市町村	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	計 Total	地区計
北部地区	国頭村	2	2				1	1			1	7	254
	大宜味村						1					1	
	大東村			1					1		1	4	
	今帰仁村	1		1	2	1	4	1	1	6		17	
	本部町	4	2	4	3	1	1	1	5	4	4	29	
	本名護市	13	14	11	22	19	10	10	14	16	23	152	
	宜野座村		2	1	1			1	1	1	3	10	
	金武町	2		3	1	1	1	1	2	1		12	
	伊江村								1	1		2	
	恩納村	1	4		3	2	1	1	2			14	
伊平屋村	1			1		1	1	1			5		
伊是名村										1	1		
中部地区	うるま市	14	15	15	12	8	12	12	11	11	12	122	585
	読谷村	7	7	7	4	7	6	8	8	9	8	71	
	嘉手納町	3	1	2		1	1		1	2	1	12	
	沖繩市	14	12	18	14	16	24	10	13	20	15	156	
	北谷町	2	2	2	4	3	1	1	2	1	4	22	
	宜野湾市	15	5	6	9	8	4	10	9	4	7	77	
	北中城村	1		1	1	1	2	2	1	4		13	
	中城村		2				2		1	2	3	10	
西原町	8	10	13	12	14	15	12	13	3	2	102		
那覇・浦添地区	浦添市	13	16	17	6	6	10	11	9	8	12	108	409
	那覇市	24	30	37	38	35	26	37	33	26	15	301	
南部地区	豊見城市	5	8	5	11	8	3	5	7	4	5	61	279
	糸満市	9	6	8	9	10	8	12	4	10	8	84	
	八重瀬町	2	2	1	2	5	3	3	6	5	5	34	
	南城市	5	8	4	3	7	2	4	2	5	4	44	
	与那原町	2	2		1	2	1		1		1	10	
	南風原町	3	8	3	4		1	3	6	5	7	40	
	久米島町				2						2	4	
	北大東村	1										1	
北渡嘉敷村	1										1		
宮古地区	宮古島市		2	2	3	3	5	5	3	3	3	29	29
八重山地区	石垣市	2	3	1	3	2	4	3	5	3	4	30	41
	竹富町	1	3		1					1	4	10	
	与那国町	1										1	
県内計		157	166	163	172	160	150	157	162	156	154	1,597	
県外	宮城県				1			1				2	71
	茨城県	1					1			1		3	
	群馬県				1			1				2	
	埼玉県					1	3	1		2		7	
	千葉県					1		1	2	2		6	
	東京都		1		1	1		1			2	6	
	神奈川県				1						1	2	
	岐阜県	1										1	
	愛知県	1										1	
	滋賀県							2	1	1		4	
	大阪府							1	1	1	1	4	
	兵庫県	1									1	2	
	奈良県					1					1	2	
	和歌山県	1										1	
	香川県								1			1	
	愛媛県							1				1	
	福岡県	2		1	1	1				1		6	
大分県							1		1		2		
佐賀県						3	1				4		
熊本県	1	1							1	1	4		
鹿児島県	2		1			3	1	2	1		10		
県外計		10	2	2	5	5	10	12	7	11	7	71	
国外	台湾						1					1	7
	タイ									3	3	6	
国外計		0	0	0	0	0	1	0	0	3	3	7	
合計		167	168	165	177	165	161	169	169	170	164	1,675	

※本科1年次入学者数

# 沖縄高専フォーラム(第10～18回)

	開催日	沖縄高専フォーラム
第10回	平成26年 11月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「沖縄成長産業戦略について」 内閣府沖縄総合事務局 経済産業部長 牧野 守邦</li> <li>「沖縄県の製造業の方向性」 株式会社トリム 代表取締役会長 新城 博</li> <li>「IT企業との連携によるこれからの展開について」 HAYABUSA 株式会社 代表取締役社長 麻生 佳哉</li> <li>「沖縄公庫の新事業創出促進出資制度について」 沖縄振興開発金融公庫 新事業育成出資室長 砂川 則夫</li> </ul>
第11回	平成27年 11月2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「沖縄高専の新しい取り組みについて」 沖縄工業高等専門学校長 安藤 安則</li> <li>「沖縄高専に期待すること」 沖縄工業高等専門学校産学連携協力会長 呉屋 守章</li> <li>「目指せ!ものづくり沖縄～産学連携と共に～」 株式会社沖縄 UKAMI 養蚕 代表取締役 仲宗根 豊一</li> <li>「水中ロボットにおける産学連携に向けて」 沖縄工業高等専門学校 機械システム工学科准教授 武村 史朗</li> </ul>
第12回	平成28年 11月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「海洋産業振興に向けた OFDM 水中音響通信技術の研究開発」 沖縄工業高等専門学校 メディア情報工学科講師 鈴木 大作</li> <li>「産学官連携による沖縄の河川観測監視システムの開発」 沖縄工業高等専門学校 メディア情報工学科教授 タンスリヤボン スリヨン</li> <li>「シマグワの機能性・商品化研究を通じた産学官連携事例の紹介」 沖縄工業高等専門学校 生物資源工学科教授 伊東 昌章</li> <li>「10年先を見据えた九州沖縄地区高専と産学官連携構想」 熊本高等専門学校 人間情報システム工学科教授 清田 公保</li> <li>「産学連携における知財の重要性」 日本弁理士会九州支部 高専委員会委員長 下田 正寛</li> </ul>
第13回	平成29年 11月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「水中可視光通信の未来」 株式会社沖縄海洋工機開発 代表取締役 上間 英樹</li> <li>「サーマルリサイクル設備の研究開発」 株式会社トマス技術研究所 取締役社長 福富 健仁</li> <li>「連携能力と知財管理」 日本弁理士会九州支部 沖縄県担当幹事 西平 守秀</li> <li>「沖縄産の桑(シマグワ)の血糖値上昇抑制効果ー産学官連携の研究成果ー」 沖縄工業高等専門学校 総合科学科講師 久米 大祐</li> <li>「我々の次世代型幹細胞大量培養装置が創る再生医療の近未来」 沖縄工業高等専門学校 生物資源工学科特命教授 千葉 俊明</li> </ul>
第14回	平成30年 10月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「沖縄におけるリサイクルの現状と展望(弊社の研究事例の報告)」 拓南商事株式会社 リサイクル事業部主任 名波 和幸</li> <li>「高専との研究連携に期待していること」 ティーエスプラント有限公司 代表取締役 友寄 喜隆</li> <li>「沖縄高専での産学連携による社会実装教育の実践」 沖縄工業高等専門学校 情報通信システム工学科准教授 神里 志穂子</li> <li>「沖縄高専における航空技術者育成の現状と展望」 沖縄工業高等専門学校 機械システム工学科教授 眞喜志 治</li> </ul>
第15回	令和元年 12月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「うちなーの翼として地域社会へ貢献するために」 日本トランスオーシャン航空株式会社 執行役員 コミュニケーション部門長 糸数 寛</li> <li>「高専のスケールメリットを積極的に活用した研究ネットワークの形成事例報告ー沖縄地区の低利用資源を用いた農地環境保全技術の開発に関する研究ー」 大分工業高等専門学校 教授 佐野 博昭</li> <li>「沖縄公庫の取組みについてー産学官金連携による新事業創出促進支援の紹介ー」 沖縄振興開発金融公庫 新事業育成出資室長 當間 直治</li> <li>「浦添市と沖縄工業高等専門学校の連携協定からの歩みについて」 浦添市長 松本 哲治</li> </ul>

	開催日	沖縄高専フォーラム
第16回	令和2年 12月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「沖縄高専の歩み～コロナ禍での進化・適応」 沖縄工業高等専門学校長 伊原 博隆</li> <li>・「リゾートホテルにおける Workation」 カヌチャリゾート 取締役 セールス &amp; マーケティング部長 瑞慶山 勇一</li> <li>・「テレワーク/ワーケーションの推進について～コロナ禍で変化する働き方～」 内閣府沖縄総合事務局 経済産業部長 本道 和樹</li> </ul>
第17回	令和3年 12月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会で求められる DX の重要性や取り組み方」 一般社団法人 沖縄 IT イノベーション戦略センター アクセラレーションセクション セクションマネージャー 兼村 光</li> <li>・「GEAR5.0 防災減災防疫の研究・教育」 沖縄工業高等専門学校 生物資源工学科教授 池松 真也</li> <li>・「学生コンテストを活用した教育」 沖縄工業高等専門学校 情報システム工学科准教授 中平 勝也</li> </ul>
第18回	令和4年 12月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新たな教育プログラムをスタートさせる意義について」 沖縄工業高等専門学校 副校長（総務・教育・入試担当） 眞喜志 治</li> <li>・「XR 観光コンテンツ + メタバースに関連する DX 人材育成と実証」 I-PEX 株式会社沖縄イノベーションセンター 釘宮 雄一 沖縄工業高等専門学校 情報通信システム工学科教授 山田 親稔</li> <li>・「沖縄セルラーのアグリ事業 新規事業から地域課題解決までの軌跡」 沖縄セルラーアグリ &amp; マルシェ株式会社 執行役員常務 加賀 武史</li> <li>・「DX 実験ホテル「タップホスピタリティラボ沖縄」の概要」 株式会社タップ 代表取締役会長兼社長 林 悦男</li> </ul>



## 歴代産学連携協力会長

代	任 期	会長名
1	平成 16 年 4 月 22 日～平成 22 年 4 月 22 日	島 袋 周 仁
2	平成 22 年 4 月 22 日～平成 27 年 6 月 10 日	湧 川 昌 秀
3	平成 27 年 6 月 11 日～令和 元年 5 月 31 日	呉 屋 守 章
4	令和 元年 6 月 1 日～	古波津 昇

※会長は、会員のうちから総会において選出される。  
また、公益社団法人沖縄県工業連合会の会長に準ずる。

## 歴代後援会長

代	任 期	会長名
1	平成 16 年 4 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日	喜 納 隆
2	平成 18 年 9 月 30 日～平成 20 年 4 月 5 日	中之蘭 昭 一
3	平成 20 年 4 月 5 日～平成 22 年 5 月 15 日	宮 城 秋 夫
4	平成 22 年 5 月 15 日～平成 23 年 5 月 14 日	石 垣 克 夫
5	平成 23 年 5 月 14 日～平成 25 年 4 月 27 日	中 本 正 泰
6	平成 25 年 4 月 27 日～平成 28 年 5 月 28 日	大 濱 安 典
7	平成 28 年 5 月 28 日～平成 30 年 6 月 2 日	森 脇 雅 佳
8	平成 30 年 6 月 2 日～令和 3 年 5 月 30 日	崎 山 敏 雅
9	令和 3 年 5 月 30 日～令和 5 年 3 月 31 日	飯 塚 悟
10	令和 5 年 4 月 1 日～	村 田 光 伸

※会長は、顧問を除く役員のうちから理事会において選出される。

# 歴代教職員一覧 (50音順)

校 長	
現 校 長	佐藤 貴哉
初代校長	糸村 昌祐
2代校長	伊東 繁
3代校長	安藤 安則
4代校長	伊原 博隆

教 職 員	
相川 洋平	(情報通信システム工学科)
青木 久美	(総合科学科)
青柳 亮吾	(事務部)
赤嶺 宗子	(機械システム工学科)
赤嶺 雅哉	(事務部)
安里 健太郎	(機械システム工学科)
姉崎 隆	(メディア情報工学科)
網谷 厚子	(総合科学科)
新垣 友実	(事務部)
新川 智清	(総合科学科)
新田 保敏	(技術支援室)
飯島 淑江	(総合科学科)
飯田 智行	(総合科学科)
井口 亮	(生物資源工学科)
池原 智子	(事務部)
池松 真也	(生物資源工学科)
池村 祐亮	(事務部)
伊佐 正樹	(事務部)
伊佐 泰子	(事務部)
伊地 信人	(事務部)
石川 清史	(事務部)
石川 洋次郎	(事務部)
石田 修己	(情報通信システム工学科)
石原 昌華	(事務部)
磯村 尚子	(生物資源工学科)
射手矢 涼子	(事務部)
伊東 昌章	(生物資源工学科)
糸数 康	(事務部)
糸洲 学	(事務部)
糸洲 佑紀	(事務部)
稲福 太一	(事務部)
稲福 真	(事務部)

稲嶺 徳秀	(事務部)
伊波 俊雄	(事務部)
伊波 靖	(メディア情報工学科)
今井 智絵	(日本語・日本文化教育センター)
今村 文昭	(事務部)
上江洲 敦	(事務部)
上江洲 佳奈	(技術支援室)
上江洲 賢伍	(事務部)
上江洲 成雄	(事務部)
上原 恵美	(事務部)
内山 亮	(事務部)
浦崎 清伸	(事務部)
運天 誠	(事務部)
大石 敏広	(総合科学科)
大里 祥子	(事務部)
大城 登樹子	(事務部)
大城 林	(事務部)
大城 光雄	(事務部)
太田 佐栄子	(メディア情報工学科)
大貫 龍哉	(航空技術者プログラム)
大野 良和	(生物資源工学科)
大嶺 千代美	(事務部)
大嶺 幸正	(技術支援室)
尾方 亮日	(事務部)
緒方 勇太	(総合科学科)
沖田 紀子	(生物資源工学科)
荻野 正	(情報通信システム工学科)
奥田 篤士	(メディア情報工学科)
奥間 多江子	(事務部)
小渡 志保子	(事務部)
折尾 信幸	(事務部)
カ-マンマアケイカニ	(総合科学科)
嘉数 絵都子	(事務部)
嘉数 悠	(事務部)
賀数 幸隆	(事務部)
鹿川 和美	(事務部)
我喜屋 千晶	(事務部)
河西 愛次	(事務部)
春日 透	(事務部)
片山 鮎子	(総合科学科)

金谷 辰昭	(事務部)
兼城 千波	(情報通信システム工学科)
神里 志穂子	(情報通信システム工学科)
神谷 隆彦	(事務部)
神谷 優樹	(事務部)
神山 勝	(事務部)
亀井 耕治	(事務部)
亀濱 博紀	(情報通信システム工学科)
嘉陽 司	(事務部)
河崎 正昌	(事務部)
川満 信男	(事務部)
河本 絵美	(生物資源工学科)
喜久川 大樹	(事務部)
岸本 智	(事務部)
喜瀬 慎一郎	(事務部)
北上 丈夫	(事務部)
儀保 健太	(技術支援室)
儀間 響也	(事務部)
木村 和雄	(総合科学科)
許田 正勝	(事務部)
金城 篤史	(メディア情報工学科)
金城 伊智子	(情報通信システム工学科)
金城 邦光	(事務部)
金城 貴夫	(事務部)
金城 秀亮	(技術支援室)
金城 桃子	(事務部)
具志 孝	(技術支援室)
久高 友大	(事務部)
工藤 雄博	(生物資源工学科)
久保田 隆弘	(事務部)
久米 大祐	(総合科学科)
藏屋 英介	(技術支援室)
栗延 敏徳	(事務部)
黒木 祐弥	(事務部)
小池 寿俊	(総合科学科)
古賀 義伸	(事務部)
古謝 有紗	(事務部)
古謝 久美子	(事務部)
小橋川 秀太	(技術支援室)
小早川 倫広	(メディア情報工学科)

小林 央季 (事務部)  
齋藤 洋史 (事務部)  
佐加伊 裕也 (事務部)  
坂下 和也 (事務部)  
崎原 正志 (総合科学科)  
崎原 航 (事務部)  
崎山 英樹 (事務部)  
佐久真 亮 (事務部)  
佐竹 卓彦 (技術支援室)  
佐藤 進 (航空技術者プログラム)  
佐藤 尚 (メディア情報工学科)  
座波 世一 (事務部)  
サビケ 理奈 (日本語・日本文化教育センター)  
澤井 万七美 (総合科学科)  
三宮 一幸 (生物資源工学科)  
塩屋 仁史 (事務部)  
志堅原 智代 (事務部)  
島尻 真理子 (総合科学科)  
島袋 朝輝 (事務部)  
下郡 剛 (総合科学科)  
下嶋 賢 (機械システム工学科)  
松露 真 (総合科学科)  
白石 博伸 (技術支援室)  
白幡 大樹 (技術支援室)  
城間 弘充 (事務部)  
城間 義尚 (事務部)  
新里 牧 (事務部)  
神馬 真裕 (事務部)  
末吉 知恵美 (事務部)  
杉本 和英 (情報通信システム工学科)  
鈴木 極 (事務部)  
鈴木 大作 (メディア情報工学科)  
鈴木 龍司 (情報通信システム工学科)  
砂川 沙也香 (事務部)  
角田 キャティー (総合科学科)  
角田 正豊 (メディア情報工学科)  
瀬底 亜希子 (事務部)  
平良 碧 (事務部)  
平良 淳誠 (生物資源工学科)  
平良 直人 (事務部)

平良 喜彦 (事務部)  
高江洲 哉子 (事務部)  
高江洲 文枝 (事務部)  
高江洲 みな子 (事務部)  
高木 茂 (情報通信システム工学科)  
高野 良 (生物資源工学科)  
高原 綾子 (総合科学科)  
高嶺 司 (総合科学科)  
高山 大介 (事務部)  
高良 秀彦 (情報通信システム工学科)  
滝 雅士 (総合科学科)  
田口 学 (航空技術者プログラム)  
武田 ひとみ (総合科学科)  
武村 クニ子 (事務部)  
武村 史朗 (機械システム工学科)  
嶽本 あゆみ (生物資源工学科)  
多田 千佳 (生物資源工学科)  
田中 克也 (事務部)  
田中 徹 (事務部)  
田中 瞳 (事務部)  
田中 博 (生物資源工学科)  
田仲 康克 (事務部)  
田中 隆治 (事務部)  
棚原 淳治 (事務部)  
棚原 盛行 (事務部)  
田邊 俊朗 (生物資源工学科)  
谷藤 正一 (情報通信システム工学科)  
玉城 梓 (日本語・日本文化教育センター)  
玉城 龍洋 (メディア情報工学科)  
玉城 均 (事務部)  
玉城 守 (事務部)  
玉城 康智 (生物資源工学科)  
玉城 佳世子 (事務部)  
多和田 真利 (事務部)  
タスリヤボン スリヨン (メディア情報工学科)  
知念 幸勇 (情報通信システム工学科)  
知念 直紹 (総合科学科)  
知念 芳和 (事務部)  
千葉 俊明 (生物資源工学科)  
知花 恭史 (事務部)

津波 諒磨 (事務部)  
津曲 裕理 (事務部)  
津村 卓也 (機械システム工学科)  
釣 健孝 (技術支援室)  
出村 千恵子 (事務部)  
照屋 ひとみ (事務部)  
當間 栄作 (メディア情報工学科)  
渡嘉敷 由紀子 (事務部)  
渡久地 政音 (事務部)  
渡久地 政信 (事務部)  
鳥羽 弘康 (機械システム工学科)  
富澤 淳 (機械システム工学科)  
富田 和宏 (事務部)  
豊川 雅喜 (事務部)  
中尾 卓嗣 (技術支援室)  
永澤 健 (総合科学科)  
仲宗根 明 (事務部)  
仲宗根 勉 (事務部)  
仲地 善則 (事務部)  
中平 勝也 (情報通信システム工学科)  
仲間 祐貴 (メディア情報工学科)  
中村 有沙 (事務部)  
中村 絵理子 (事務部)  
仲村 紀世乃 (事務部)  
仲村 剛 (事務部)  
中村 範章 (事務部)  
中本 正一郎 (機械システム工学科)  
仲山 晋一 (事務部)  
名嘉山 リサ (総合科学科)  
名城 道広 (事務部)  
成底 和浩 (事務部)  
成田 誠 (総合科学科)  
縄田 俊則 (メディア情報工学科)  
南部 元義 (事務部)  
西原 盛浩 (事務部)  
西村 篤 (メディア情報工学科)  
野口 修 (事務部)  
野口 健太郎 (情報通信システム工学科)  
野崎 絵理子 (事務部)  
野崎 真也 (情報通信システム工学科)

野島 千代子 (事務部)	真志喜 得永 (事務部)	山田 親稔 (情報通信システム工学科)
野原 茂 (事務部)	益田 鮎子 (事務部)	山本 寛 (総合科学科)
バイティガ ザカリ (メディア情報工学科)	増永 誠 (事務部)	屋良 朝康 (技術支援室)
萩野 航 (生物資源工学科)	松栄 準治 (機械システム工学科)	吉居 啓輔 (総合科学科)
畑 亮次 (技術支援室)	松川 由佳 (事務部)	吉井 りさ (総合科学科)
畑添 壮一 (技術支援室)	松田 昇一 (機械システム工学科)	吉川 三四郎 (事務部)
鉢嶺 元安 (事務部)	松林 勝志 (情報通信システム工学科)	吉川 友子 (留学生交流促進センター)
花城 宗一郎 (技術支援室)	真鍋 幸男 (機械システム工学科)	吉田 竜也 (事務部)
濱田 泰輔 (生物資源工学科)	三浦 敬 (総合科学科)	吉永 文雄 (機械システム工学科)
早坂 勇二 (事務部)	水野 正志 (メディア情報工学科)	吉原 安久 (事務部)
比嘉 修 (技術支援室)	三枝 隆裕 (生物資源工学科)	与那覇 明弘 (事務部)
比嘉 勝也 (情報通信システム工学科)	宮城 桂 (情報通信システム工学科)	與那嶺 尚弘 (メディア情報工学科)
比嘉 桂 (事務部)	宮城 智香 (事務部)	與那嶺 岳也 (事務部)
比嘉 光一 (事務部)	宮城 元 (総合科学科)	渡邊 一成 (事務部)
比嘉 聖 (メディア情報工学科)	宮城 美佐枝 (事務部)	渡邊 謙太 (技術支援室)
比嘉 信 (事務部)	宮城 佑造 (事務部)	和多野 大 (総合科学科)
比嘉 隆幸 (事務部)	宮里 授 (事務部)	渡利 正弘 (総合科学科)
比嘉 千代子 (事務部)	宮里 淳子 (事務部)	
比嘉 道也 (事務部)	宮里 慎吾 (事務部)	
比嘉 康夫 (事務部)	宮田 恵守 (機械システム工学科)	
比嘉 佑希 (事務部)	宮成 隆明 (事務部)	
比嘉 吉一 (機械システム工学科)	宮平 憲太 (事務部)	
平山 けい (生物資源工学科)	宮藤 義孝 (技術支援室)	
福村 卓也 (生物資源工学科)	宮良 信作 (事務部)	
福本 明香音 (事務部)	宮良 長吾 (事務部)	
藤井 知 (情報通信システム工学科)	宮良 透 (事務部)	
藤田 優子 (事務部)	村山 裕子 (生物資源工学科)	
藤元 高德 (事務部)	室溪 浩 (事務部)	
藤本 教寛 (総合科学科)	銘苅 真理 (事務部)	
藤山 瞳 (事務部)	望月 謙二 (総合科学科)	
古屋 淳 (総合科学科)	森澤 征一郎 (機械システム工学科)	
星野 恵里子 (総合科学科)	森田 正亮 (総合科学科)	
前里 桂吾 (事務部)	森山 喜代美 (事務部)	
前田 恵里奈 (事務部)	屋宜 俊介 (事務部)	
前山 由香里 (事務部)	屋宜 直行 (事務部)	
眞喜志 睦 (事務部)	安田 直子 (生物資源工学科)	
眞喜志 治 (機械システム工学科)	山内 祥之 (総合科学科)	
眞喜志 隆 (機械システム工学科)	山城 達也 (事務部)	
政木 清孝 (機械システム工学科)	山城 光 (機械システム工学科)	
正木 忠勝 (メディア情報工学科)	山城 秀之 (生物資源工学科)	



# 歴代推奨機(ノートパソコン)一覧

## 第1期生(平成16年度)



## 第2期生(平成17年度)



## 第3期生(平成18年度)



※画像は R60e を使用

※画像は R60e を使用

メーカー	HP	IBM	IBM
機種名	nx5000	ThinkPad R50e	ThinkPad R52
CPU	Celeron M (1.2GHz)	Pentium M (1.5GHz)	Pentium M (1.7GHz)
HDD・SSD	30GB	40GB	40GB
メモリ	256MB	512MB	512MB
Windows OS	Windows XP	Windows XP	Windows XP
重量 (kg)	2.5 kg	2.9kg	3.0kg
価格	191,100 円	186,165 円	186,060 円
コメント	3時間以上バッテリー稼働ができること、無線 LAN が使えること、プロジェクタ接続用の VGA 出力が搭載されていることを条件に機種を選定を行った。しかし、ヒンジの強度不足による破損が多発した。	IBM 社製 ThinkPad。メモリは倍化し、512MB となった。前年度のトラブルより堅牢制を重視した選定となった。	無線 LAN の相性問題が発生した。全台ファームウェア更新を行った。

## 第4期生(平成19年度)



## 第5期生(平成20年度)



## 第6期生(平成21年度)



※画像は R60e を使用

メーカー	Lenovo	Lenovo	HP
機種名	ThinkPad R60e	ThinkPad T61	Compac 6730s/CT
CPU	Celeron M (1.6GHz)	Core2Duo (2GHz)	Celeron (1.66GHz)
HDD・SSD	60GB	80GB	160GB
メモリ	512MB	1GB	2GB
Windows OS	Windows XP	Windows Vista	Windows Vista
重量 (kg)	3.1 kg	2.3 kg	2.7 kg
価格	156,870 円	166,950 円	98,910 円
コメント	PC の販売価格が安くなった。	CPU 性能を重視し初の 2 コア CPU を採用した。また、初の横長画面となった。OS も Windows XP から Vista へと変更された。導入後に搭載メモリの容量不足が発生し、希望者に対して増設メモリの販売を行った。	Vista を快適に動作させるためメモリ量を増やしつつ学習用途として支障のない範囲で CPU 性能を抑えた選定とした。価格を抑える目的で Microsoft 社の Office を沖縄高等による包括ライセンス契約を締結することで 10 万円を切る価格となった。価格を抑えるためにディスプレイサイズが 15.4 インチと大きくなったこともあり携帯性に不便を感じるとの意見も多かった。

### 第7期生（平成22年度）



### 第8期生（平成23年度）



### 第9期生（平成24年度）



メーカー	Toshiba	Toshiba	Dell
機種名	Dynabook SS M60	Dynabook R730	Latitude E6220
CPU	Celeron (2.2GHz)	Core i3 (第1世代)	Core i3 (第2世代)
HDD・SSD	160GB	500GB	320GB
メモリ	3GB	4GB	4GB
Windows OS	Windows 7	Windows 7	Windows 7
重量 (kg)	2.3 kg	1.48 kg	1.61 kg
価格	115,080 円	105,945 円	93,555 円
コメント	前年度の学生意見を踏まえディスプレイサイズを13.3インチと携帯性を重視したモデルを採用した。この年代よりOSをWindows 7に更新し、OSとOfficeは高専機構契約の包括ライセンスを用いた。また、本体カラーには白色を選定し、カジュアルなPCバッグを付属しお洒落な販売構成になった。	さらなる携帯性の向上のため、重量が2キロ以下となるように選定をした。CPUにはCore i3、HDD容量も500GBとし基本性能も向上させた。反面、HDD容量の増加にともない修理時のバックアップ時間が増加するなどサポート面での負担が増えることとなった。	昨年度の課題を踏まえHDD容量を支障のない範囲で抑えた。このためバックアップ用にUSBメモリを付属し日頃のデータバックアップの習慣を教育した。PCの価格が安くなった。

### 第10期生（平成25年度）



### 第11期生（平成26年度）



### 第12期生（平成27年度）



メーカー	Lenovo	Toshiba	Lenovo
機種名	ThinkPad X230i	Dynabook R734	ThinkPad X240
CPU	Core i3 (第3世代)	Core i3 (第4世代)	Core i3 (第4世代)
HDD・SSD	128GB (SSD)	128GB (SSD)	128GB (SSD)
メモリ	8GB	4GB	4GB
Windows OS	Windows 7	Windows 8.1	Windows 8.1
重量 (kg)	1.48 kg	1.16 kg	1.40 kg
価格	85,837 円	107,625 円	109,944 円
コメント	初のSSD搭載モデルとなり、メモリの容量も増加したが、販売会社の企業努力により販売価格を抑えることができた。	バックアップ用として付属していたUSBメモリが常用可していたこともあり、USBメモリを2本に増やした。	搭載されたSSDの部品に不良があり、PCが起動しなくなる等の不具合が多発した。全台数のSSD交換を行い不具合は解消された。

第13期生（平成28年度）



第14期生（平成29年度）



第15期生（平成30年度）



メーカー	Toshiba	Toshiba	Lenovo
機種名	Dyanbook R73/T	Dynabook RX73	ThinkPad 13
CPU	Core i3（第6世代）	Core i5（第7世代）	Core i5（第7世代）
HDD・SSD	256GB（SSD）	256GB（SSD）	256GB（SSD）
メモリ	4GB	8GB	8GB
Windows OS	Windows 10Pro	Windows 10 Pro	Windows 10 Pro
重量（kg）	1.18kg	1.32kg	1.44kg
価格	117,990円	117,990円	132,342円
コメント	初のWindows10。SSD容量が2倍になった。	初の赤色PC。メモリは標準で8GBとなった。さらに、CPUは初のCorei5となった。	部材共有不足により、PCの納品遅延があった。

第16期生（平成31年度・令和元年度）



第17期生（令和2年度）



第18期生（令和3年度）



メーカー	Fujitsu	Fujitsu	Fujitsu
機種名	LIFEBOOK SH75/C3	LIFEBOOK SH75/D3	LIFEBOOK UH08/E3
CPU	Core i5（第8世代）	Core i5（第8世代）	Core i3（第11世代）
HDD・SSD	256GB（SSD）	256GB（SSD）	256GB（SSD）
メモリ	8GB	8GB	8GB
Windows OS	Windows 10 Pro	Windows 10 Pro	Windows 10 Pro
重量（kg）	1.18kg	1.18kg	0.8kg
価格	136,340円	138,430円	125,100円
コメント	大学生向けのキャンパスモデルとなり、メーカー標準保証が4年ついた機種となった。	新型コロナの影響により新入生が登校できずPCの引き渡しが1ヶ月遅れた。マニュアル等と併せて自宅へ発送し、遠隔にて初期設定と導入教育を実施した。	PCの重量が1kgを切り薄くて軽いPCとなった。

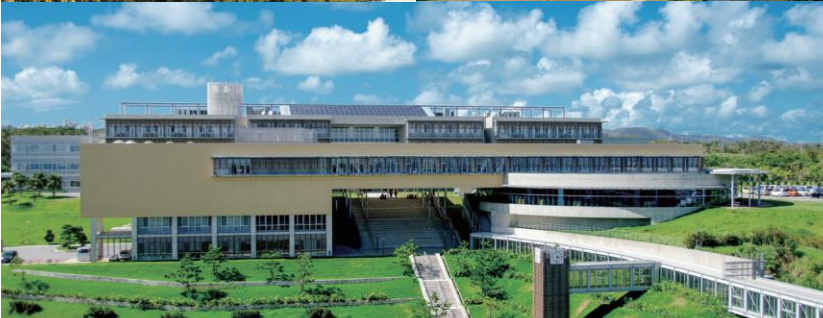
第19期生（令和4年度）

第20期生（令和5年度）



メーカー	Dynabook	Dynabook
機種名	Dynabook MJ54/HS	Dynabook MJ64/KV
CPU	Core i3（第11世代）	Core i5（第12世代）
HDD・SSD	512GB（SSD）	512GB（SSD）
メモリ	8GB	8GB
Windows OS	Windows 10 Pro	Windows 11 Pro
重量（kg）	1.47kg	1.38kg
価格	123,750円	136,950円
コメント	PCの重量は少し重くなったが、丈夫なモデルになった。	インテル第12世代CPU採用により、Pコア2 Eコア8の合計10コアとなった。また、初のWindows11採用機となった。





# 第7章

沖縄工業高等専門学校創立20周年

Memories of students

笑顔と涙、冒険と感激の瞬間がここに

## 学生の思い出を写真で

平成26年度～令和4年度

■学生活動の写真





National Institute of Technology, Okinawa College  
20th Anniversary





National Institute of Technology, Okinawa College  
20th Anniversary









National Institute of Technology, Okinawa College  
20th Anniversary





National Institute of Technology, Okinawa College  
20th Anniversary





National Institute of Technology, Okinawa College  
20th Anniversary





National Institute of Technology, Okinawa College  
20th Anniversary





National Institute of Technology, Okinawa College  
20th Anniversary





同窓会提供 ①・②1期生 ③・④3期生 ⑤・⑥11期生

National Institute of Technology, Okinawa College  
20th Anniversary

## ■ 編集後記 ■

### 小池 寿俊

(記念誌専門部会長・総合科学科教授)

20周年記念誌もようやく完成が近づいています。お忙しい中、ご祝辞や原稿、資料をお寄せいただいた皆様には心より御礼申し上げます。10周年記念誌発行後の10年は、コロナ禍の4年があったためか、私にとってなんとなくモヤがかかっていたような気がします。晴れつつあるいま、10年前と比べて沖縄高専の景色も変わったようです。次の10年後、20年後、どのような景色が見られるのか、N周年記念誌(N=30、40、…)を心から楽しみにしています。最後になりましたが、記念誌部会の皆様、とりわけ前現図書係の皆様には御礼申し上げます。皆様のアイデアや熱意、真摯な編集作業なしに記念誌は完成することはありませんでした。本当にありがとうございました。

### 森澤 征一郎 (機械システム工学科准教授)

20周年記念誌に関わるにあたって、多くの教職員と学生が本校に携わり、巣立っていったのだと改めて実感しました。そして、自身も次の10周年に向けて本校に携わる皆さんと何ができるのか、日々模索していければと思います。

### 田中 瞳 (総務課図書係)

創立20周年記念誌の編集担当となり、寄稿依頼から編集作業まで短い期間でしたが、無事記念誌を発行できたことに安堵の気持ちを感じます。この記念誌は、主にこの10年間に焦点を当てたものとなっていますので、ぜひ付録の「創立10周年記念誌」もご覧いただき、新たな発見と懐かしさがある一冊となれば幸いです。

最後に、お忙しい中原稿作成、資料提供にご協力いただいた皆様には心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

### 安里 健太郎

(校長特別補佐(20周年事業担当)・機械システム工学科教授)

赴任してから13年目に沖縄高専創立20周年記念を迎えることができました。創立10周年記念のときは一教員として参加するだけでしたが、今回は20周年記念担当の校長特別補佐という大役を任せられ、不慣れな中、大変なことも多かったです。しかしながら、この記念誌編纂も含め、多くの皆さまのご協力のもと、何とかやり遂げることができました。この場を借りて皆さまに御礼申し上げます。ありがとうございました。

### 比嘉 信

(総務課)

10周年記念誌から2回連続で編纂に関わることが出来ました。

記念誌専門部会規則の作成から開始されました。部会作成後は、部会員の先生方からのご意見を賜り、誌面編纂を開始した。頂いた意見の全を受け止めることが出来なかった。このことについて今後の課題となった。

今回の入札は、十年前の「価格による入札」ではなく、「企画提案を要する公募方式」とした。これにより、デザイン能力や業者の業務の実施体制も考慮要因となった。

時代柄、電子的な記念誌も意見が上がったが、今回は紙媒体とすることにより、写真の掲載許可(特に学生)について、差し支えが出にくくなったものと考えている。

30周年記念誌時にも、学校の体制に併せた入札方式が必要になると考えられる。後任の担当者におかれましては、よりよい誌面作成を祈念しております。

長くなりましたが、記念誌はもとより、この20年間沖縄高専に関わった学生・教職員の皆様に感謝いたします。

これからも沖縄高専の繁栄と多幸を願っております。

## 創立20周年記念事業企画運営委員会記念誌専門部会

小池 寿俊(教授)

森澤 征一郎(准教授)

亀濱 博紀(准教授)

玉城 龍洋(教授)

磯村 尚子(教授)

澤井 万七美(准教授)

高良 秀彦(教授)

大嶺 幸正(技術専門職員(主査))

齋藤 洋史(総務課長)

高江洲 哉子(学生課長心得)

安里 健太郎(教授)





独立行政法人 国立高等専門学校機構  
沖縄工業高等専門学校

## 創立20周年記念誌

National Institute of Technology, Okinawa College  
20th Anniversary

---

2024(令和6)年3月31日 発行

---

[編集・発行]

沖縄工業高等専門学校

〒905-2192 沖縄県名護市字辺野古905  
TEL:0980-55-4003 FAX:0980-55-4012

[印刷]

株式会社 国際印刷

〒901-0147 沖縄県那覇市宮城1-13-9  
TEL:098-857-3385(代)

---

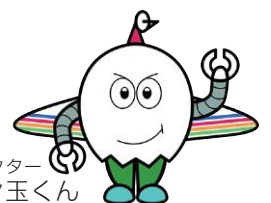




National Institute of Technology, Okinawa College  
20th Anniversary



独立行政法人 国立高等専門学校機構  
**沖縄工業高等専門学校**  
National Institute of Technology, Okinawa College



沖縄高専公式キャラクター  
エン玉くん